

政京名圖

撰部研繪



特 59 1

坐觀  
勝名



南畦



京都古本會

口



凡例

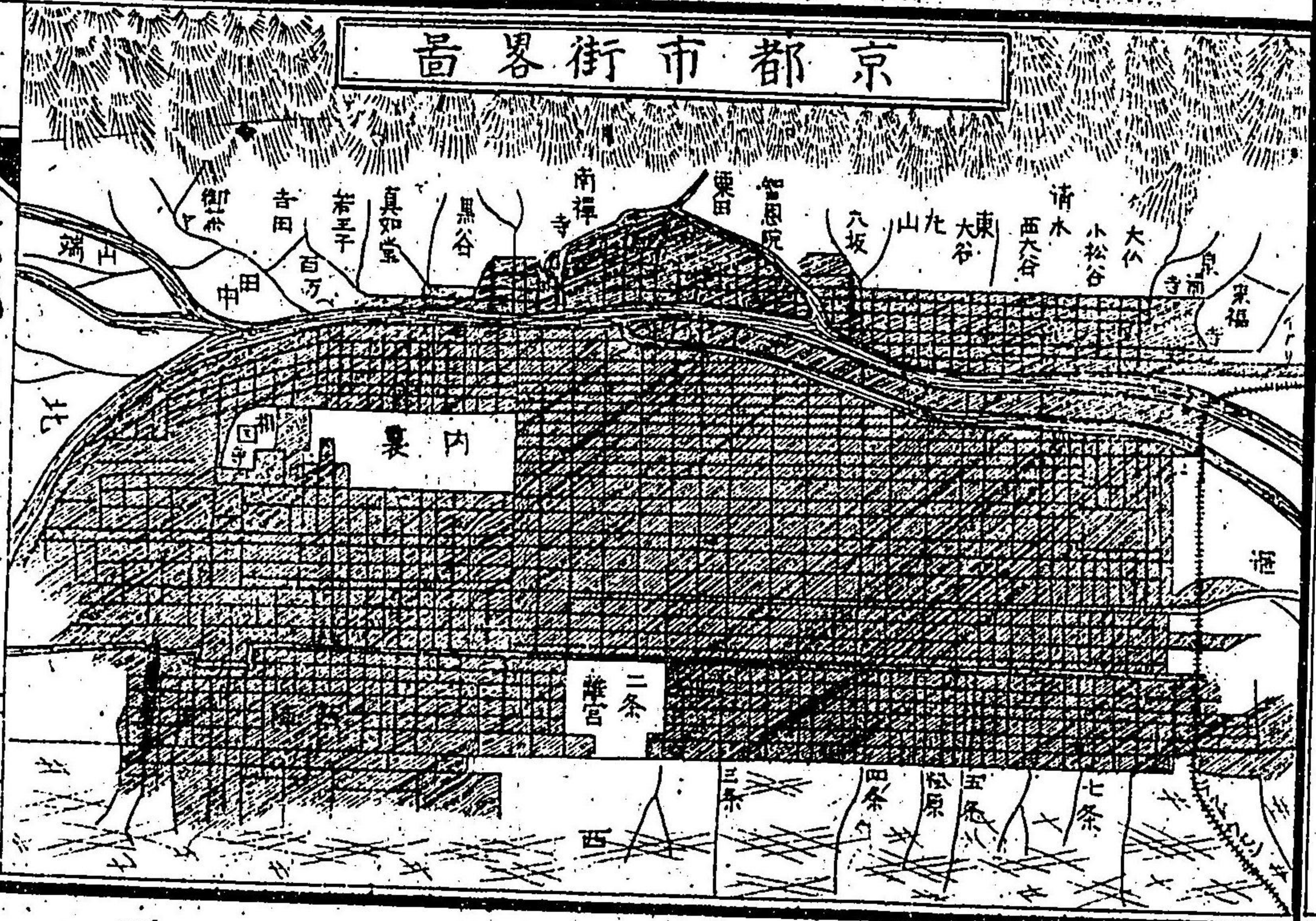
一此編ハ皇居離宮等をとりめ  
 神社佛閣の佳境及び山川の  
 美景等を摸寫して舊記の大  
 畧をとりぬるがごとく名所古蹟  
 を知るの便益を供す

一洛中洛外より著名ある所の有名の  
 古額書画林泉茶室等枚舉を  
 遺あるに其最著名ありとのせし  
 を舉ぐ看客之を諒しめんと  
 するにあり

明治廿五年四月

編者 志村

京都都市畧圖

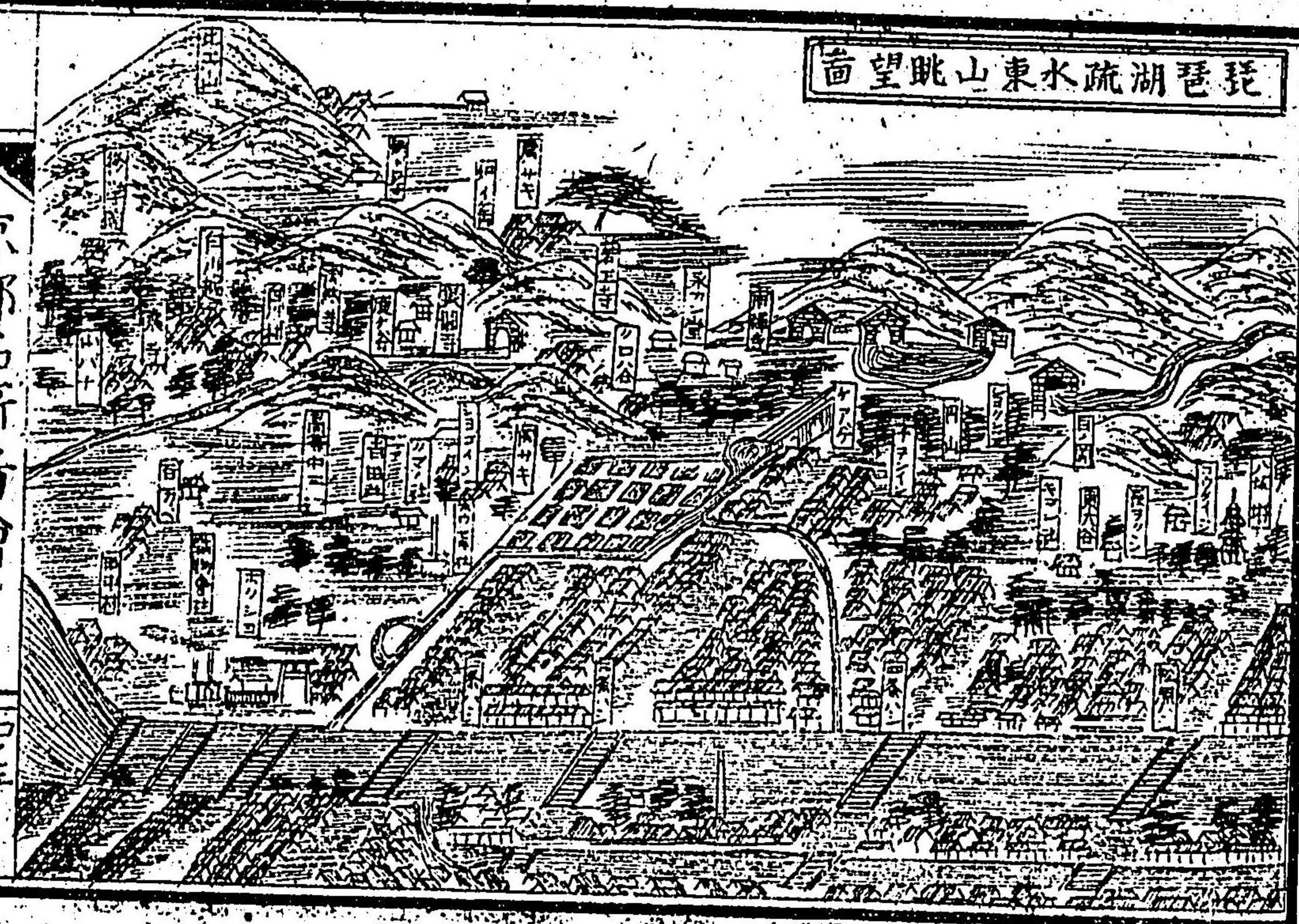


京都名所圖會

ロニ



琵琶湖疏水東山眺望圖



京都外司會

三〇三



京都外司會







東 京 野 極 野 極 野 極 野 極	新 野 極 野 極 野 極	熊 野 極 野 極 野 極	聖 護 如 野 極 野 極	真 護 如 野 極 野 極	黒 子 觀 野 極 野 極	若 王 子 觀 野 極 野 極	永 觀 野 極 野 極	大 極 野 極 野 極	南 極 野 極 野 極	植 髮 野 極 野 極	智 恩 野 極 野 極	八 坂 野 極 野 極	六 角 野 極 野 極	内 樂 野 極 野 極	長 大 野 極 野 極	東 林 野 極 野 極	双 林 野 極 野 極	高 臺 野 極 野 極	八 坂 野 極 野 極	小 松 野 極 野 極	兩 願 野 極 野 極	清 水 野 極 野 極	西 大 野 極 野 極	耳 大 野 極 野 極	大 方 野 極 野 極	豐 國 野 極 野 極	三 十 野 極 野 極	今 野 野 野 野 野 野	泉 野 野 野 野 野 野	東 福 野 野 野 野 野 野	
寺	通	社	院	堂	谷	社	堂	殿	寺	堂	院	社	堂	山	寺	谷	寺	寺	塔	谷	寺	谷	塚	寺	社	堂	堂	堂	寺	寺	
一	二	月	月	廿	廿	十六	十六	廿	廿	月	月	八	七	十	十	十	十	十	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
リ	丁	半	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁
京	八	大	神	御	五	仏	因	六	摩	建	祇	四	電	郵	島	東	停	大	西	二	華	下	中	梨	護	療	百	銀	吉		
都	坂	神	宮	影	茶	光	幡	波	羅	利	園	茶	信	便	原	本	車	教	本	二	下	中	梨	護	療	百	銀	吉	田		
織	神	宮	影	茶	光	幡	波	羅	利	園	茶	信	便	原	本	車	教	本	二	下	中	梨	護	療	百	銀	吉	田	神		
物	社	宮	影	茶	光	幡	波	羅	利	園	茶	信	便	原	本	車	教	本	二	下	中	梨	護	療	百	銀	吉	田	神		
會	社	宮	影	茶	光	幡	波	羅	利	園	茶	信	便	原	本	車	教	本	二	下	中	梨	護	療	百	銀	吉	田	神		
社	所	院	會	堂	橋	寺	師	天	寺	地	橋	局	局	里	寺	場	枝	寺	宮	堂	社	校	社	社	院	通	寺	社	社		
廿	六	月	七	月	八	十	十	九	月	六	五	四	月	八	一	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁

大谷派本願寺

東六條あり



大谷派本願寺八開山より第十一世顕如上人の  
 編子教如上人慶長七年徳川家康公の台命を  
 蒙り六町四方の寺地を賜り新御堂を營



東本願寺御門跡と稱し宗祖より十二世の血脈を相續す本堂ハ見真大師自作の像を安置す坐像也して長二尺五寸餘之此尊像もめハ上州厩橋妙安寺あり台命よりて當寺よりつす○堂宇ハ元治の兵燹よりく焼失せしを以て其後再建し着手し本堂ハ略落成す實ハ宏大なるものありて目を驚かす

本願寺

堀川松原の南あり

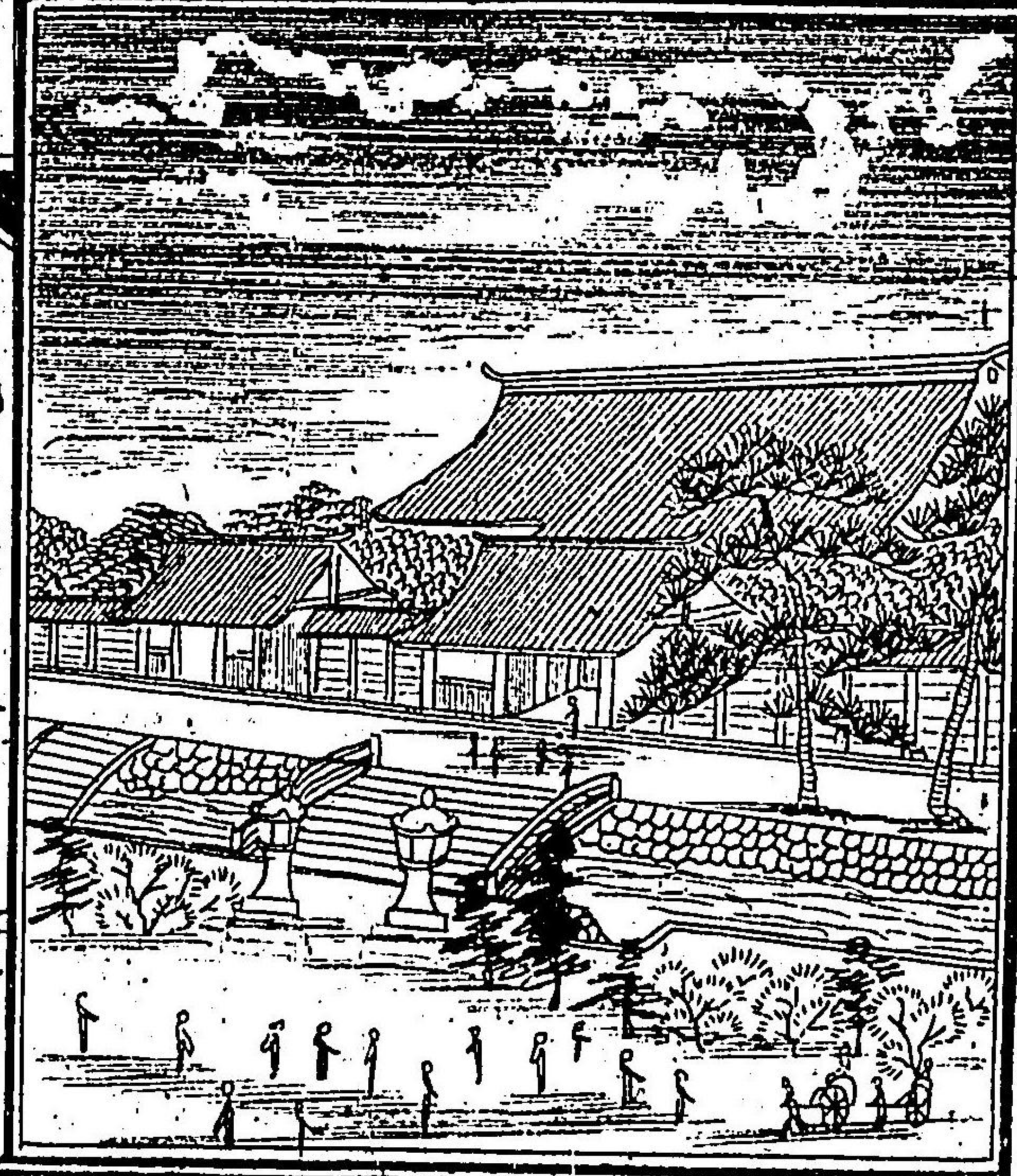
日蓮宗の本山ありて一致派開基ハ日蓮上人よてもいめハ相州鎌倉松葉谷に建立ありて一宗最初の寺く貞和元年光明帝の勅もつて相州鎌倉より華洛六條堀川に移す

本派本願寺

西六條にあり

本派本願寺の草創ハ文永九年洛東大谷に建てりて廟堂を建立す龜山院勅願所として

龍谷山本願寺の号を賜ふ第八代蓮如上人の時宗義大は繁昌す山門の衆徒これを妬て當寺を破却すそれより以来所々に移り天正十九年八月六條堀川に移す本堂ハ見真大師自作の影像を安置す此像ハ開山在世の時彫刻し玉ひ息女覺信尼公へさつけ玉ひを聖人の滅後遺骨を細抹して漆を和し潤色せり故に骨肉御影と





稱す坐像より長二尺五寸餘く又本堂ハ大谷  
本願寺の時紫宸殿拜領より御堂造り紫宸  
殿の模形之堂前の高堀も内裏も同じ

興正寺

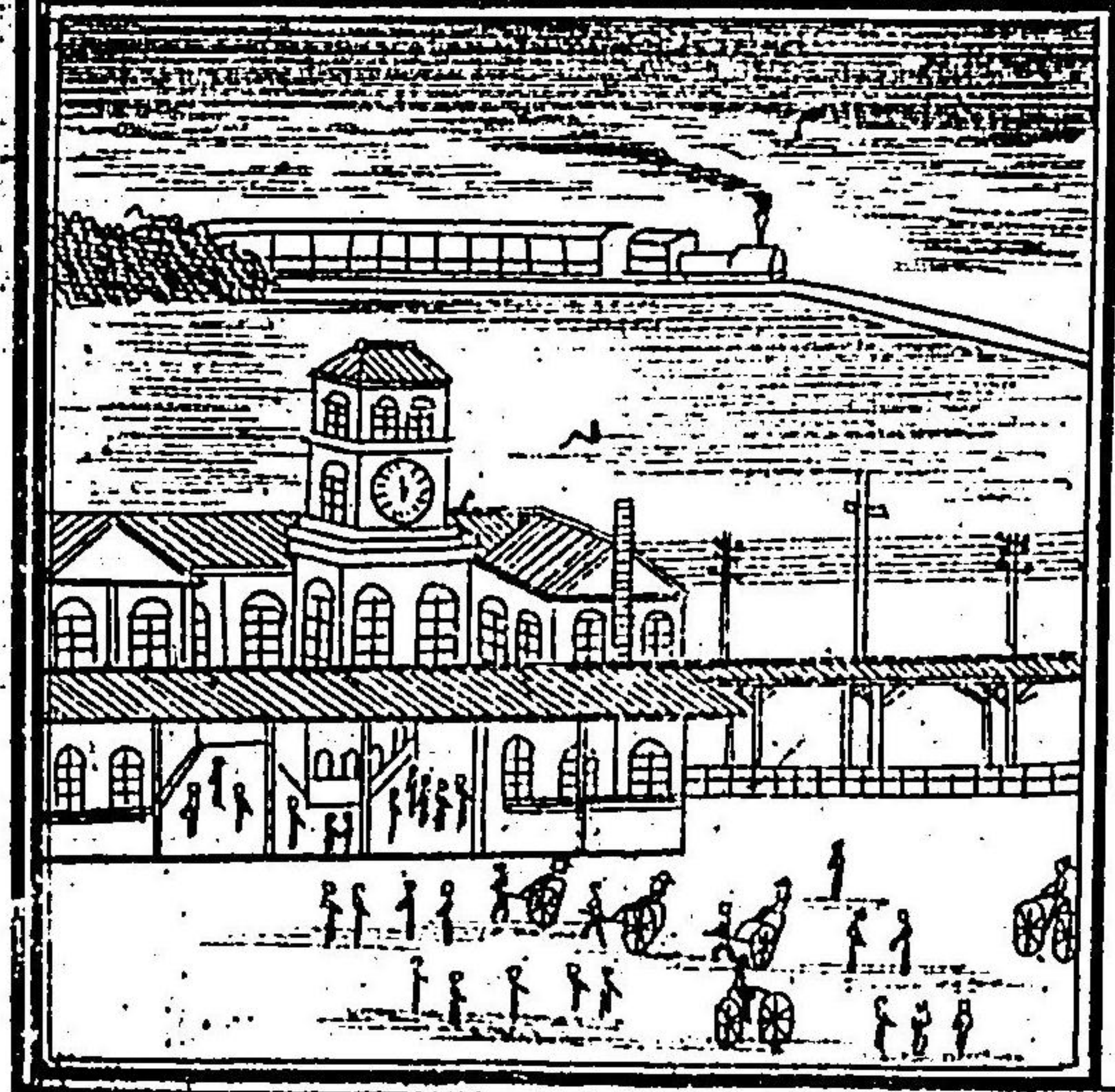
西本願寺の南隣あり

當寺の初見真大師四十歳の時山科に造  
營し高弟真佛上人に附屬し玉へり其後天正  
十九年此地よりうつす

ステーション

烏丸通七条南あり

西ハ大坂神  
戸を経て山  
陽道に至り  
東ハ東海道  
を経て東京  
に達す



東寺

八官の西八条の南あり



八幡山教王護國寺祕密傳法院と号す真  
言宗の源より開祖ハ弘法大師ハ元此地ハ  
大内裏の時鴻臚館の後寺となり空海ハ賜  
ひて東寺と号す

六孫王社

八条通千本東あり

祭神ハ經基公之源氏の祖神カテ徳川家の



造營なり 神前諸侯より奉納の石燈籠多

壬生寺

四条千本東南にあり

宗旨ハ真言律ヲて本尊地藏菩薩ハ長三尺  
ヲて坐像ノ正曆二年の草創開基ハ三井寺の  
快賢大僧都之地藏尊彫刻の志願を遂し佛王  
定朝ノ命トて一千日ノ間ヲ作り終る相好円備  
して恰生身の如し是當寺の本尊ノ六念  
佛ハ毎年四月十日より廿八日種々の猿樂をす  
是を壬生の狂言といふ

島原

傾城所ハ朱雀  
野ノあり古來  
の遊里あり  
とし今ハ大  
衰へたり



稻荷神社

紀伊郡伏見街道黒門南にあり

官幣大  
社なり  
人皇四  
十三代  
元明帝  
の御宇  
和銅四  
年二月  
十日午



の日此山に出現一玉ふ本社第一宇賀御魂  
神第二素盞鳥尊第三大市姫上田中社四大  
神此二神を併せて五座と稱す弘長三年  
告ありて文永年中は併奉るなり又田中社  
の客人神大歳神ハ鶴と化して稻比賣を合  
んて来現一玉ふ二月廿初午参りハ和銅年



中二月初の午日出現より恒例の祭事とある  
官祭ハ四月九日私祭ハ五月上の卯の日ハ  
神輿五基渡御ありこれより東福寺へ七丁  
門前ハ京阪間鐵道ステーションあり

東福寺

本町六丁目あり

恵日山  
と号す  
五山の  
第四ハ  
開山ハ  
聖一國師  
當寺乃  
涅槃像



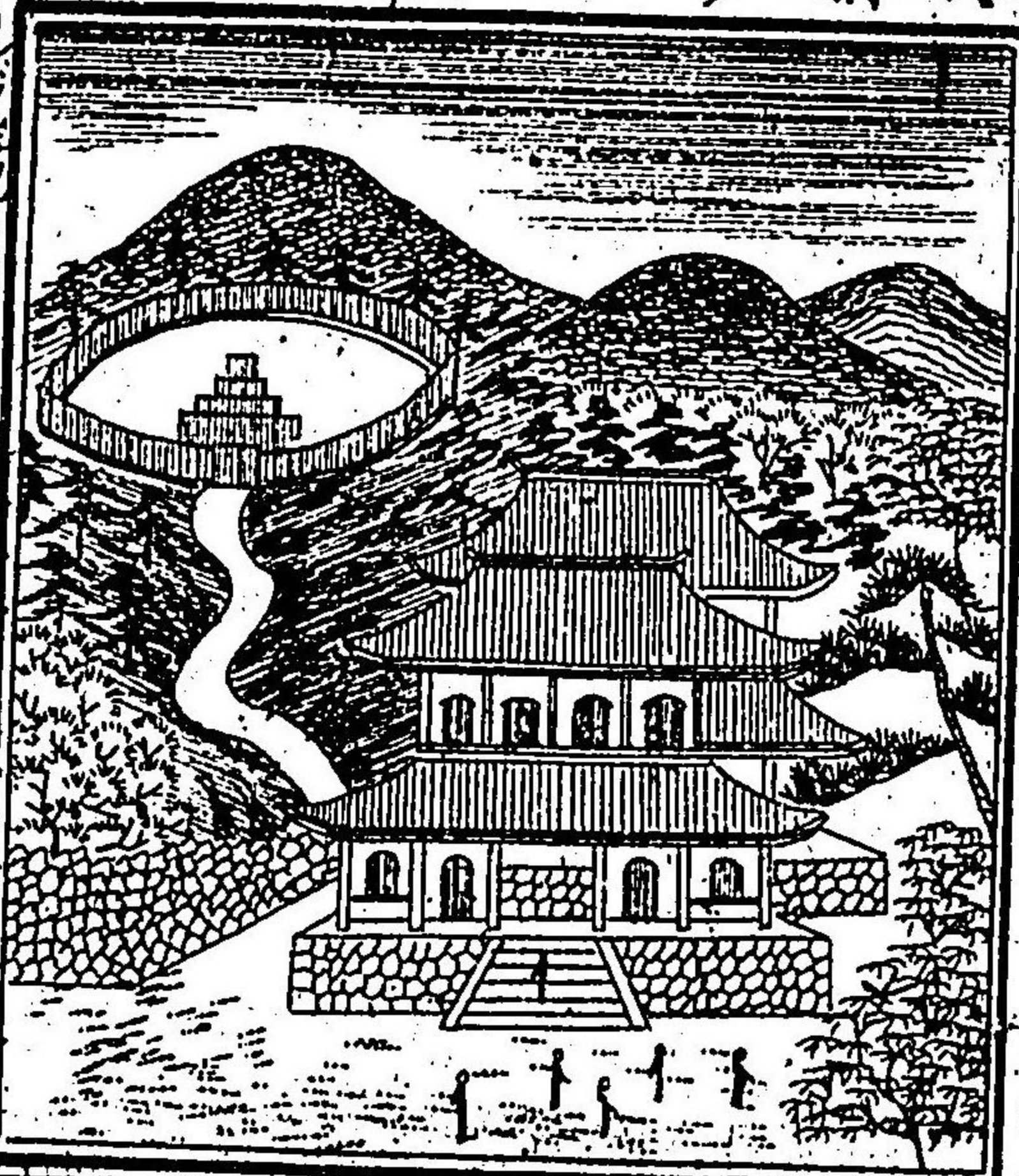
北殿司の画してせよ名高し方丈の額  
ハ張即之の筆選佛場の額ハ徑山無準の筆  
ハ通天橋の額ハ普明國師の筆橋下の溪を

洗玉礪と云此より楓多し秋のすハ  
紅錦の色をありしと云 洛陽の奇觀ハ

泉涌寺

愛宕郡今熊野村あり

弘法大  
師の開  
基なり  
中興の  
開山ハ  
俊術法  
師を以  
より以



来天台真言禪律の四宗を兼學す天子の官  
寺とすハハ十六代四條院を權輿とす是  
より以來代々の帝當山へ葬り奉る陵ハ前  
帝神主殿の前あり

新熊野觀音

右同所あり



眞言宗善能寺  
と号す本尊觀  
世音ハ弘法大  
師の作りて  
西國十五番の  
札所あり

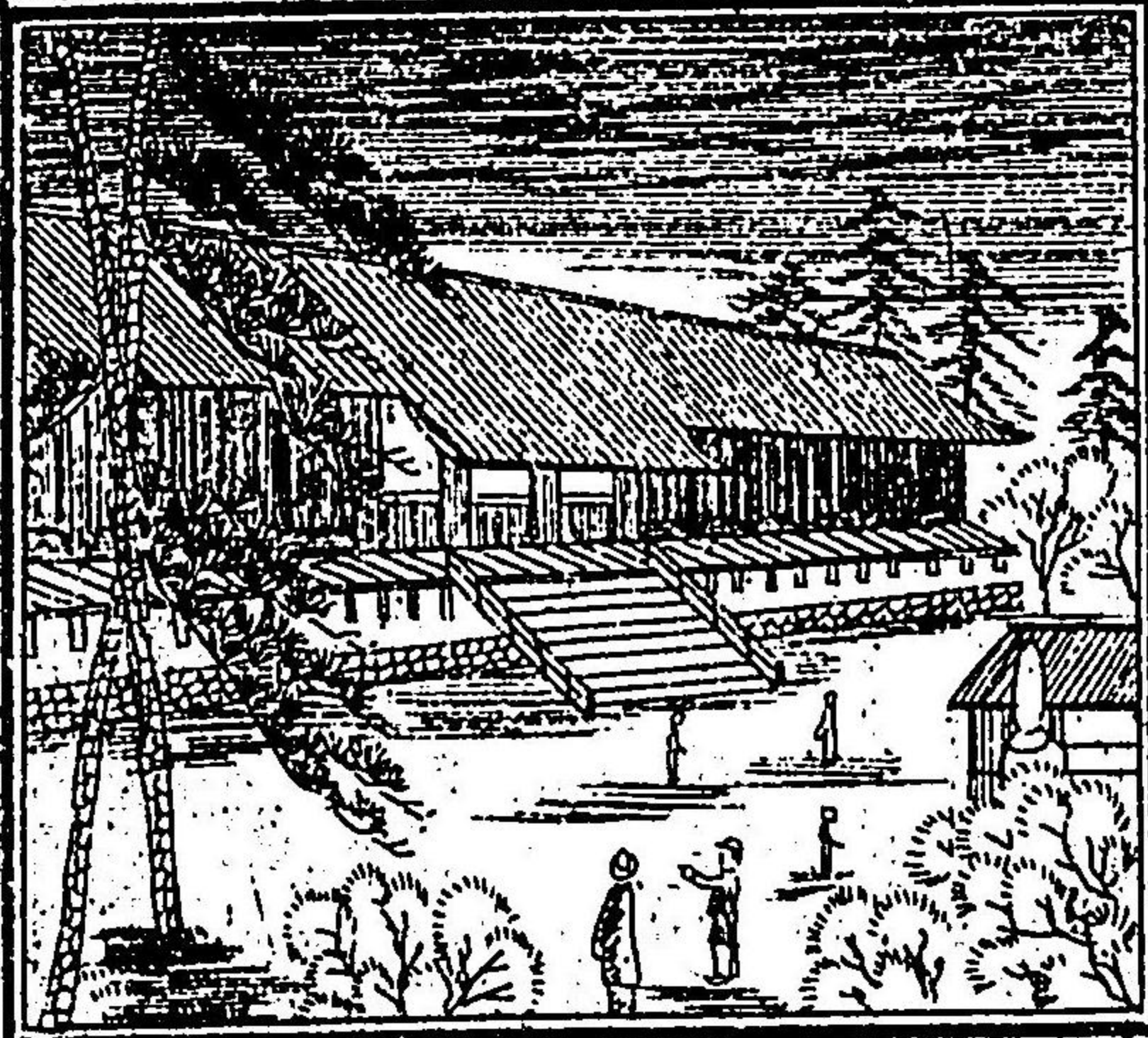


三十三間堂ハ丁あり

三十三間堂

七条通の南あり

蓮華王院と号  
す後白川院の  
御願として平  
忠盛奉行し建  
立す(堂東向南  
北六十六間、  
二間を隔て柱  
を立とれハ三



十三間堂といふ本尊ハ千手觀音の坐像ふ  
して御丈八尺作ハ康慶あり二十八部衆各  
壇上ハ安置す千手觀音一千體ハ堂内左右  
より一はす運慶湛慶の兩作なり○むりし  
堂のりしろハ大矢数あり連年諸候の家臣  
出て射術の譽も争ふ當所より通矢の檢證  
出で其一を得るものハ金銀の磨を渡す貞  
享三年紀州和佐基八郎總矢一万三千五十  
三通矢八千百三十三より一を得たり

智積院

三十三間堂の東北あり





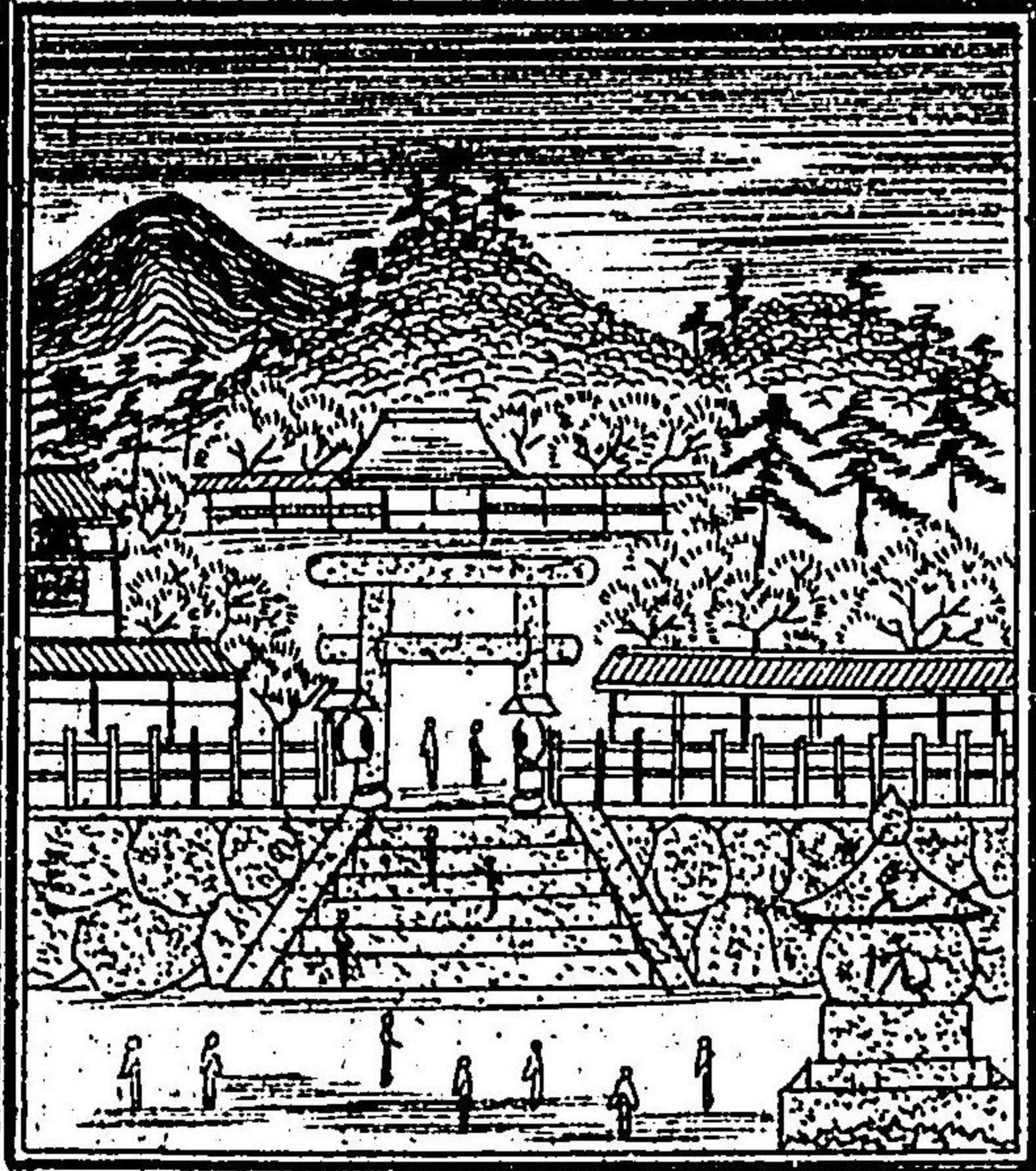
智積院ハ宗旨新義真言なり本尊ハ不動明  
王興教大師の作當寺ハ豊太閤の子棄君追  
福のとめ草創し祥雲寺といふ紀州根来  
寺滅て後新義派の徒こまを歎きて愁訴す  
是より祥雲寺を賜て智積院と号し新義  
派の學室となる

豊國神社

京都市大佛正面あり

別格官幣社豊太閤を祭る官祭ハ九月十八日明

治十年  
四月十八日  
私祭を  
再興す  
後山阿  
弥陀が  
峯と豊  
太閤の



廣あり大佛方廣寺ハ此社の北を地續きん

大佛方廣寺

右全所あり

天台宗  
天正十四年  
豊臣秀吉  
公の建立  
ヤして寛  
政十年回  
祿す其后  
今の半像  
を作る



大鐘高さ一丈四尺經り九尺二寸厚さ九寸  
慶長十九年豊臣秀頼の鑄造あり

耳塚

右同所あり

文祿元年朝鮮征伐の時先鋒加藤清正小西  
行長等より敵の耳鼻をとり秀吉公の実檢



入り  
を此塚  
に埋め  
國威を  
不朽に  
傳ふ所  
やて巨  
大の五  
輪の塔  
を建るなり此西のたが名物の大佛餅あり



小松谷正林寺

大佛殿の東北あり

宗旨ハ浄土本堂ハ殿舎作りて九條殿  
よりの御寄附とぞ法然上人此御堂よか  
ると黒谷傳記あり○此所より西人家の北  
の方よ谷あり是を小松谷とよ小松内大臣重  
盛公の山はまて燈籠堂の地

歌中山清閑寺

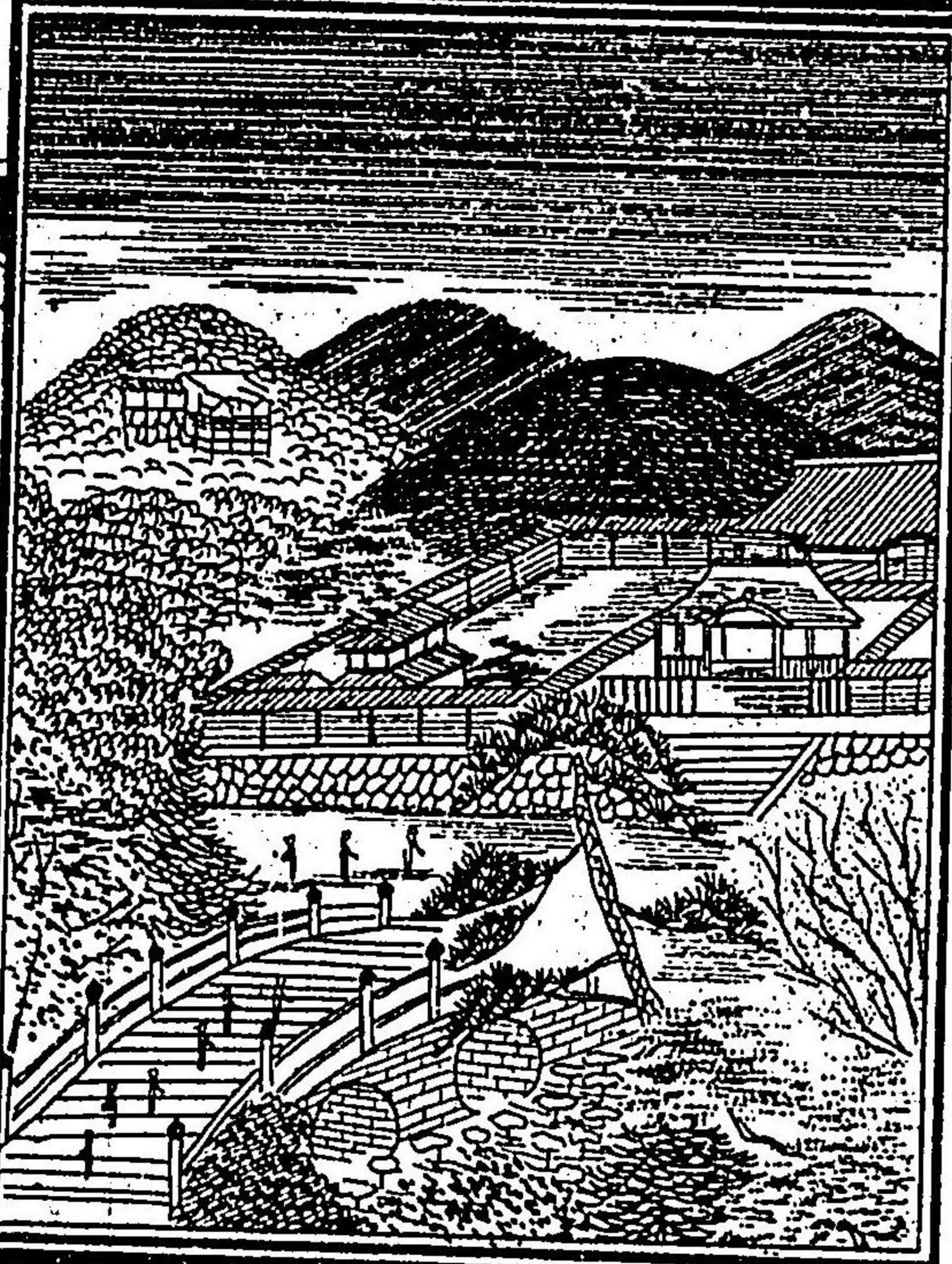
小松谷の良あり

本尊ハ千手観音の立像菅丞相の御作あり  
歌中山ハ清閑寺の北音羽山の間をふ

西大谷

五條の東あり

本派本願寺見真大師の廟所ハ唐門の前池  
お連を植へ白石の目か橋あり東ハ鳥辺山  
通妙寺とよおちめん傳兵衛の墓あり是  
より清水への近道あり 清水へ四丁





音羽山清水寺

京都市松原通り東へ突当り



真言宗にて本尊ハ十一面千手千眼観世音菩薩西國十七番の札所ノ開基ハ宝亀九年の夏大和国小島寺の沙門延鎮此地ニ草菴を結び後坂上田村九延曆二十年東夷征

伐の時此本尊ヲ祈り悉く退治一玉ふ同二十四年田村九堂塔を建立す又大同二年紫震殿を賜ひて伽藍となし観音寺を改めて清水寺と号せり當山ハむかしより櫻の名物之  
○阿弥陀堂ハ瀧山寺と号す本尊ハ弥陀の坐像を安置す法然上人此堂にて不断常行念佛を開闢一玉ふ今も退轉ナリ  
○田村堂ハ田村將軍鈴鹿權現行殿延鎮等の像を安置す○音羽瀧ハ奥の院の下ニある瀧口三すし西のりともへ落て四季増減あり

八坂塔

清水三草坂ニあり

八坂法観寺ハ聖徳太子の草創なり古ハ樓門伽藍鎮守寺殿堂なりしが破壊して今絶つ残るのこ三重塔本尊ハ大日釋迦阿闍室勝なりむかし淨藏貴所此寺に住す阿闍室塔大ニ傾く淨藏塔前ニ坐して持念志朝



ふもとを見らる塔直りて元の如くよなりしとふ



靈山正法寺

八坂の東二丁をりあり

往昔傳教大師の開基ヤして山門の別院なり  
中興國阿上人住玉ひで宗旨を時宗と改阿  
弥陀堂の本尊ハ齒佛と号すこの阿弥陀佛  
ハ笑ひ玉ふ相好ヤして御口よりむふ齒見ゆる  
故世ハ齒仏と号す○勤王戦死者の招魂場有

高臺寺

下河原南二丁あり



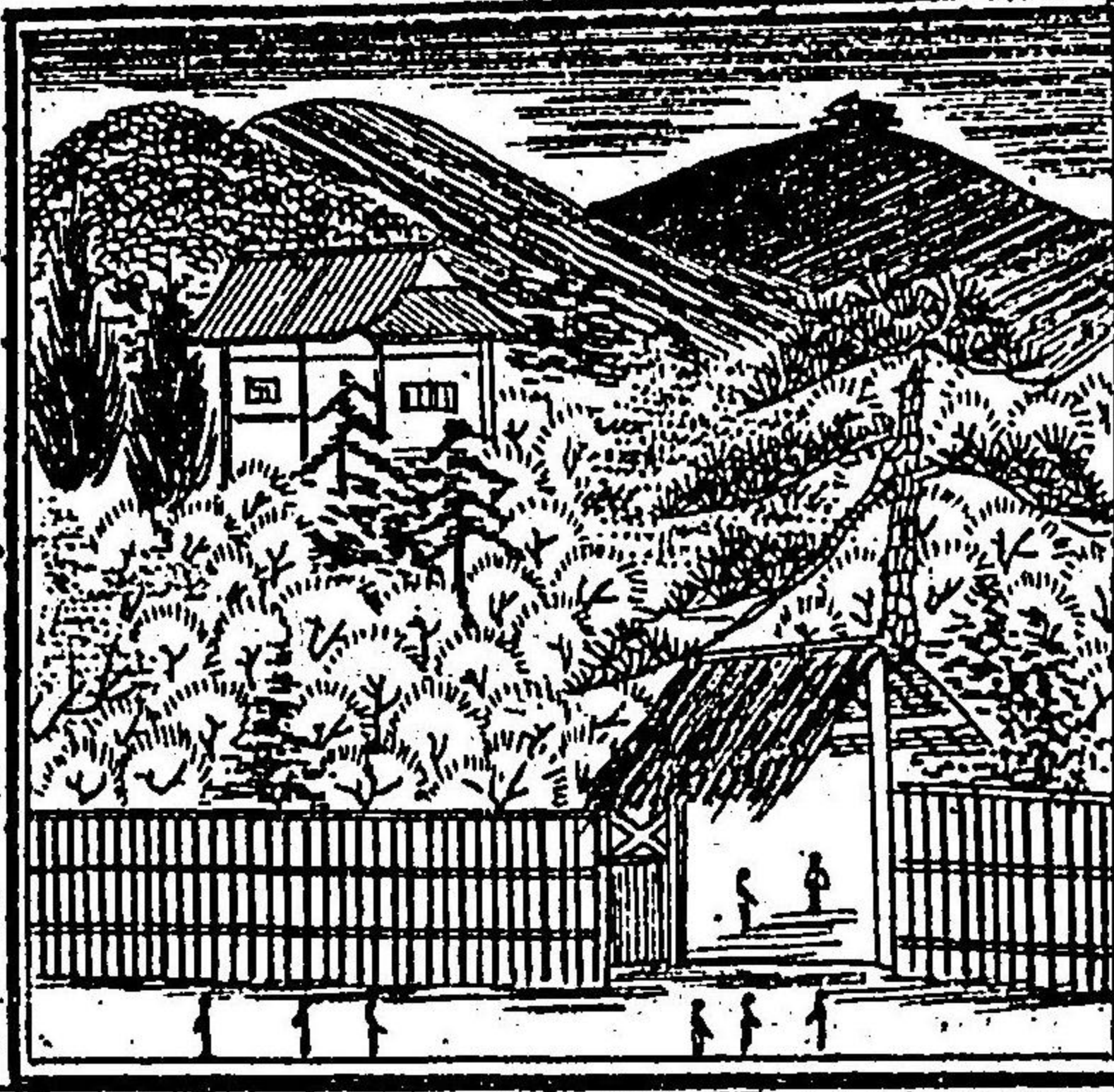
慶長年中太閤秀吉公の北の政所御建立の菩提  
提所あり就高臺山といふ宗旨ハ禪ハ佛殿の本  
尊ハ釋迦佛迦葉阿難と安置す祖堂ありの  
廊下を臥龍といふ雪月堂の額ありこれを登  
れハ秀吉公北の政所の御魄舎あり當寺大  
木の櫻數株ありて花の盛ハ遊宴を催し秋の  
頃ハ萩の花を愛するの雅人多し



雙林寺

高臺寺の北にあり

古ハ天台宗の別院として傳教大師の開基ニ至徳年中國阿上人移住し時宗と改む本尊ハ藥師如來



來りて傳教大師の作本堂の前ニ平判官康頼と頓阿法師の塔あり又此所ニ文阿弥と小宴席あり其西ニ西行菴芭蕉堂大雅堂等ありて文人雅客常ニ相集る

東大谷

雙林寺ニ隣りてうらとあり

大谷派本願寺の祖廟あり阿弥陀堂の本尊ハ安阿弥の作親鸞聖人の廟ハ後の山腹

て塙上ニ虎石あり石の形虎ニ似とぎハ名とす  
長樂寺ハ一丁



東山長樂寺

東大谷の北隣ニあり

開基ハ傳教大師りてあり天台の別院ニ當山の景色ハ唐土の長樂寺ニ似るとて斯名るとを後ニ國阿上人住寺して時宗ニあらむ安徳帝御衣の幢ハ當寺の什寶ニ當山ハ洛東第一の風景ニて鳳城九陌の大



路小路北ハ加茂ニ葉山より南ハ鳩の峯淀の川瀬をやきく舟まく眼下見ゆる

圓山安養寺

長樂寺の北にあり



當山も舊天台の別院より傳教大師の開基より後國阿上人住職して時宗と改む  
○吉水の井ハ鎮守辨財天のくわくあり  
○惣門の左を左阿弥といひ右を正阿弥

とい上ある也阿弥といふ料理を業し多人集會は貸す也阿弥ハ西洋料理及び外國人の旅宿を兼るつとも眺望絶佳ありて京都市街ハふま及び山城の名山大川を一目の下見もべし○鑛泉ハ三層の樓を構へ其近辺は茶店多し眺望頗るよなり

八坂神社

京都市四条通川東行当りあり

舊祇園社といふ神殿の中央ハ素盞鳥尊東の間ハ王子三女西の間ハ



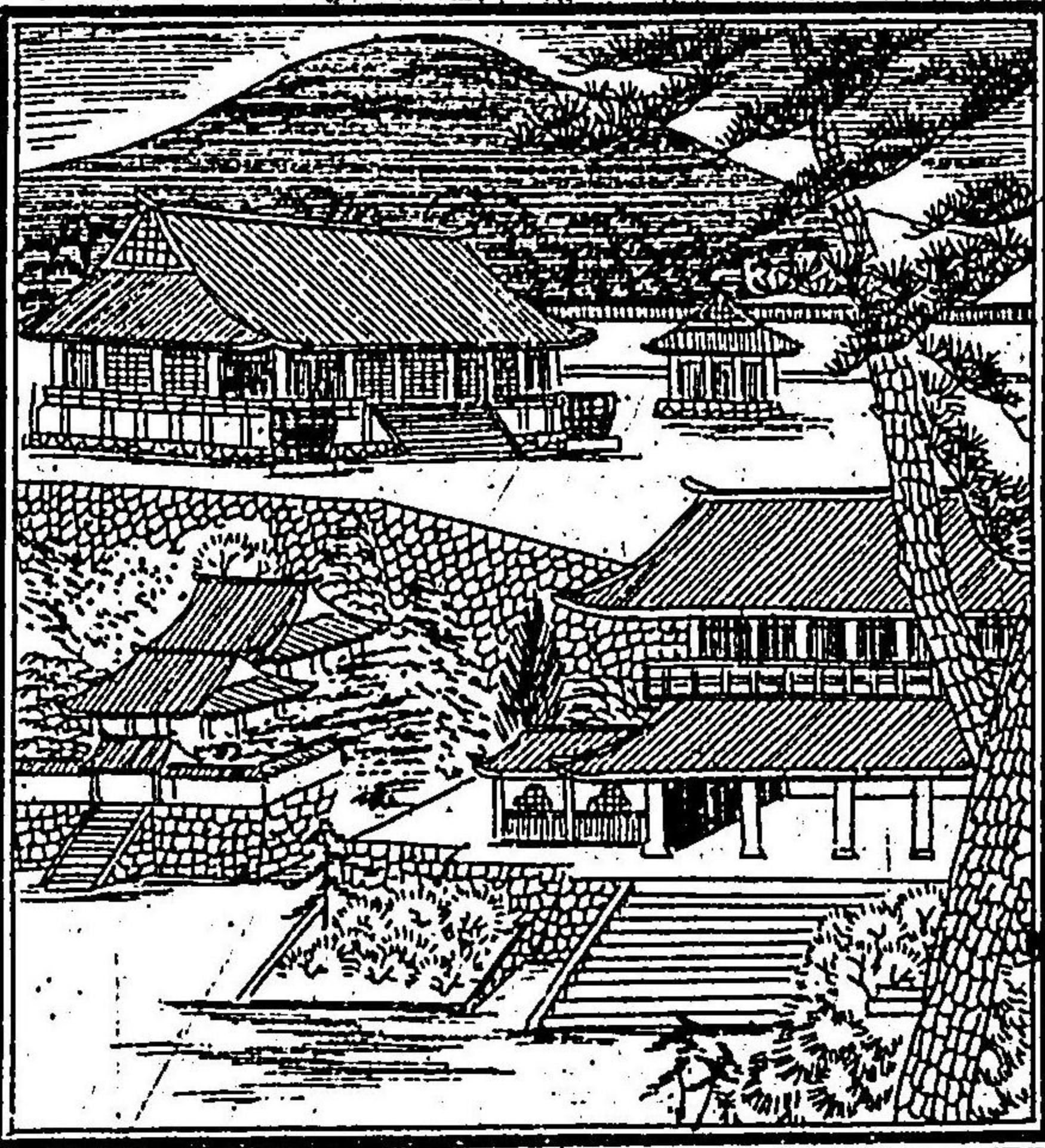


稲田姫本御前官祭ハ六月十五百祀祭ハ七月十  
七日同廿四日山鉾の行粧祭禮の例式日本無  
双の神事ノ境内ノ櫻樹多し花の頃ハ夜櫻殊  
ニ賑ヘリ

知恩院

八坂神社の北隣ニあり

華頂山 大谷寺  
浄土宗の惣本山

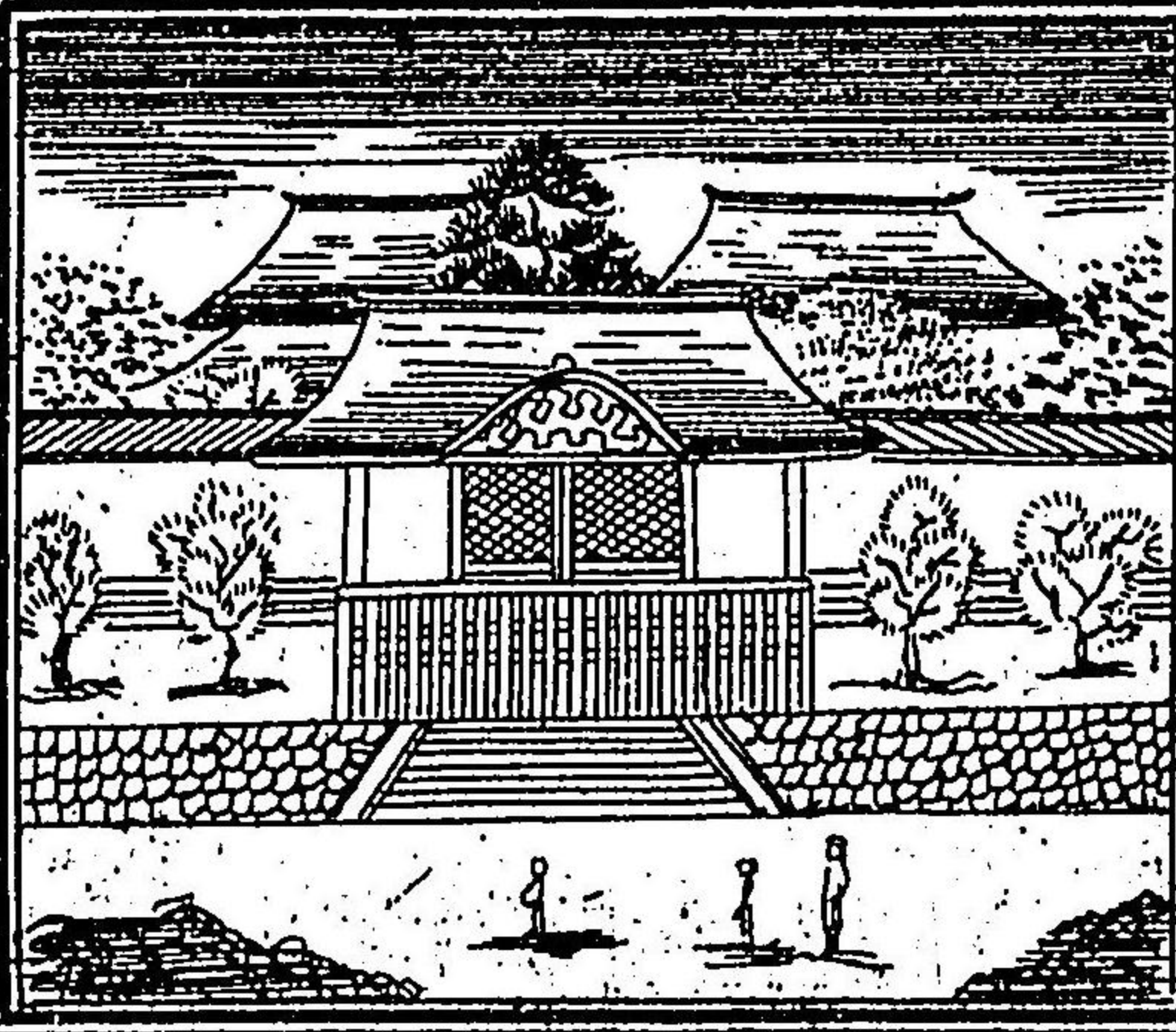


て鎮西流義より元祖四光大師宗風開發の靈  
場ニて吉水の禪房トハ是より山門ハ掲る華

頂山の額ハ靈元法皇の震筆ニ本堂大谷寺  
の額ハ後奈良院の震筆トハ須弥の壇上ハ円  
光大師の像を安置す大師の廟ハ東の山上ニ  
あり○瓜生石ハ黒門の前ニあり○塔中崇奉院  
ニ見真大師廟塔の遺跡あり○鐘樓ハ本堂の  
巽山上ニあり洪鐘高さ一丈八尺徑九尺厚さ  
九寸五分鐘の音三里ニ聽ヤるといふ堂山ニ  
櫻數株あり系々々々浅黄々々々々世々名高

植髮堂

植髮の尊像ハ舊  
青蓮院ニ在セ  
時此地をひらき  
堂宇を建立し華  
頂山御堂と称す  
本尊ハ阿彌陀仏  
の座像を安置し



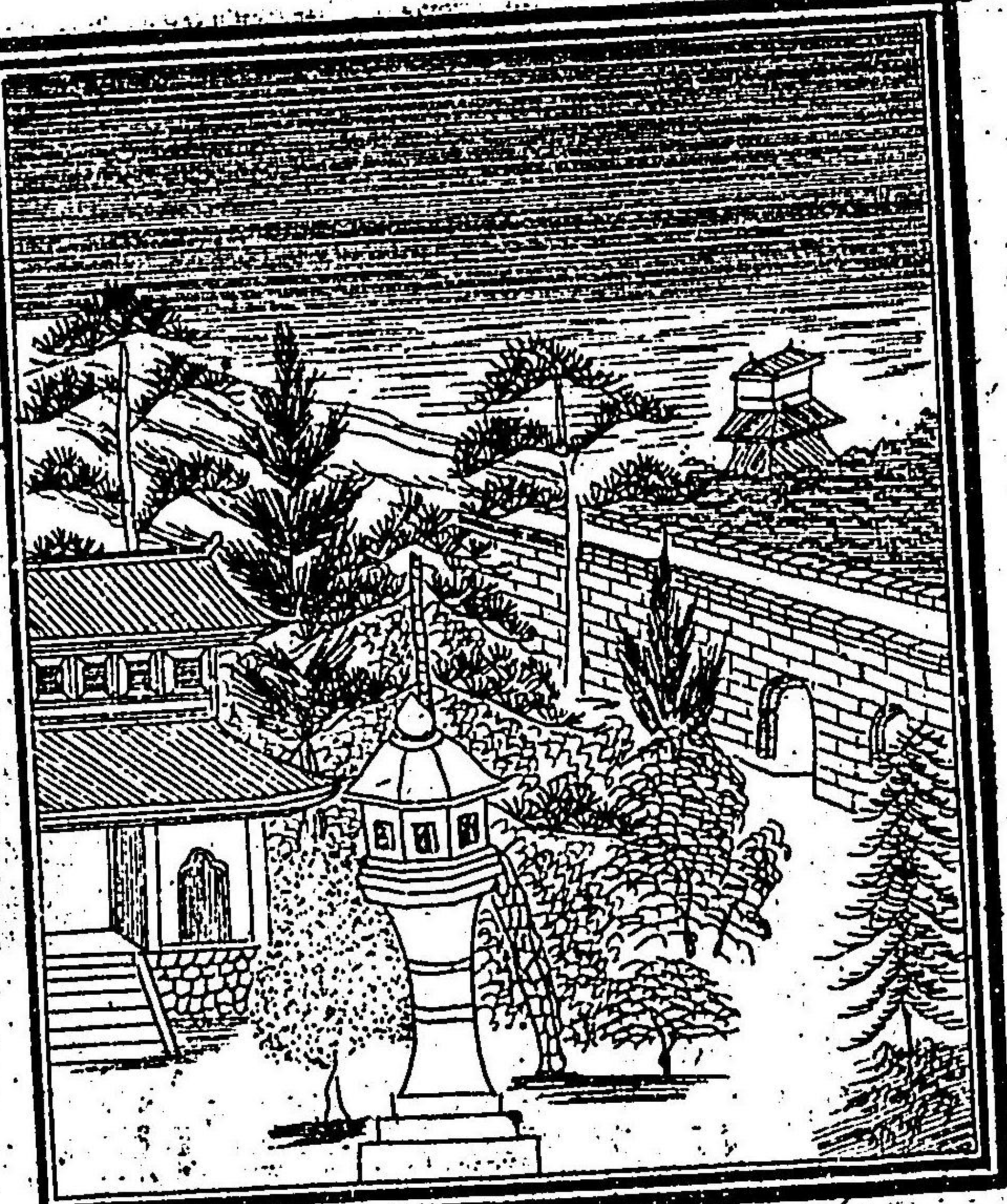


右の壇上の厨子に此尊像を安置す長三尺  
 一尺で立像なり小葵の直衣、薄紅梅の御  
 衣を召し紫の亀甲形の指貫を着しくる兒  
 童の御影なり九歳の春青蓮院より翠の髪  
 と種玉へし御貌を御師匠の慈鎮和尚うし  
 とくれの翠の髪を御頭へ植置せらる是を植  
 髮の尊影と号し一宗の道俗偈仰日よすて  
 繁昌の靈地とよる

南禪寺

愛宕郡南禪寺町あり

瑞龍山太平興國南禪寺は舊龜山法皇の皇  
 居より一を開山大明國師に賜て五山の上  
 の号を蒙る山門は五鳳樓と号して寛永年  
 中藤堂高虎の再建あり 藤堂は石の大  
 燈籠一基山門の外あり高さ二丈餘石は白  
 川の産かて希代の大燈籠なり○駒ヶ滝は  
 東の峯あり



太極殿

南禪寺の西聖護院町あり





桓武天皇京都へ遷都記念標の代々大極殿を  
疏水近傍博覧會場を建設せらるる

永觀堂

南禪寺の二丁北あり

聖衆來迎山禪  
林寺永觀堂ハ  
浄土宗キテ  
西山派ノ本堂  
の阿弥陀如来  
を願本尊ト号

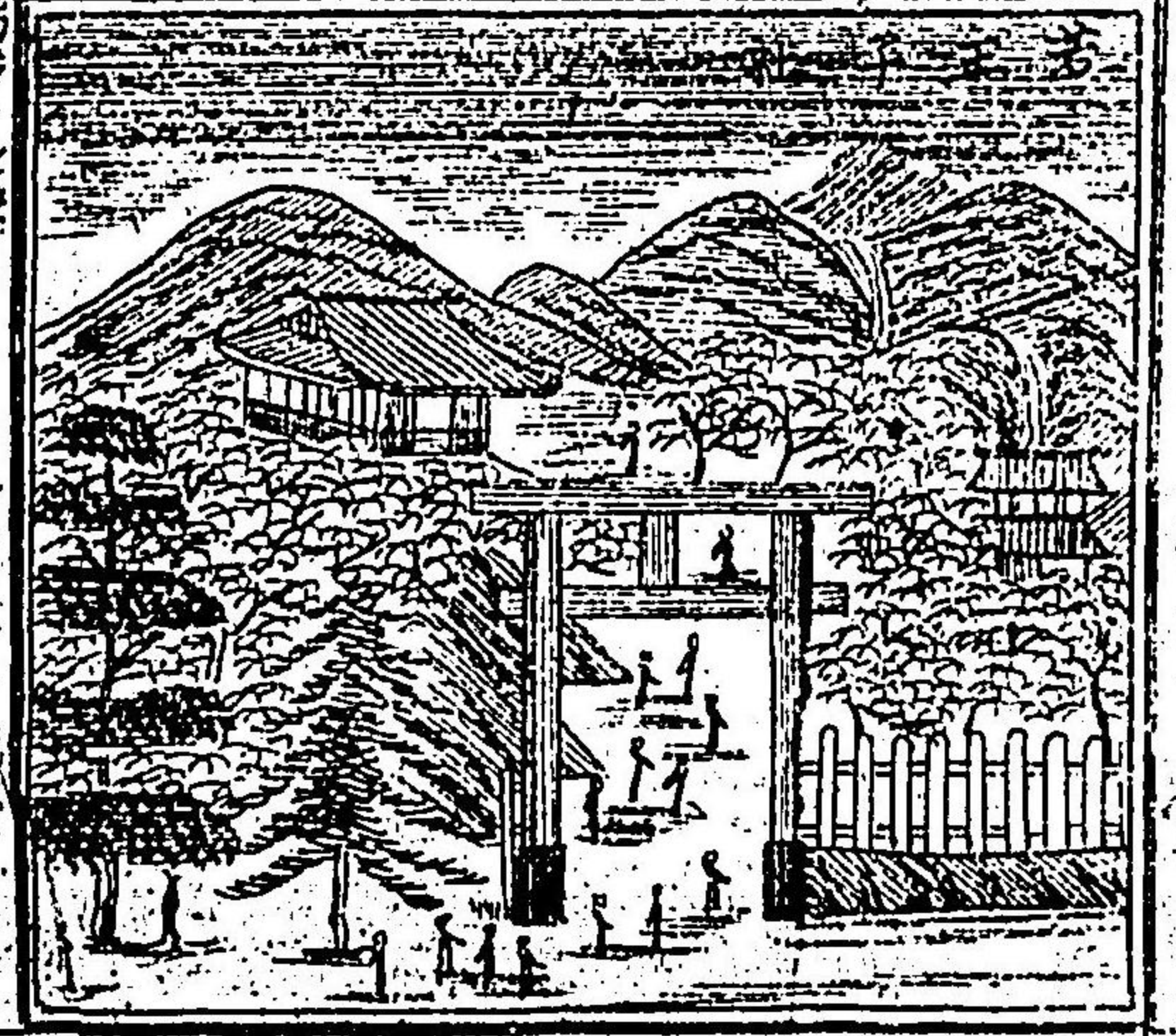


す長三尺餘の立像あり祖師堂ハ善導大  
師圓光大師西山上人の三影を安置す經藏  
の額ハ黄檗高泉此筆あり聖衆來迎の松堂  
前ハありある夜四方ニ異香薫ト音樂聞テ  
菩薩來集の粧ヒ此松の枝ニありトナリ  
山号ハ此謂マヨリ中門の左ニ諸化の學  
校あり講堂ハ甘露殿トシ願あり

若王子社

愛宕郡若王子村あり

後白川法皇の  
勸請ヨリ舊  
天台宗修驗道  
兼職の寺ナリ  
正東山トシテ  
御維新後神社  
ト改む山中ニ  
三箇の瀧あり  
風景絶佳ニ紅葉の時尤モよろシ



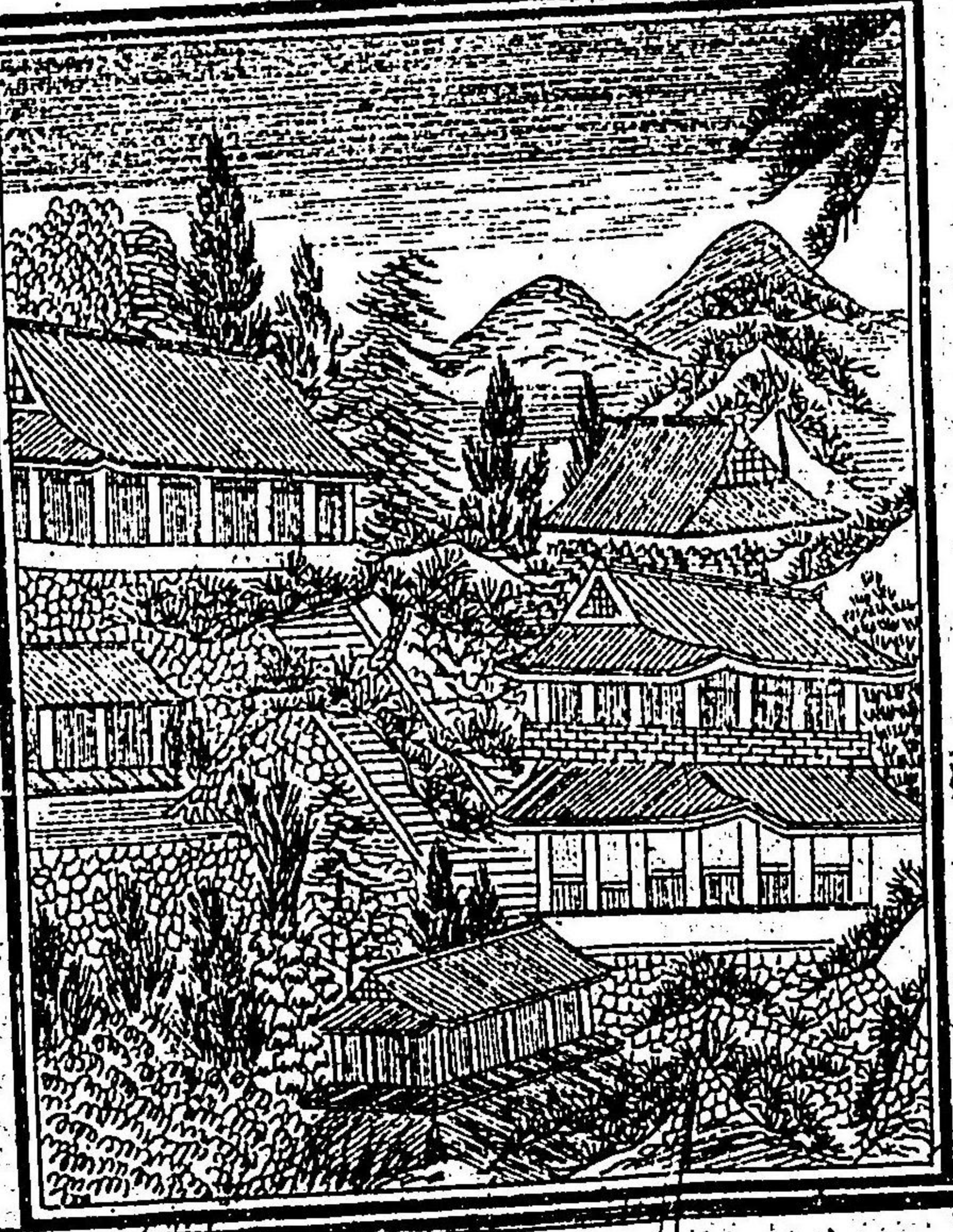
黒谷

愛宕郡岡寄村あり

紫雲山金戒光明寺ト号す浄土宗鎮西四箇の  
一本寺ナリ叡山西塔の黒谷をうつして新黒  
谷ト稱す本尊ハ元祖大師の像を安置す自  
作ノ勢至堂ハ圓光大師の廟塔ニ熊谷堂ハ  
蓮生法師自作の像平敦盛の畫像を安置す



三重塔の文殊菩薩八日本三文殊の其一なり  
紫雲石ハ塔の北ニあり元祖大師一宗開發  
の時此石より紫雲をなびき異香薫り  
なり又熊谷鎧掛松あり



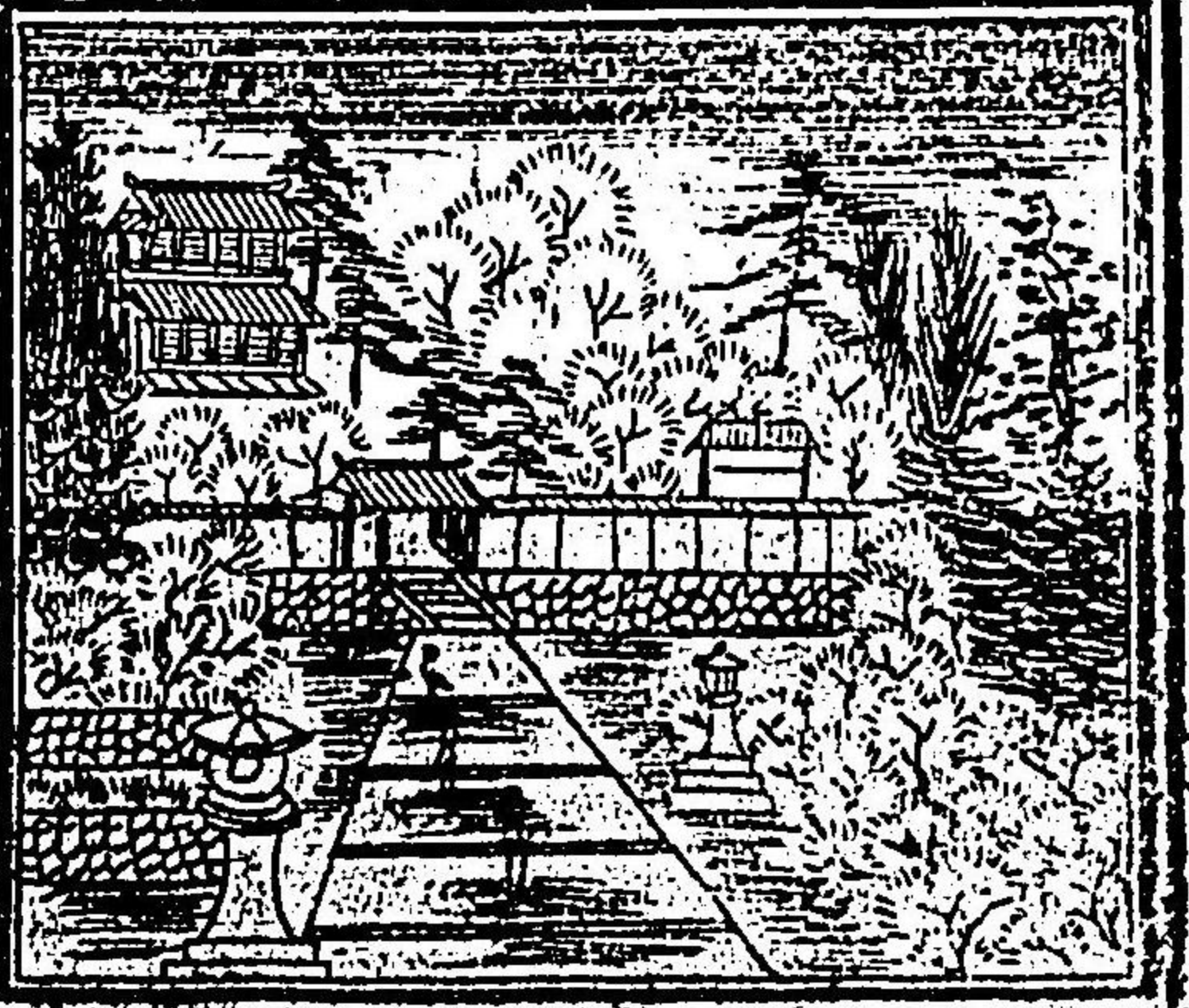
真如堂

神樂岡の東南ニあり

鈴聲山真正極樂寺真如堂ハ天台宗にて開  
基ハ戒筭上人なり本尊ハ阿彌陀佛の立

長三尺三寸慈覺大

師の作なり抑此尊  
像ハ江州志賀郡苗  
鹿明神より神木を  
得玉ひ此木夜毎  
光明を放怪て割て  
見玉ふよ仏形鮮  
あり故に此尊像を彫刺す 吉田ハ四丁



吉田神社

愛宕郡吉田村ニあり

當社ハ清和天皇の御宇貞觀二年中御言  
蔭卿の勸請ニ樓門の額ハ日本最上兩大神宮  
中門の額ハ日本最上神祇齋場とあり共ニ  
清水谷實秋卿の筆なり本殿大元宮ハ  
日本神祇三千一百三十二座を鎮座し奉る  
春日の社ハ西の麓ニあり是ハ山蔭卿の勸請  
なり當所ハ一面の岡山として神樂岡と稱す

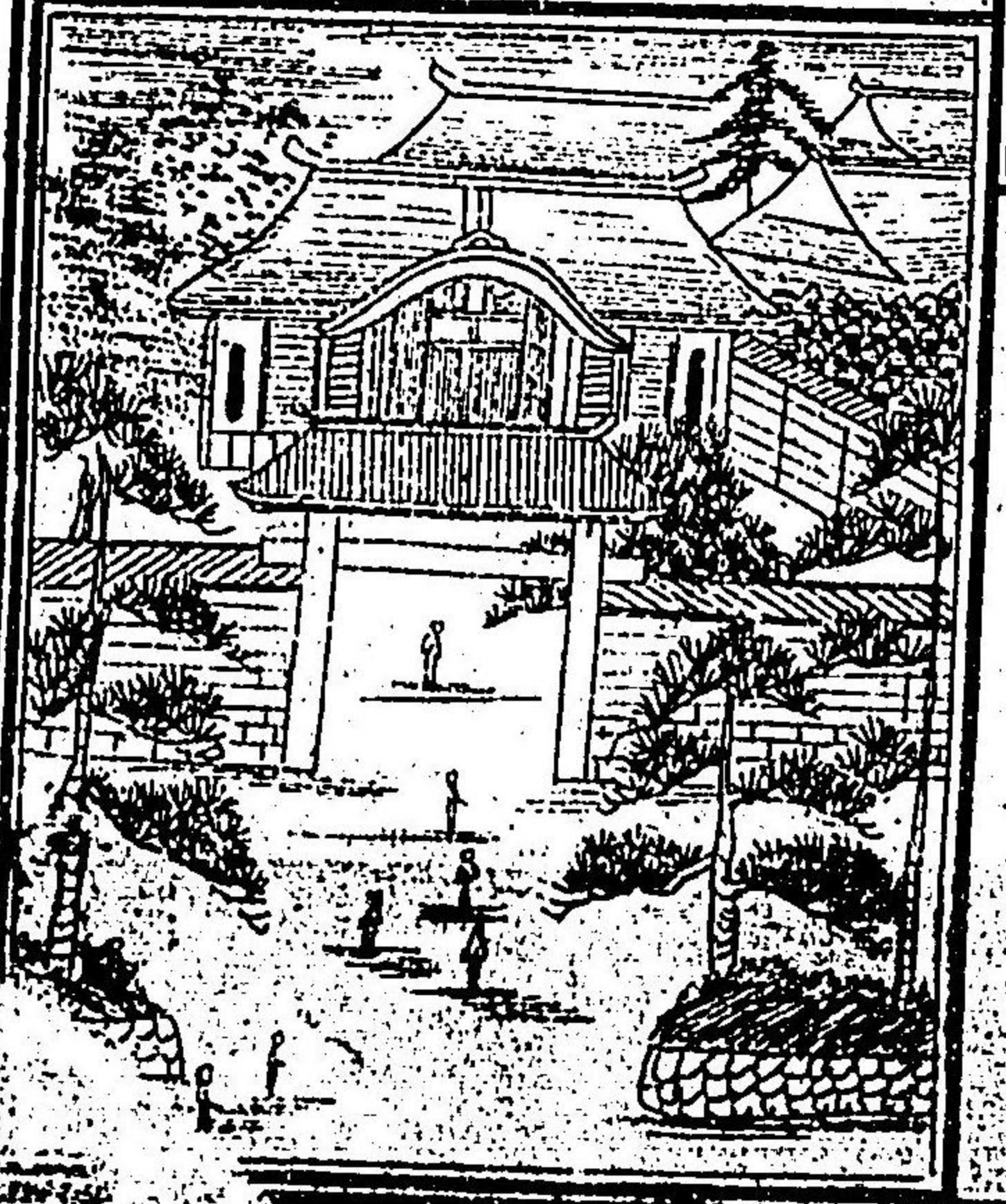




聖護院

九太町鴨川の東にあり

開基ハ智  
證大師ハ  
中頃より  
三井の御  
門主法親  
王御住職  
一玉ひ修



熊野神社

右全所の西にあり

験道を兼て山伏を管領一玉ひ修

當社ハ後  
白河上皇  
の勅願  
して熊野  
新宮を勧  
請一玉ひ  
境内廣  
らすとい  
ふ老樹  
森々とい  
ふ翁鬱  
炎暑の時  
納涼の地  
なり

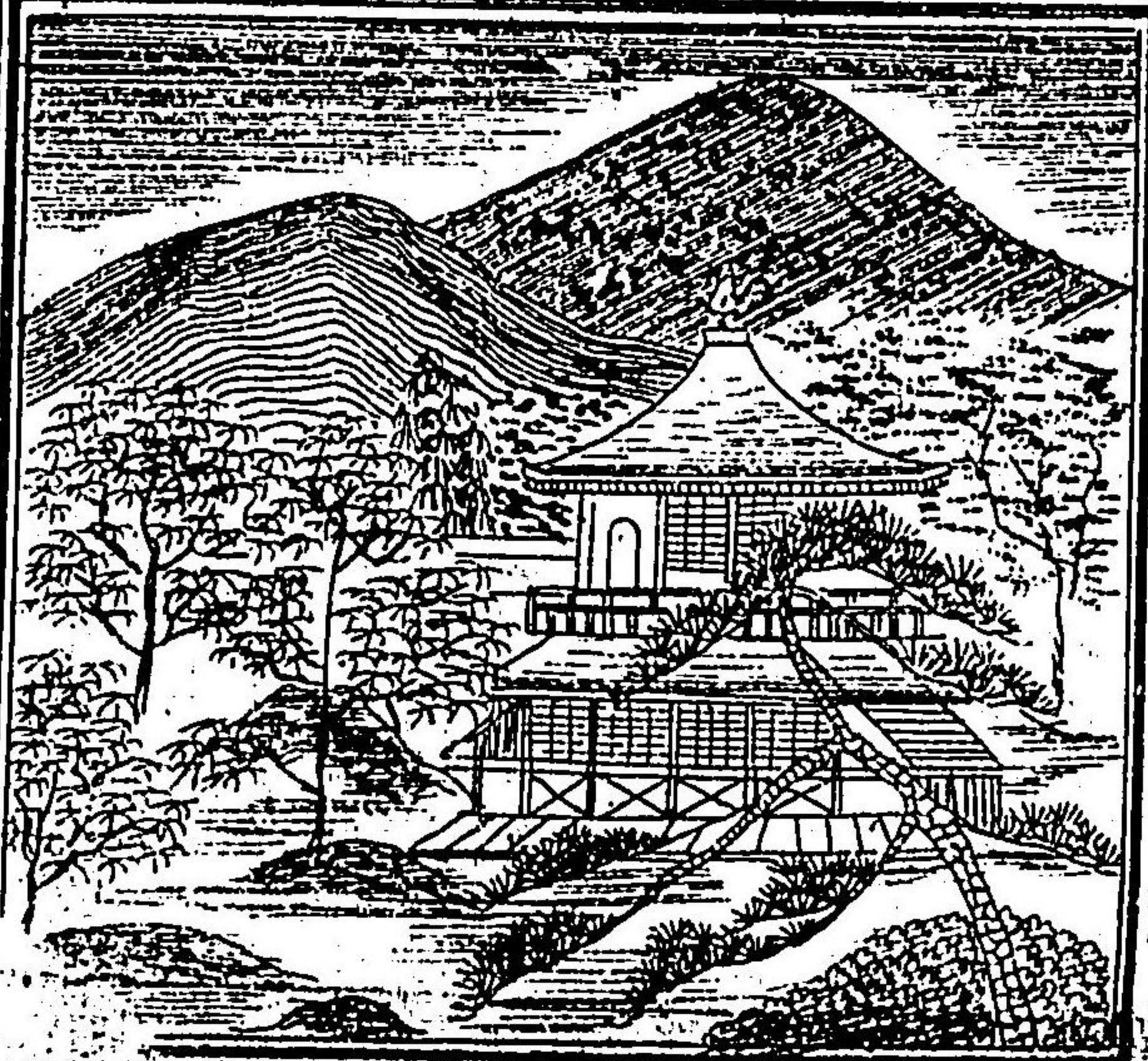


銀閣寺

愛宕郡洋土寺村にあり



慈照寺と号す禪宗にて夢窓國師を開祖  
 とす原此地ハ足利八代の將軍義政公の別莊  
 たり故東山殿と号す○東求堂ハ義政公の  
 持佛堂より觀世音を本尊とす西のり上  
 壇よりくる水引ハ濃紫の印金なり古渡りて  
 世に稀ある奇物とぞ若松の画ハ相阿弥の筆  
 咧々鳥ハ永納の画ハ茶湯の間ハ四疊半にて  
 東山殿の  
 物敷奇之  
 これ茶亭  
 四疊半の  
 〇二重の  
 高閣あり  
 上と心空  
 殿下を潮



音閣と云ふ○此庭ハ東山殿の好みて茶道  
 相阿弥の作なり庭中の風光真妙りて山水  
 の法式をとまきず四時の壯觀足らずと云ふ  
 たり末代庭造の軌範とする人

詩仙堂

愛宕郡一乗寺村あり

石川丈山の山莊ハ四壁ハ漢晉唐宋の詩人  
 三十六人の像を畫き其人の詩を丈山につら  
 して畫ハ狩野尚信とぞ故詩仙堂と云ふ

百萬遍

愛宕郡

田中村あり

長徳山知恩寺

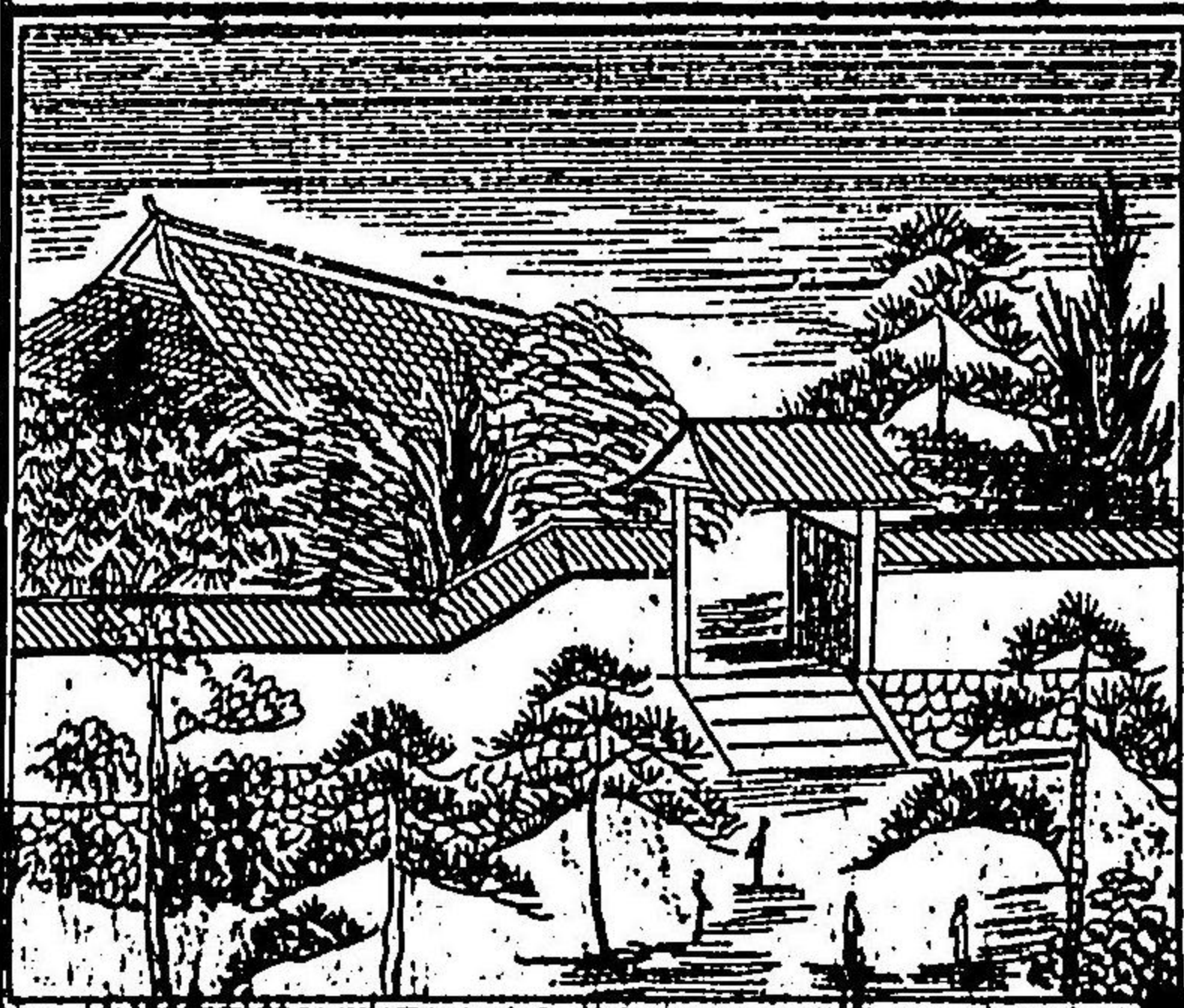
百萬遍ハ浄土宗

鎮西派四ヶの一

本寺なり古ハ加

茂の神宮寺あり

て慈覺大師の州



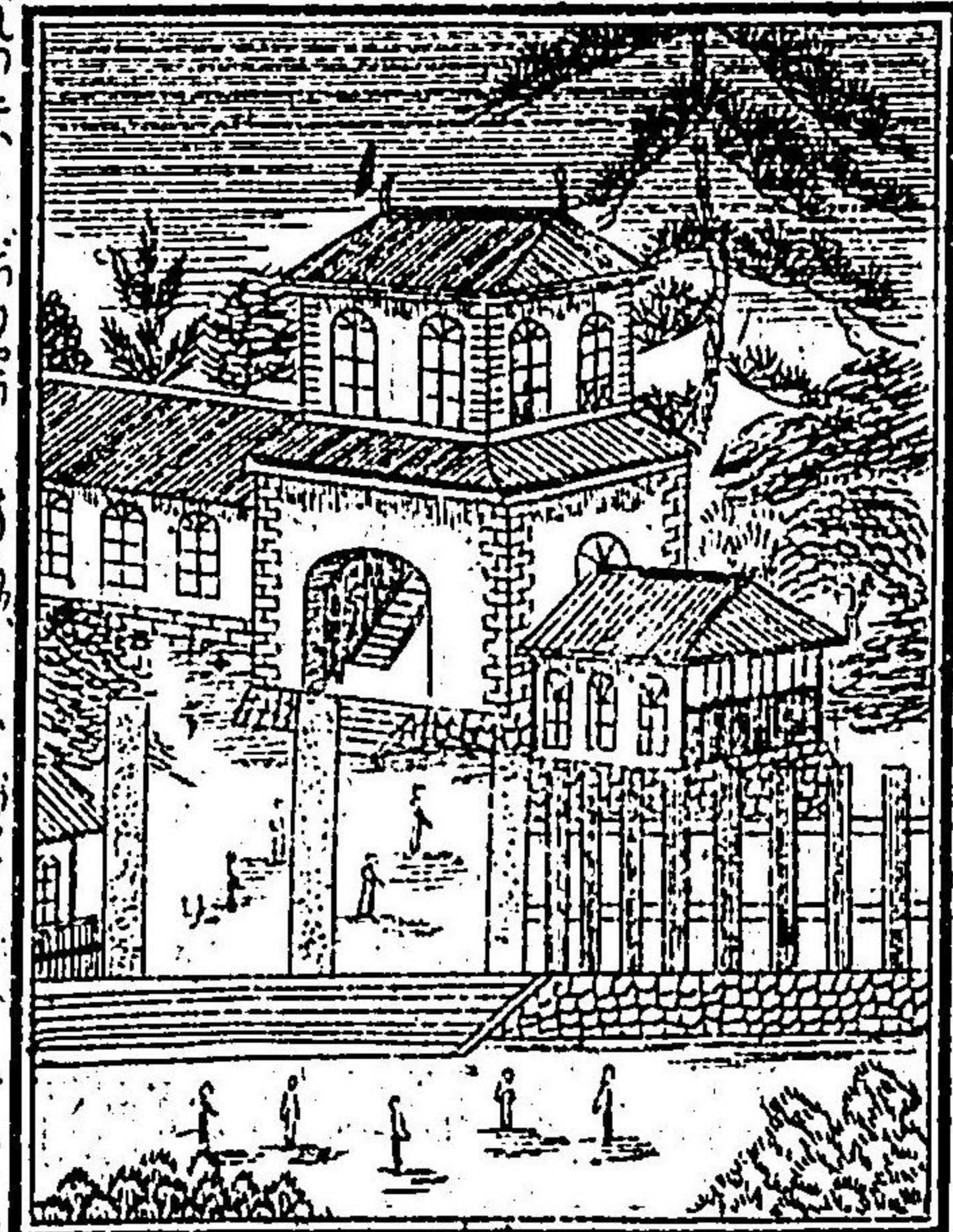


創あり圓光大師加茂下上を尊信ありて感  
應を得玉ひ一宗を弘通し玉へりある時鴨  
皇太神宮懇望ありて末世衆生のとり一枚起  
請を書しめ玉ふ是より當寺を改て念佛の道  
場と一徒弟勢觀房源智上人へ附属し玉ふ

療病院

河原町通廣小路あり

府立に  
地鴨川  
に望み  
風景頗  
る佳く  
器械完  
備し病室  
多し治療  
ハ数名の  
醫學士を  
つ



りささる○醫學校あり學期ハ四年あり療  
病院と相合するにより臨床講義實驗ハ甚便

護王神社

烏丸通上長者町あり

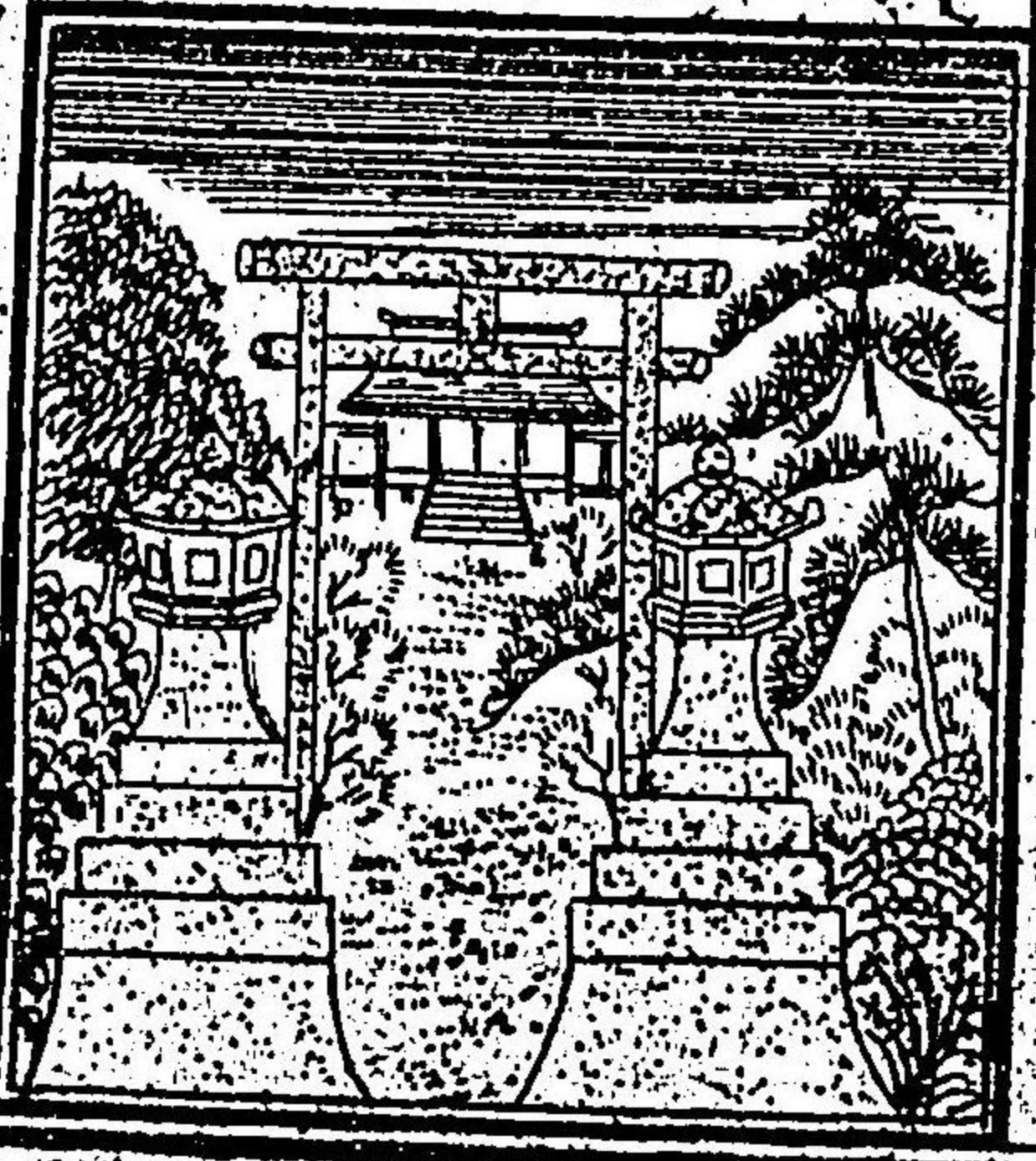
別格官幣社  
社祭神ハ  
和氣清麿  
公あり元  
高雄山  
有しを明  
治十九年  
遷す



梨木神社

寺町通廣小路あり

別格官幣社  
祭神ハ三條忠  
成公ハ明治十  
八年九月創建せら  
る

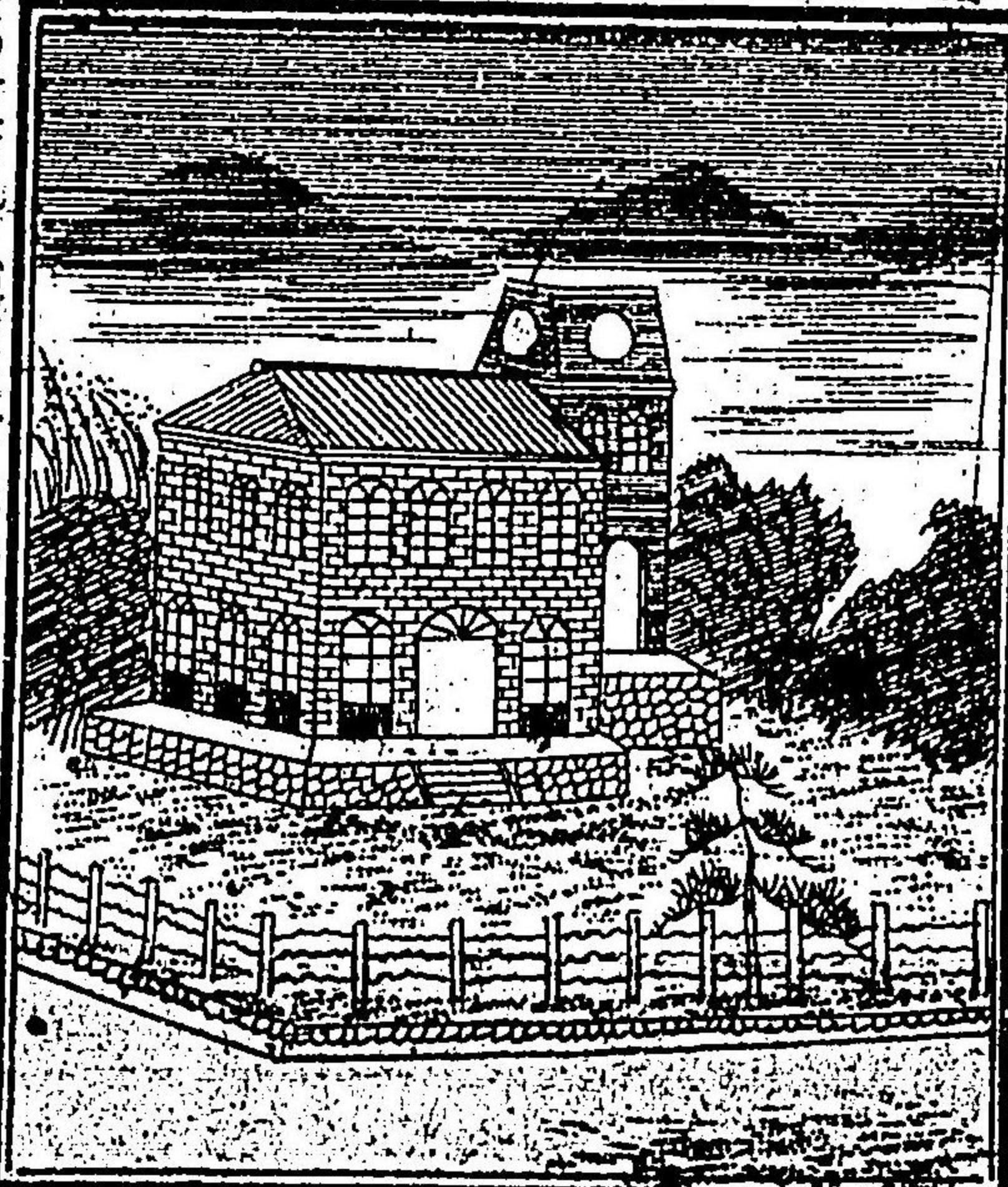




同志社

今出川島九東あり

豫備學校 普通學校 神學校 女學校 等



設く其教員多く兼教信者及米國人あり

下御靈社

寺町通竹屋町上在

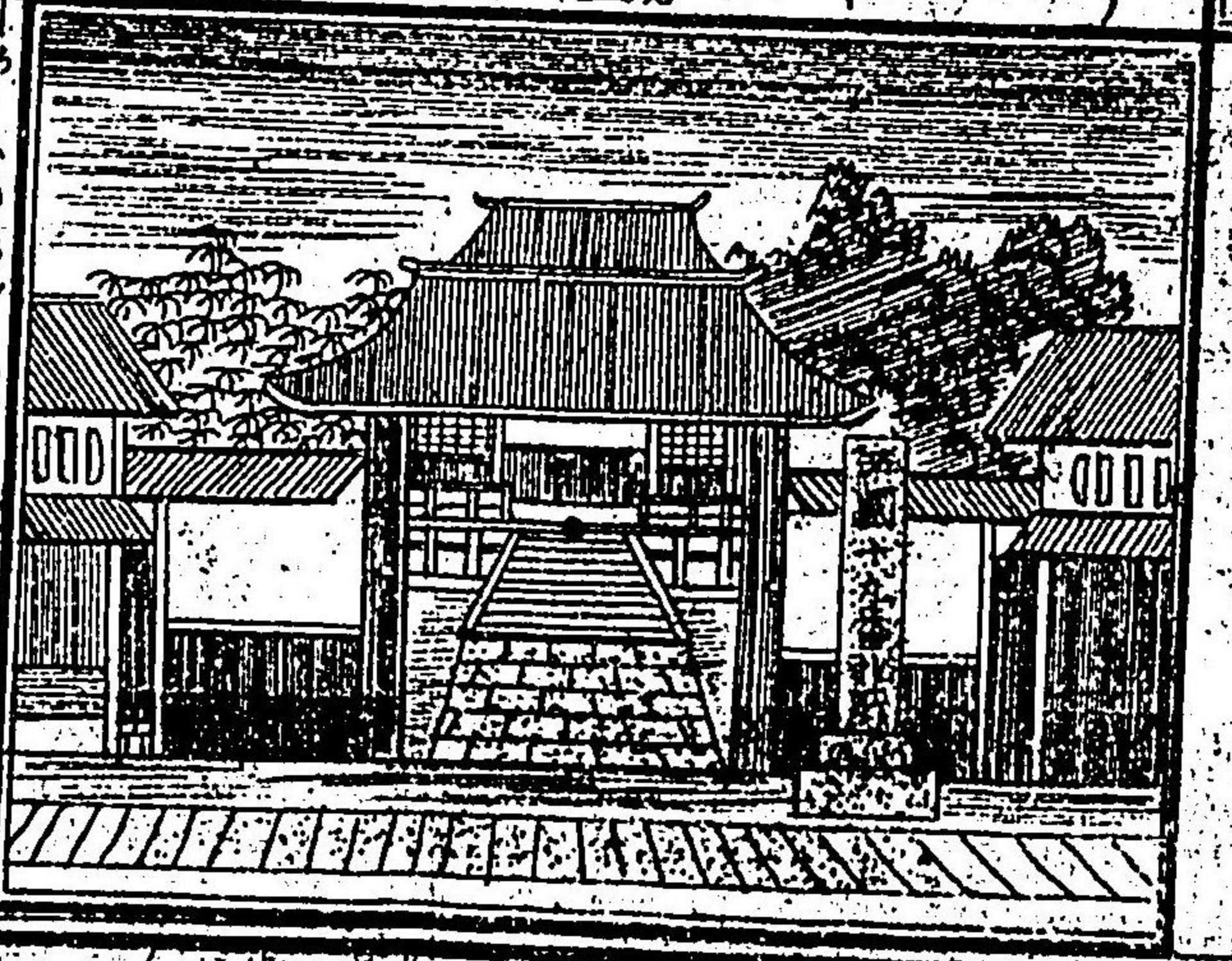
祭る所ハ所の御靈  
ありて上御靈と同  
神あり例祭ハ上御  
靈と同日なりハ所  
の神名ハ上あるす



華堂

右全所南隣りあり

行願寺と号す  
天台宗ありて  
本尊十一面千  
手觀音ハ長八  
尺の立像行圓  
上人の作也當  
寺の開基行圓  
上人元鎮西の  
人寛光二年



皇城に遊び頭は寶冠をいじり身ハ革  
衣を着せり也人革上人と呼り因て此寺を  
革堂と稱す當寺よりハ一條通新町の西  
あり故ハ一條華堂といふ西國十九番の札所

妙満寺

寺町通二條の南に在

妙塔山と号す日蓮宗ありて開基ハ日什上



人なり永徳三年に建立あり元の地ハ綾小路堀川の西にあり。當寺ハ紀州日高川道成寺の鐘あり今堂内ニ藏む

本能寺

寺町通押小路の南にあり

日蓮宗にして勝劣派なり開基ハ日隆上人初の地ハ六角の南油小路の東にあり。織田信長公の塔本堂の東にあり。題目曼陀羅日蓮上人の筆ニ表具ハ紺地の純子ニ唐草の地紋ありこれと世ニ本能寺切といふ

頂妙寺

二條橋東の北三丁にあり

日蓮宗にして一致派なり開基ハ権大僧都法印日祝上人。當寺樓門の二天東ハ持國天西ハ多門天にして運慶安阿弥の兩作あり。靈驗ありとて常ニ詣人絶ず

檀王法輪寺

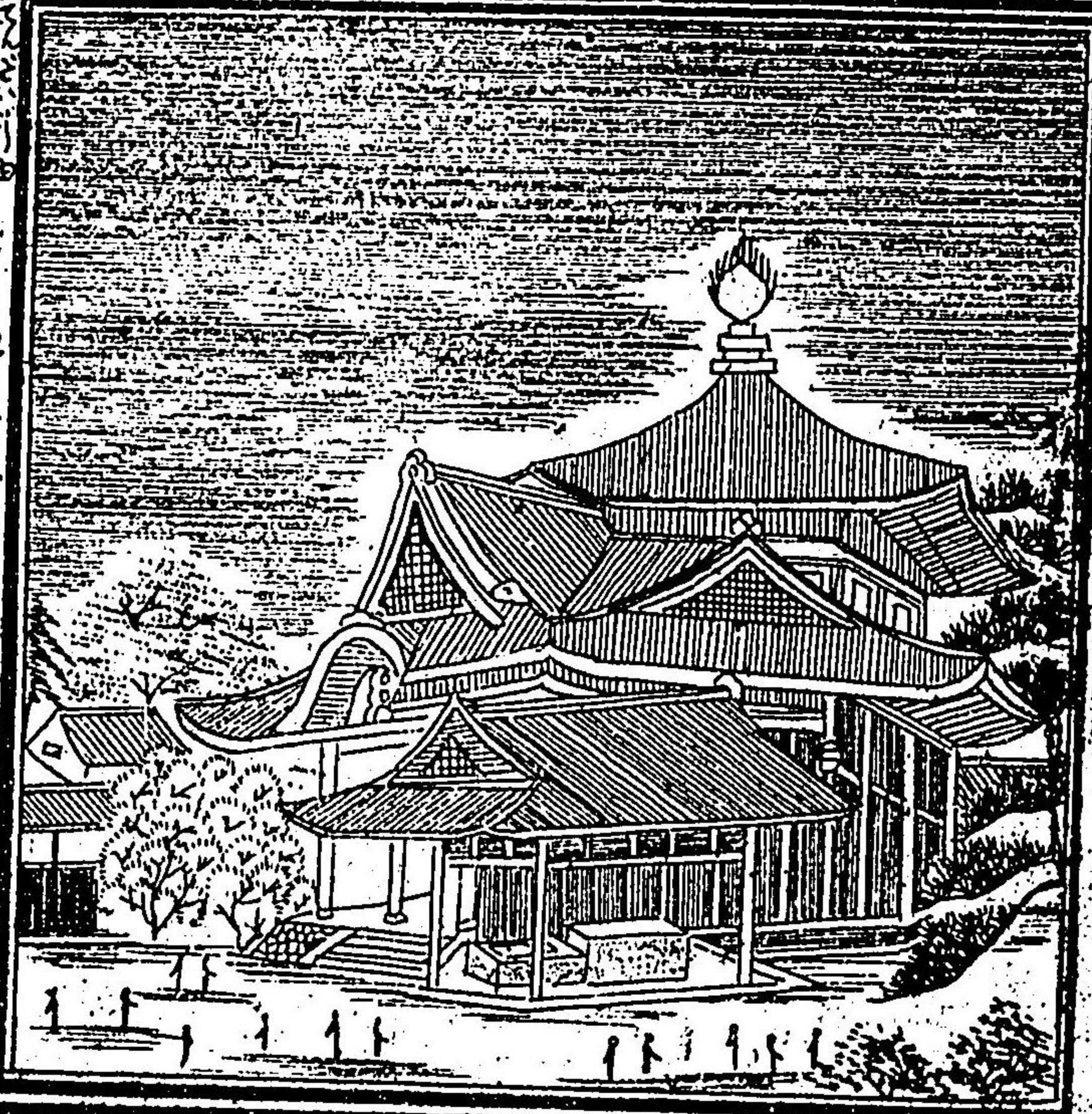
三條橋東詰にあり

淨土宗にして本尊阿弥陀佛ハ惠心の作

六角堂

六角通東河院西にあり

主夜神の祠ハ開基衣中上人の勸請ニ應給ありとて常ニ詣人多し



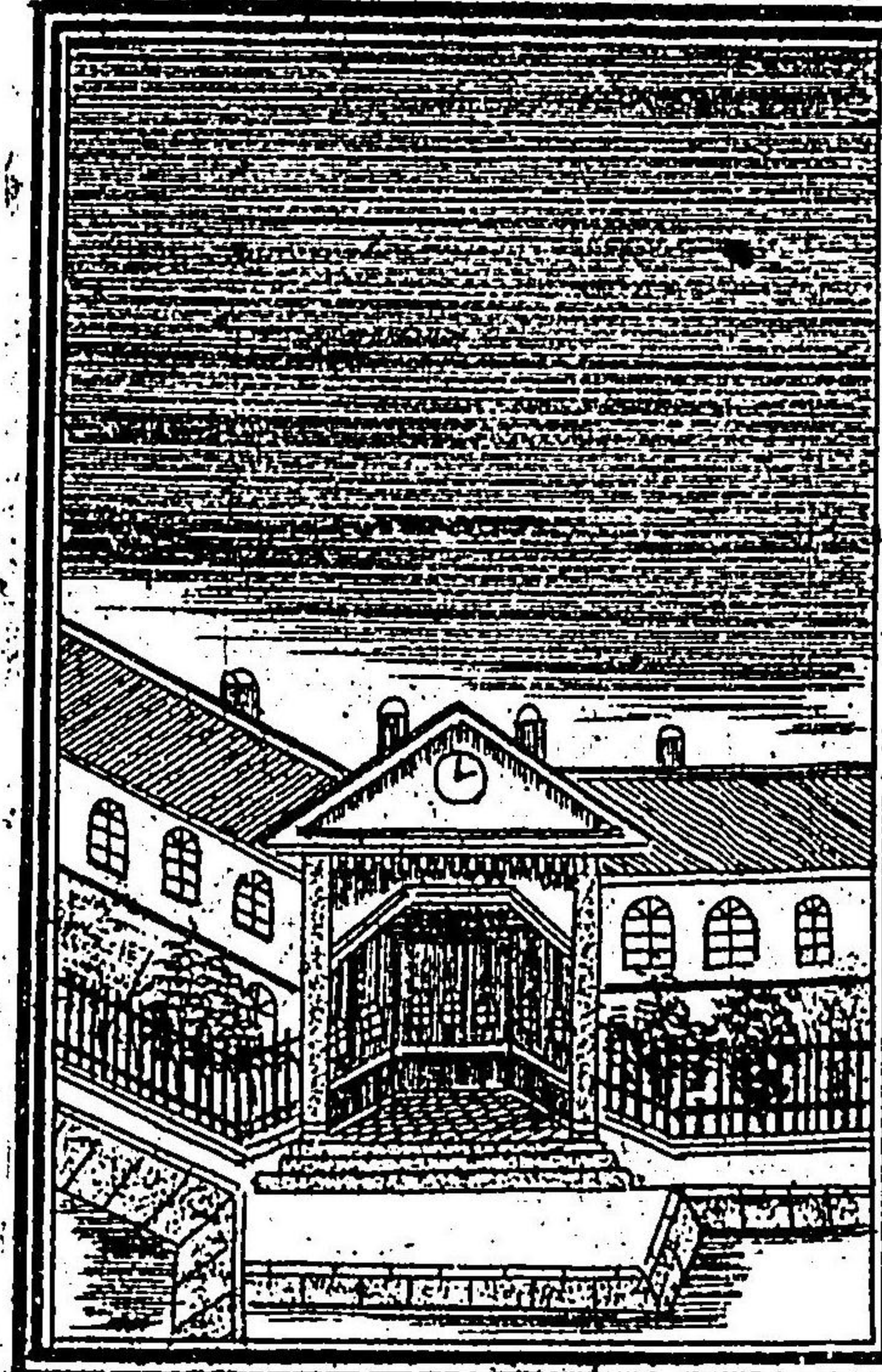
天台宗にして頂法寺と不開基ハ聖徳太子なり本尊如意輪観音ハ金像にして長一寸八分



此尊像ハわづらひ淡路國岩屋浦に夜々光あり  
 漁人こまをたあやし網をもちすま朱の唐櫃を  
 得くり其櫃の上は正覚如意輪の像一躰謹  
 上日本國之王家と書せりよつて内裏に献  
 らよ太子見玉ひて是こそ我前生七世の持  
 尊なりと尊崇し玉ひしとぞ○當寺住職  
 池の坊ハ立花の家元とす○西國十八番の札  
 所あり

郵便局

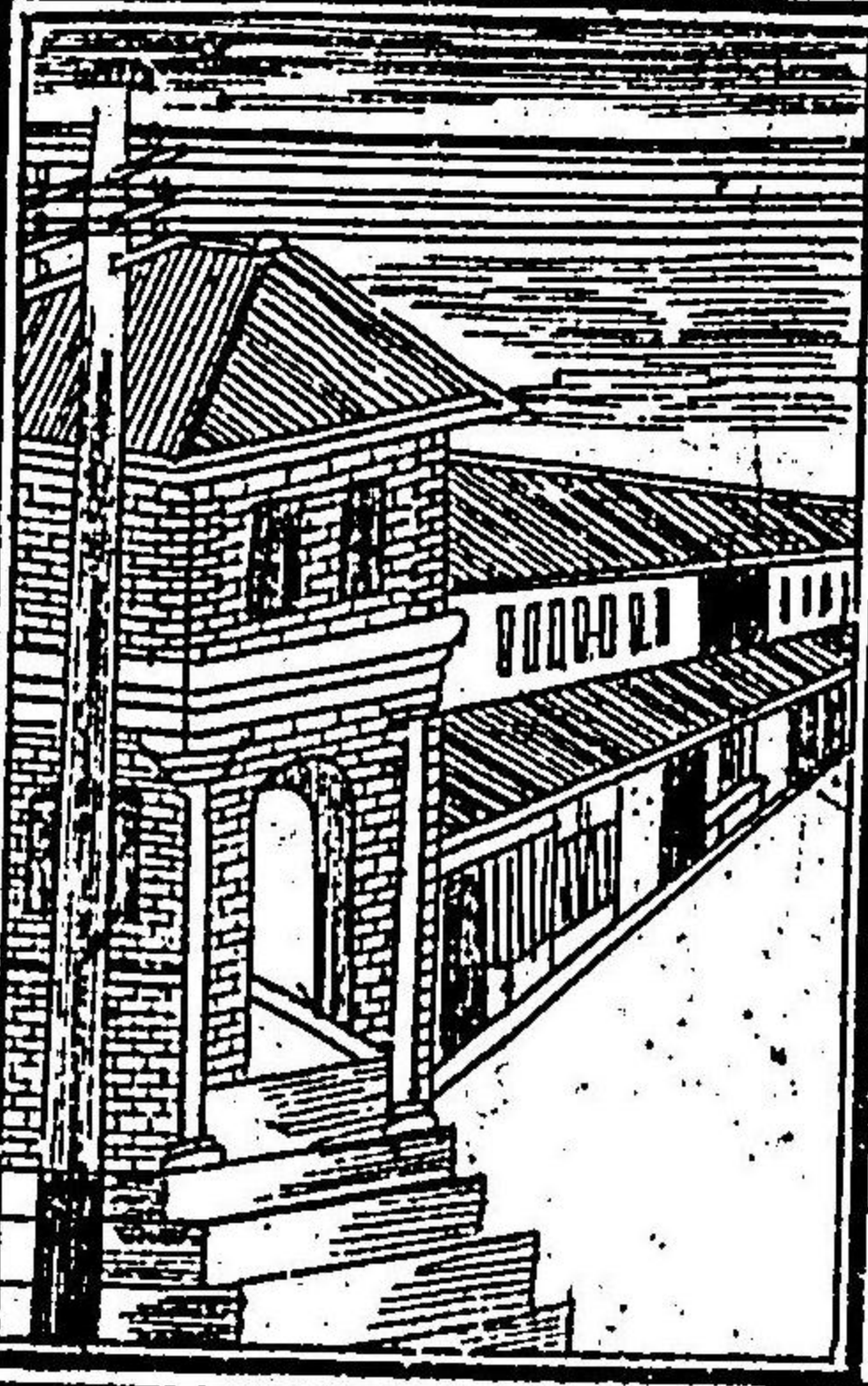
三條通東洞院角にあり



電信分局

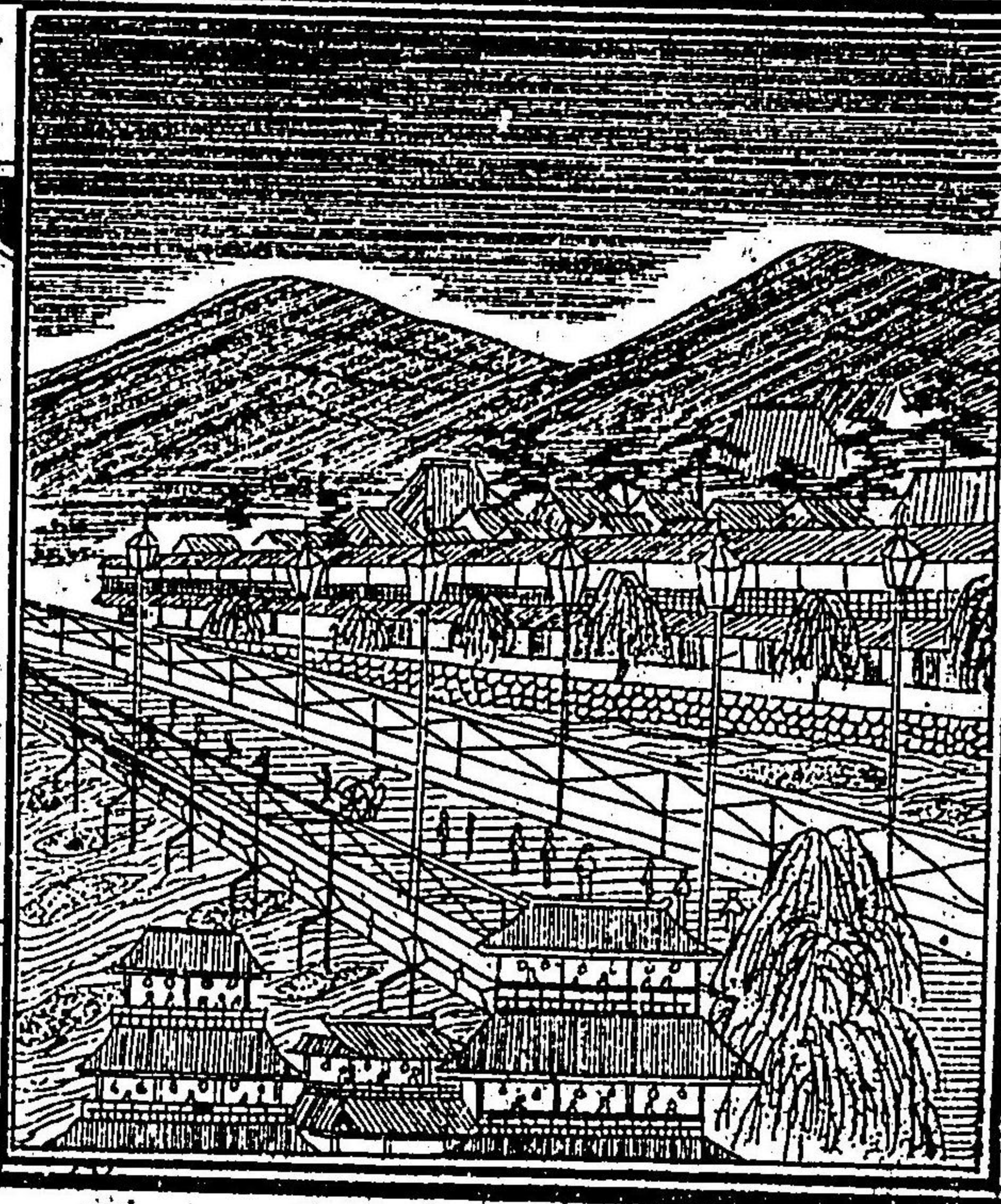
右全所

明治廿三年  
 郵便局へ合  
 併となり郵  
 便電信局と  
 稱せらる



四條鐵橋

鴨川四條通に架す



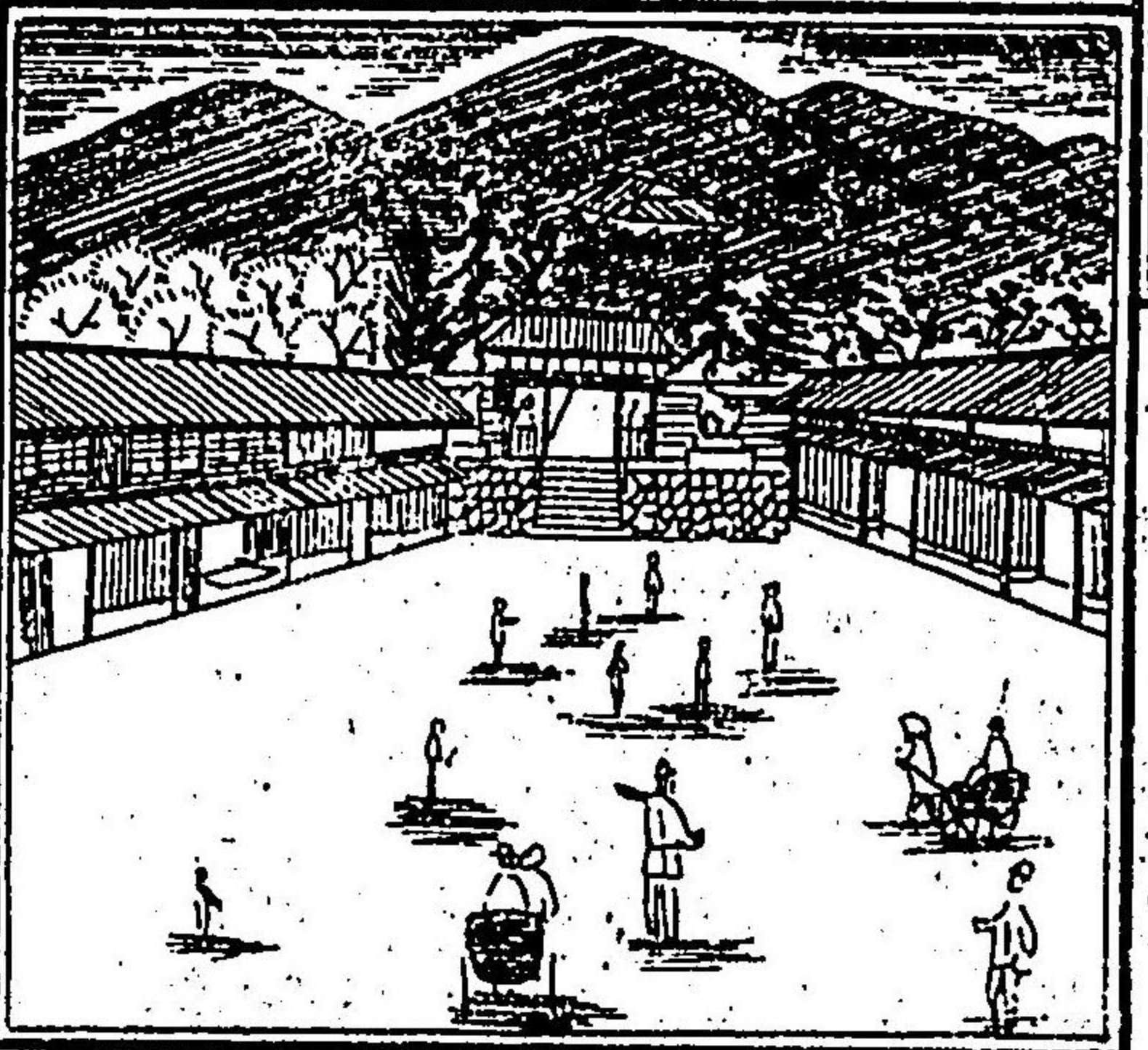


明治七年四月一日落成す橋の東兩側は劇  
場あり河原の納涼は四條より二條に至る水  
流なき処へ床机を置き茶菓氷水店等を出  
し休憩して涼を納るゝ供す方點の燈火煌々  
として天を照らして奇觀なり

祇園新地遊廓

四條通川東にあり

八坂神社の下に  
ありて貸座敷中  
最も有名なるハ  
一カと稱す藝  
娼妓の衣服装  
飾頗る優美ニ  
して歌舞は長  
するもの多し



先斗町ハ鴨川の西涯まで四條より三條までの  
間あり是又衣服裝飾頗る美なり○祇園

新地の南に花見小路と稱する処ありこゝに祇園  
館と云演劇場あり又南に安井神社及び建  
仁寺等あり

安井神社

下河原四條三丁と南に在

祭神ハ讚岐國象頭山と同じ世人おるへて  
安井の金毘羅と稱し都下の諸人常と絶る  
事なり此地ハ古より藤の名所にて崇徳天  
皇の妃阿波内侍此所を住せ玉ふ

建仁寺

大和大路四條南にあり





東山建仁禪寺ハ五山の第三カテ開基平光  
 國師ノ土御門院の勅願ヲテ征夷將軍源賴  
 家卿敷地を寄附シ建仁三年伽藍を造営す  
 山内ハ六條河原院の古鐘ありむろハ陀羅尼  
 經を誦して撞ゆ此鐘の音を稱して建仁  
 寺の陀羅尼といふ○菩提樹本堂の傍あり  
 此木開山國師宋國より將來すものとぞ  
 又南の門ハ矢立門といふハ平家の一門ヲテ  
 門脇教盛卿の館の門なりといふ

摩利支天

建仁寺南門内ニあり

嘉曆二年唐土より將來せし靈像ノ應驗  
 あつとカテ常ニ詣人多し

蛭子社

大和大路松原の北ニあり

祭る所蛭子命此邊の産土神トテ建仁寺  
 の開山平光國師の勸請ニカテ此社建仁寺  
 の境内ニあり後ハ大和大路をひいて門外

とちまきり

六波羅密寺

松原通大和大路東ニあり



普陀洛山六波羅密寺ハ真言宗トシテ本尊  
 十一面觀音ハ長一丈空也上人の作也西國  
 十七番の礼所あり

珎皇寺

六波羅の東ニ在リ

坊道ト号す本尊藥師如來ハ傳教大師の作  
 堂堂ハ小野篁の像を安置す迎鑓ハ七月



九日十日参詣の人此鐘を撞て精靈を迎る

因幡堂平等寺

松原通東洞院西あり

と云真言宗の本尊薬師如来の立像もて長六

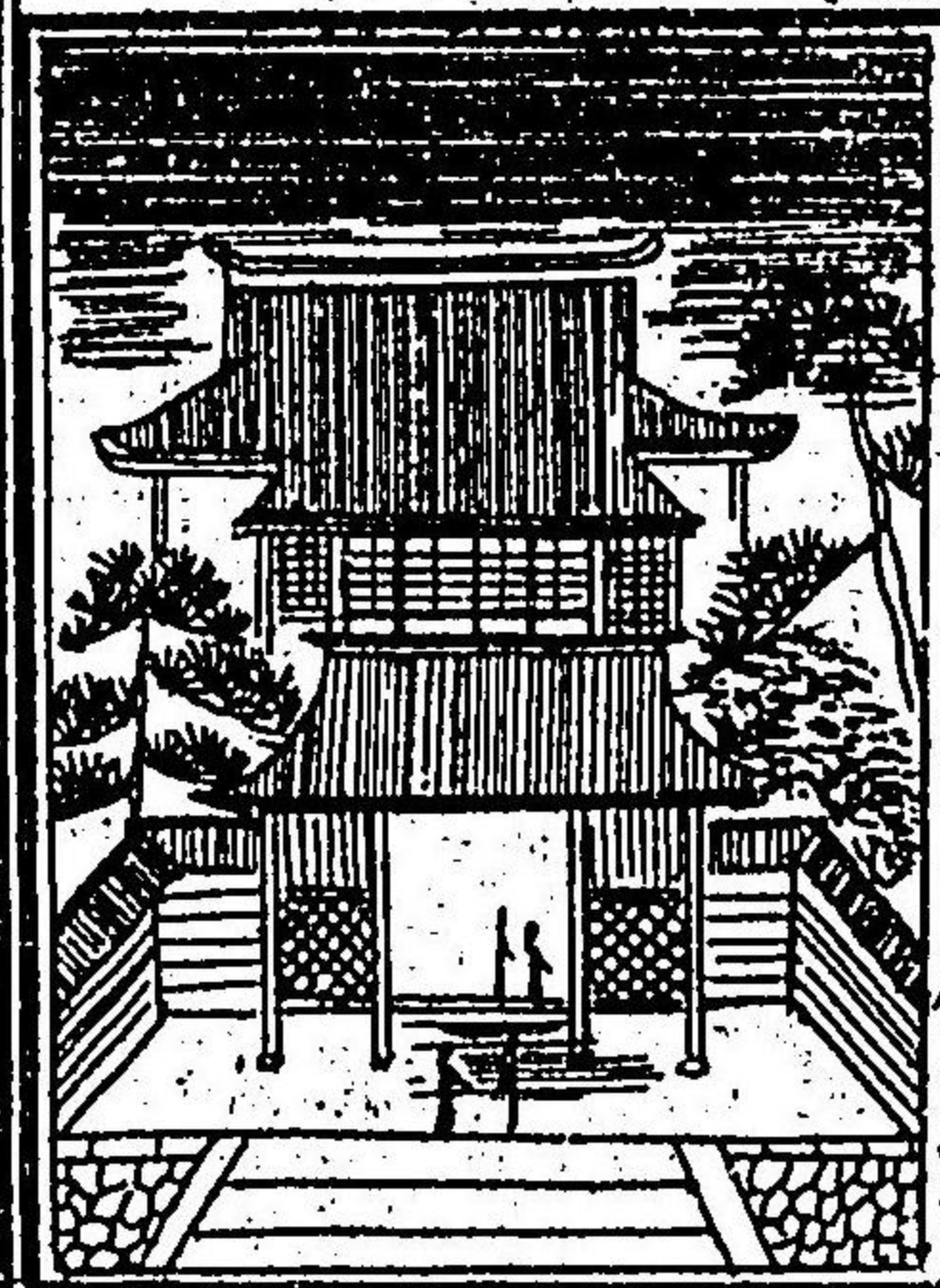


尺二寸甚磐の上よ在玉ふ脇士ハ日光月光主神ハ菩薩を安置す此本尊ハ梅檀木の像にて釋尊ニづくらく刻玉ふ聖容く日本三如来の其一なり

佛光寺

仏光寺通高倉の南あり

汁谷山と号す真宗の本山とて佛光寺派と稱す木堂よ見真大師自作の御影を安置



す阿弥陀堂本尊の立像阿弥陀佛を安置す慈覺大師の作く脇壇ハ聖徳太子自作の木像圓光大師自作の像を安置す

五條橋

五茶通鴨川に架す

五條橋ハたじめ松原通あり則ちこの五條通と秀吉公の時此所よりつす故こ五條橋通といふ此橋上の半より東に向ハ



洛東の勝地木の間くありきて平安の



佳景 止る

御影堂

五条通寺町西あり

新善光寺といふ  
天長年中檀林皇  
后の建立よて開  
基弘法大師之  
中興王阿上人真  
言宗を改め時宗  
と名る本尊阿弥



陀佛ハ安阿弥の作人坊中ノ扇を折て業とす  
家数軒ありて名物なり

大雲院

龍池山貞  
安寺といふ  
浄土宗  
して開基



八景安上人なり

神宮教會

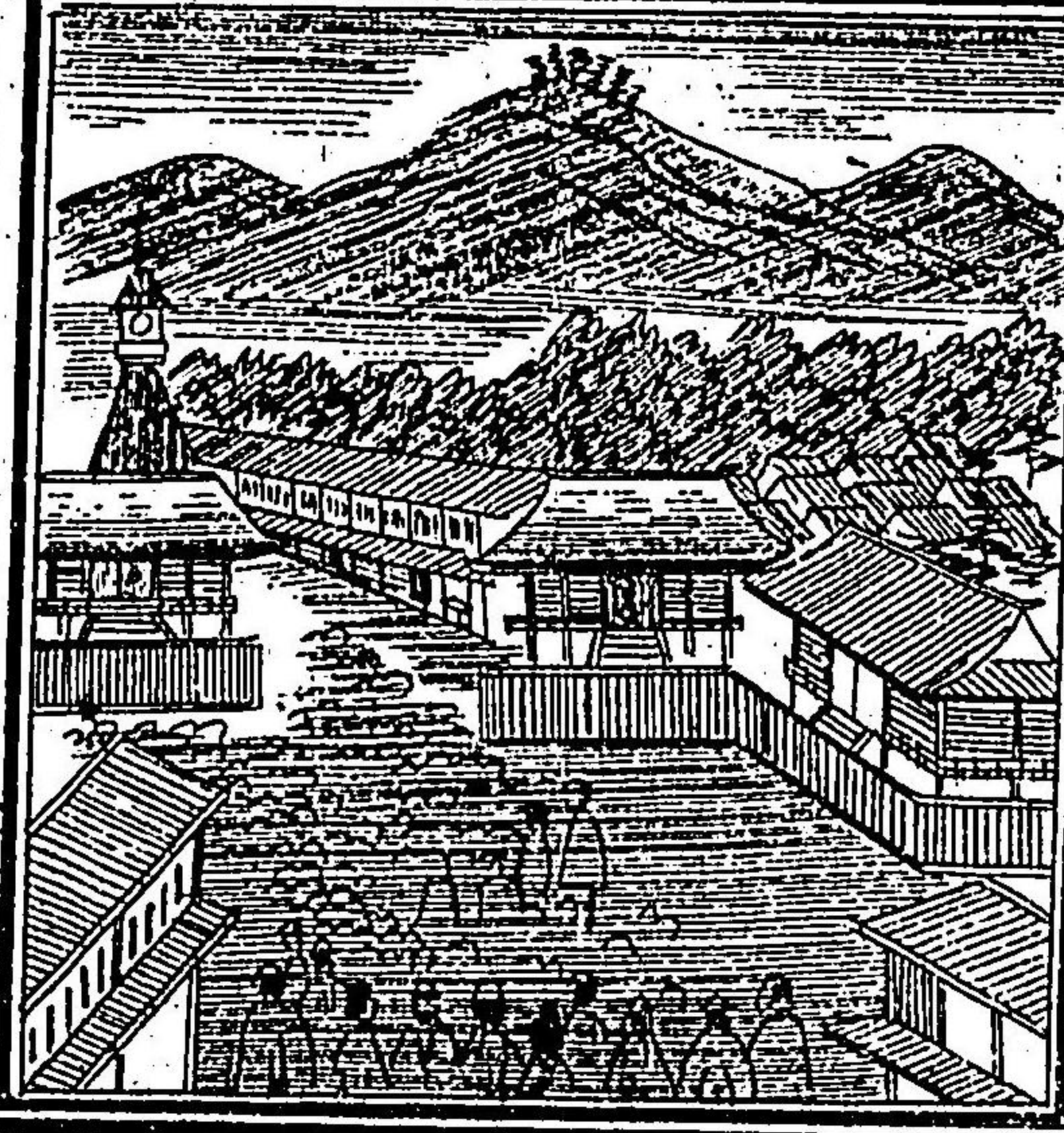
神宮司廳の出張  
所なりて太神宮と  
祭り事務を取扱  
ふなり時々説教  
あり



八坂神社御旅所

四条通寺町東あり

此地を御  
旅町と云  
祇園會の  
神輿三基  
此所ニ神  
幸一玉ひ  
御旅中七  
日の間詣





人群集す

金蓮寺

寺町通四条北にあり

四條道場と稱す時宗より本尊は阿彌陀仏開基は淨阿上人親戀地藏は運慶の作の杜鵑松は方丈の東にあり杜鵑洛陽より來る時先此木に至りて啼初るとあり

深殿地藏

右全所の南にあり

十住心院といふ真言宗より本尊地藏尊は弘法大師の作の深殿皇后常尊信ありて當院を建立し玉子故に深殿地藏と稱す

蛸薬師

右全所蛸薬師行当にあり

永福寺と号して舊圓福寺の境内に本尊薬師佛は石像にして長三尺傳教大師の作の鯉地藏は堂の前よりあり

和泉式部の塔

右全所の北にあり

誠心院の境内に和泉式部此寺に入て尼とあり

て住しと傍に軒端梅と言水の墓あり

新京極

維新後

三條より

四條まで

の數ヶ寺

の境内を

開通し

と一筋

の街路

として諸

興行席

遊技場

飲食店

と雜貨

店を以て



京都府下京極

三十七



充す故  
旅客一  
とびて  
ふ乗れ  
終日耳  
目を慰  
るとを  
得べし  
其繁花  
雑沓京  
都第一  
とす今  
其種類  
を茶丸  
○芝居  
ハ三条



の南一あると常盤名座といひ六角通とあるを夷  
谷座といふ六角通の南一太黒座と福井座あり  
四条の北一坂井座あり大概年中絶えず興行せ  
り其中一夷谷座と福井座ハ女能優く○浄瑠  
璃ハ女太夫の席ニヶ所あり新内も定席ニヶ所  
あり○俄狂言ハ定席ニヶ所あり○講談及い  
昔もありの定席数ヶ所あり此外見せとの寺  
数ヶ所あり○手踊の定席ニヶ所あり○遊技  
場ハ玉突室内射的揚弓大弓等数ヶ所あり  
○飲食店ハ西洋料理精進料理店をむや善哉  
餅屋すーや寺一とて備をらざるハナ

誓願寺

全所六角行突とあり

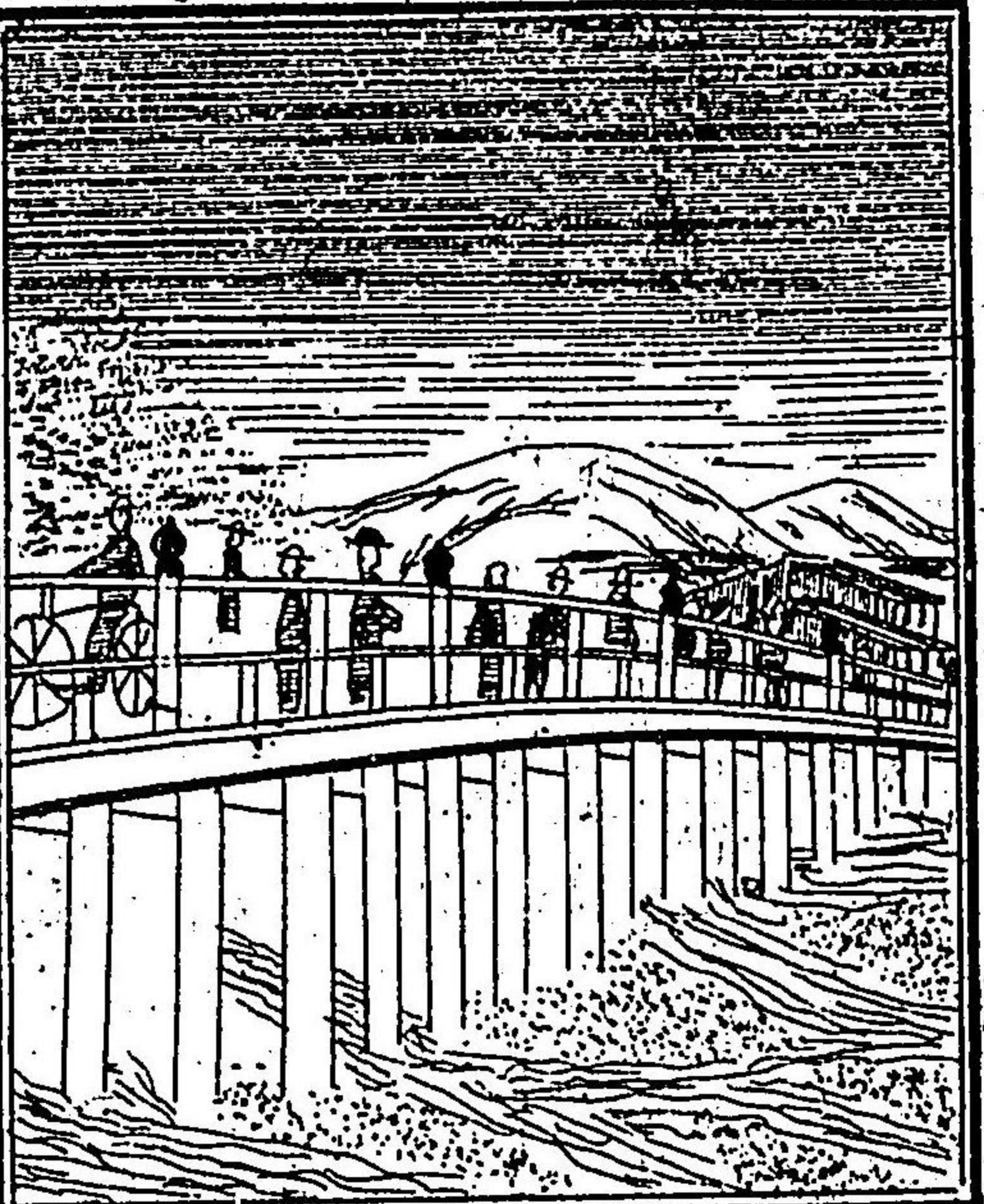
浄土宗より深草流義の一本寺と本願ハ  
天智天皇開基の惠隱僧都といふ本尊阿彌陀  
佛ハ長八尺の坐像より賢問子芥子國兩  
人の作と六字の額ハ一遍上人の筆と



三條大橋

鴨川筋三條よりあり

三條大橋ハ東國より平安城に至る喉口ノ  
貴賤の行人常に多く京都の繁華ハ此橋上  
ニ見ヘり橋の長さ六十三間幅四間五寸  
あり欄干ハ紫銅の擬宝珠十八本ありて  
悉く銘を刻む其銘曰く



洛陽三條之橋  
至後  
代化  
度往  
還人  
磐石  
之礎入地五尋切石之柱六十三本蓋於日域  
若杜濫觴乎天正十八年庚寅正月日豊臣初

之御代奉増田右衛門尉長盛造之

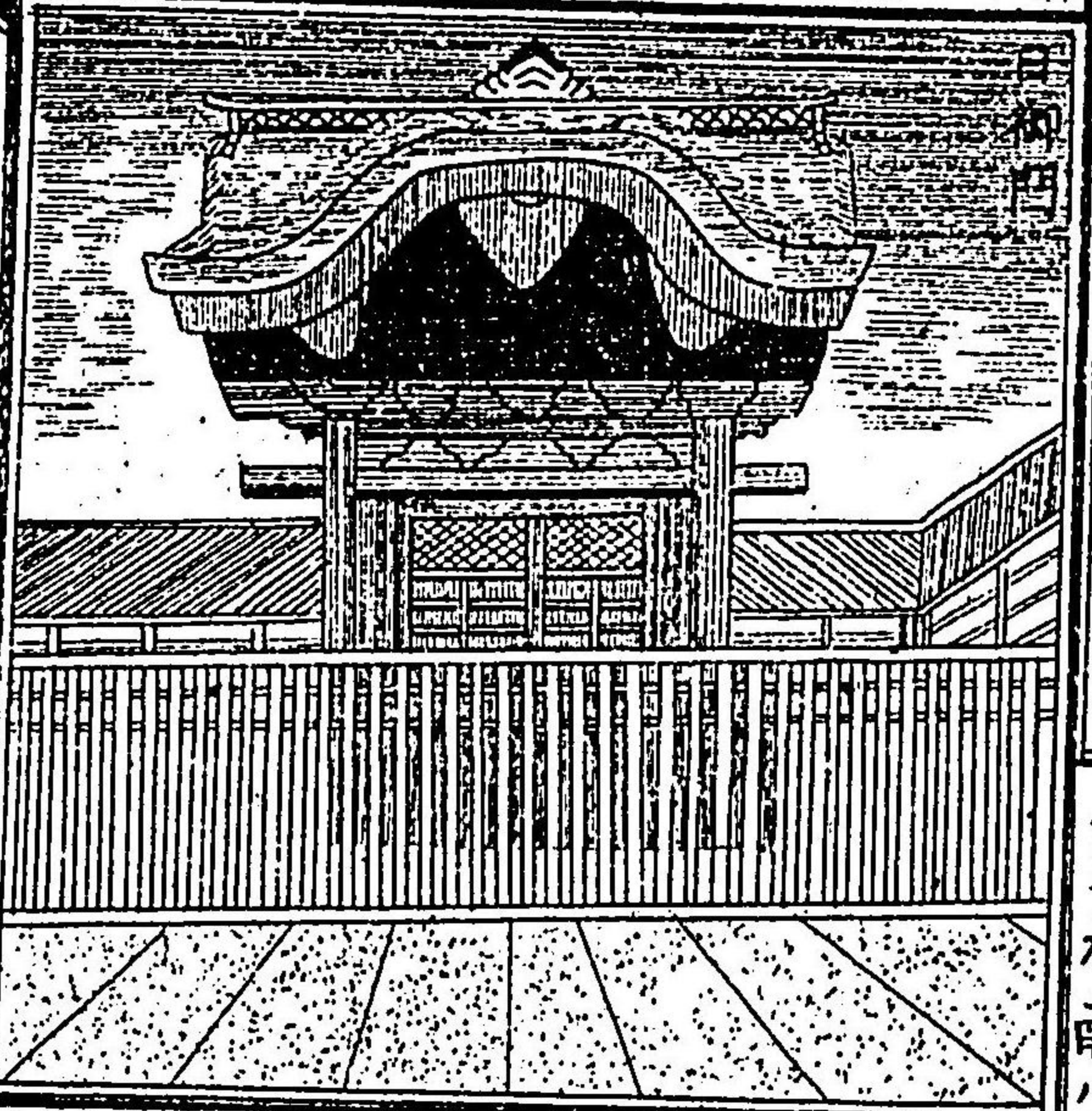
三條小橋

大橋の半丁許西高瀬川に架す  
橋の東詰北に至る町を木屋町といふ寄宿  
席貸料理屋等多くづれも鴨川の西岸に  
浴ひ東山の眺望絶佳なりて旅宿北第一  
等と称す

舊内裏日御門紫宸殿

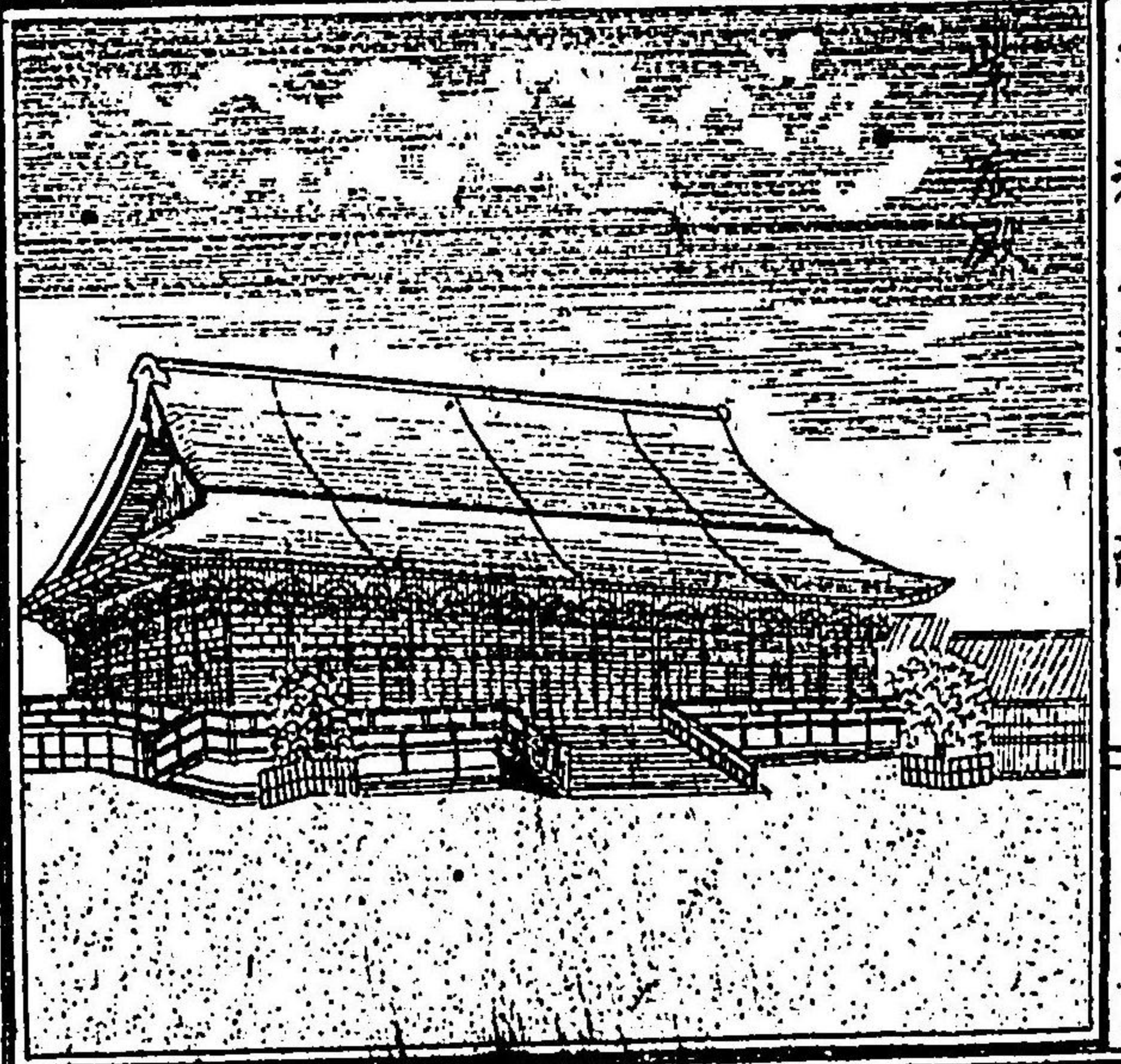
東ハ寺町西  
ハ鳥丸南ハ

九太所  
北ハ今  
出川を  
限御苑  
内と中央  
ふ皇居  
あり  
平安城  
の興基  
ハ人皇  
五十代





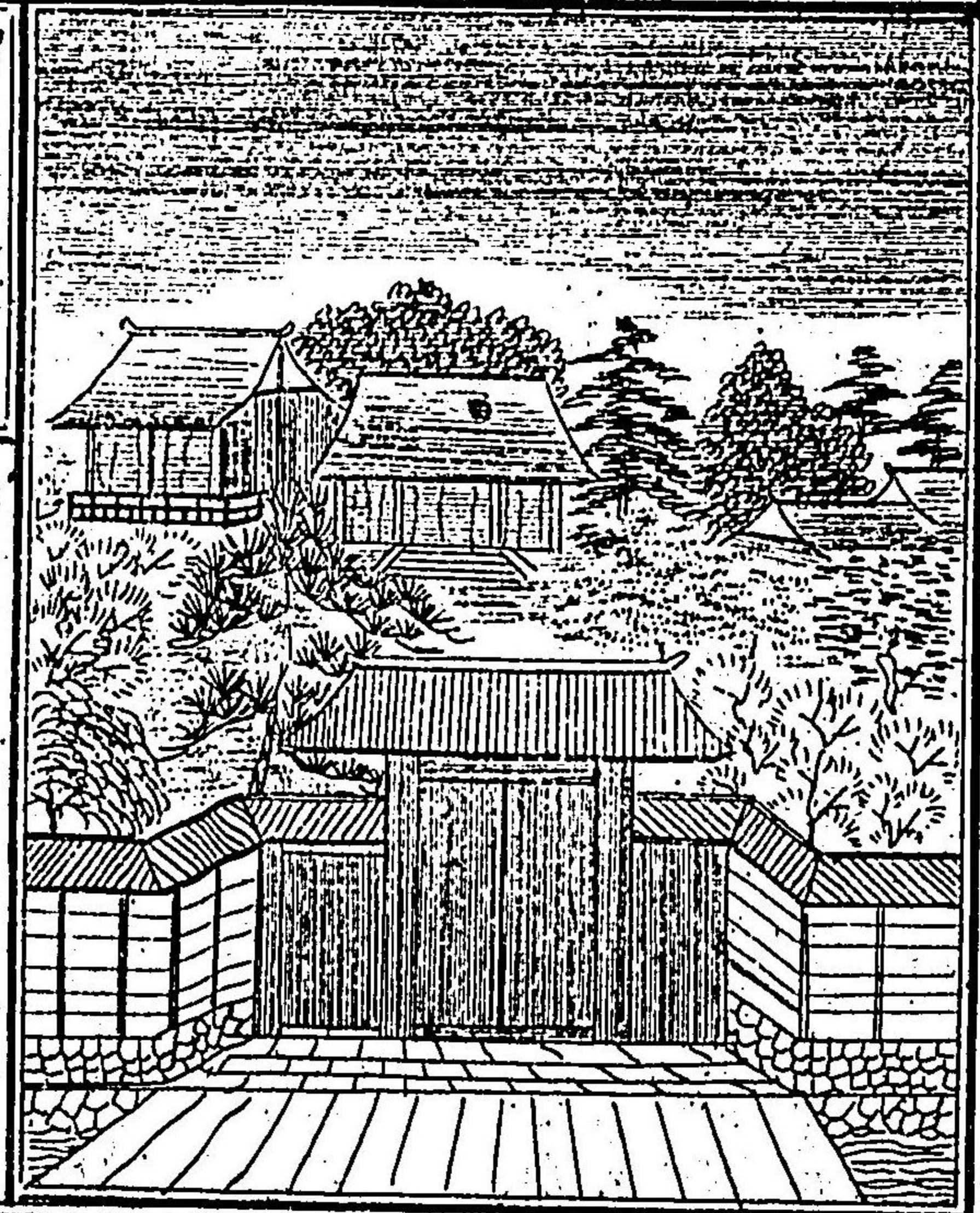
桓武天皇延暦十二年大内裏御造堂今の内裏へ正親町天皇天正



年中の御修造なり南面の門を建礼門東面の門を建春門西面の門を宜秋門北面の門を朔平門と云ふ此外郭東西五百四尺南北三百尺中央は紫宸殿あり前の三門ハ東を日華門と云ひ西を月華門と云ふ中を承明門と云ふ南殿の東北は林泉あり北は常御殿ありて其結構善美く仙洞御所の舊趾ハ

日の御門の南にあり御林泉の景色最佳く

大宮御所 仙洞御所の北に並ぶ殿舎壯麗なり内裏と共に保存せらる



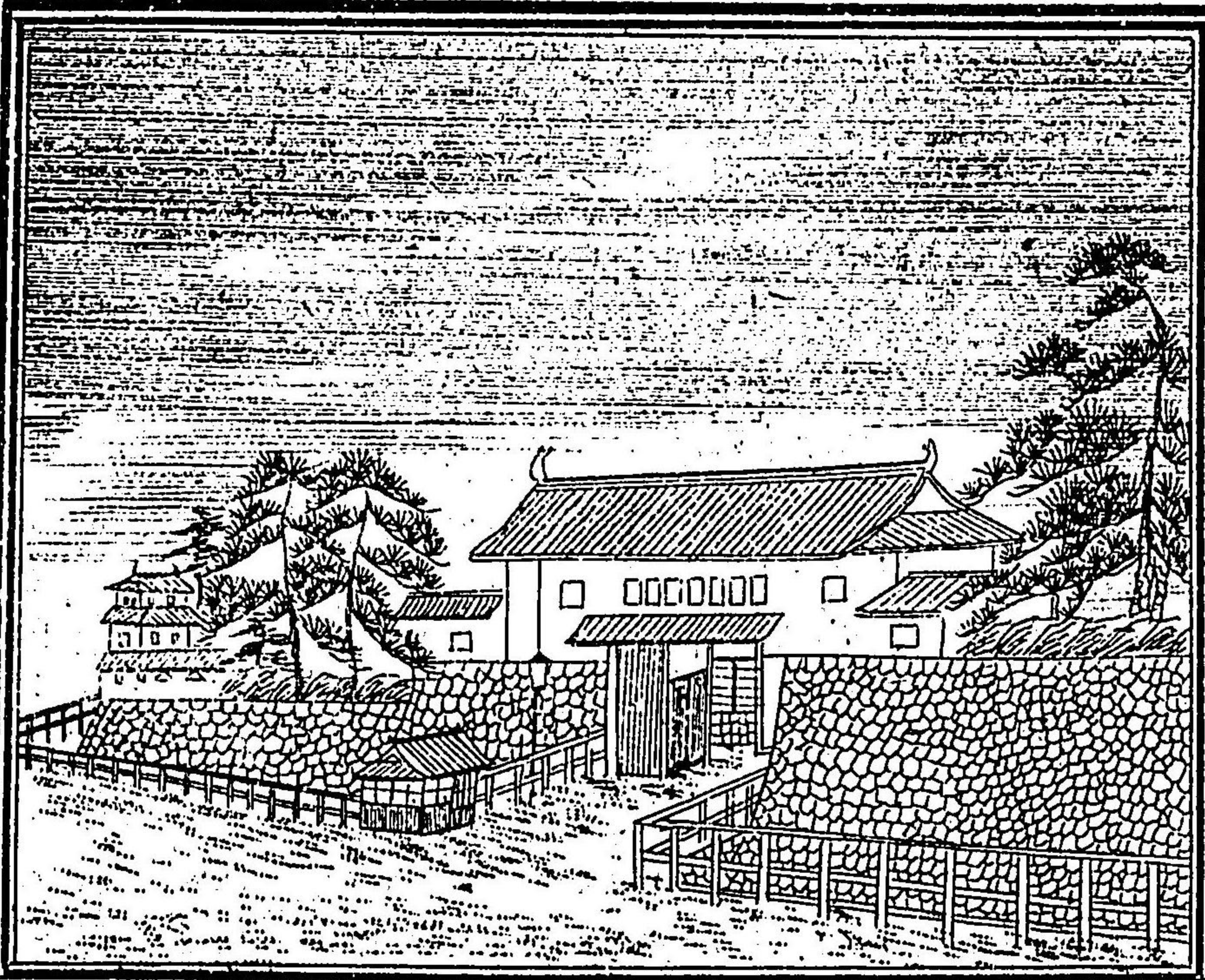
博覽會會場 御苑内の東南にあり

博覽會開設の始めハ明治四年三月皇居の空殿においで催さる其後大宮御所に移さる同十四年此所を建築す毎年三月



一日開會し六月八日之閉場す此東ニ美術  
 学校あり

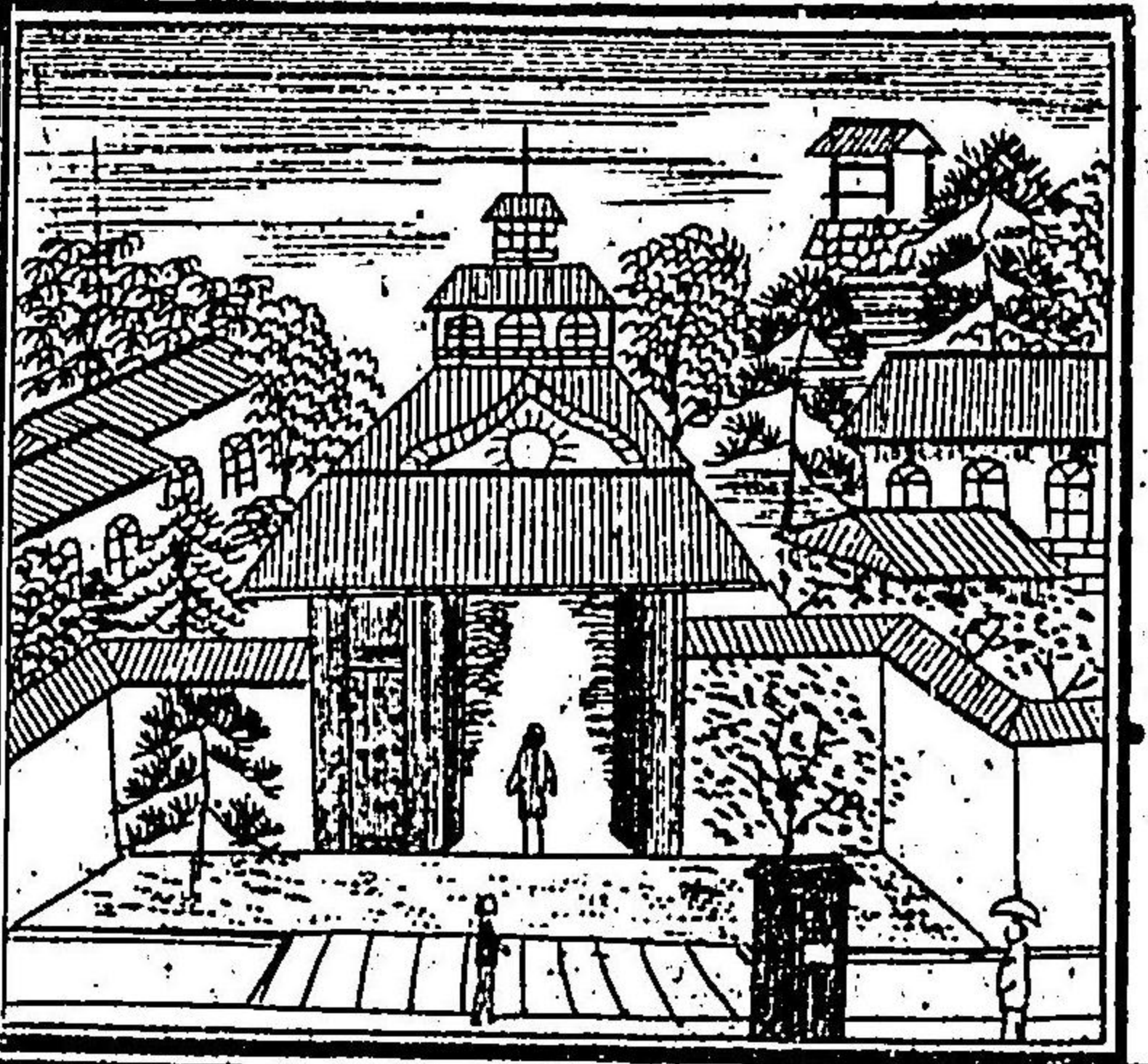
二條離宮 二條通堀川の西ニあり



此城ハ慶長七年徳川家康公の造営ありて  
 初め天主閣あり一寛延三年八月雷火ニ  
 炎焼す本丸ハ天明八年正月大火のよめニ  
 類焼す元此城ニ京都所司代を置く王政復  
 古の際太政官代となり又京都府を置き今  
 離宮ニ定めらる

京都府廳 下立賣新町の西ニ在り

王政維新の際軍務官とあり其後京都中學  
 校となり今京  
 都府とある此  
 府廳の前通り  
 金座丸太町の  
 北ニ盲啞院あ  
 り盲人啞人ニ  
 學術工藝等を  
 授くる所なり

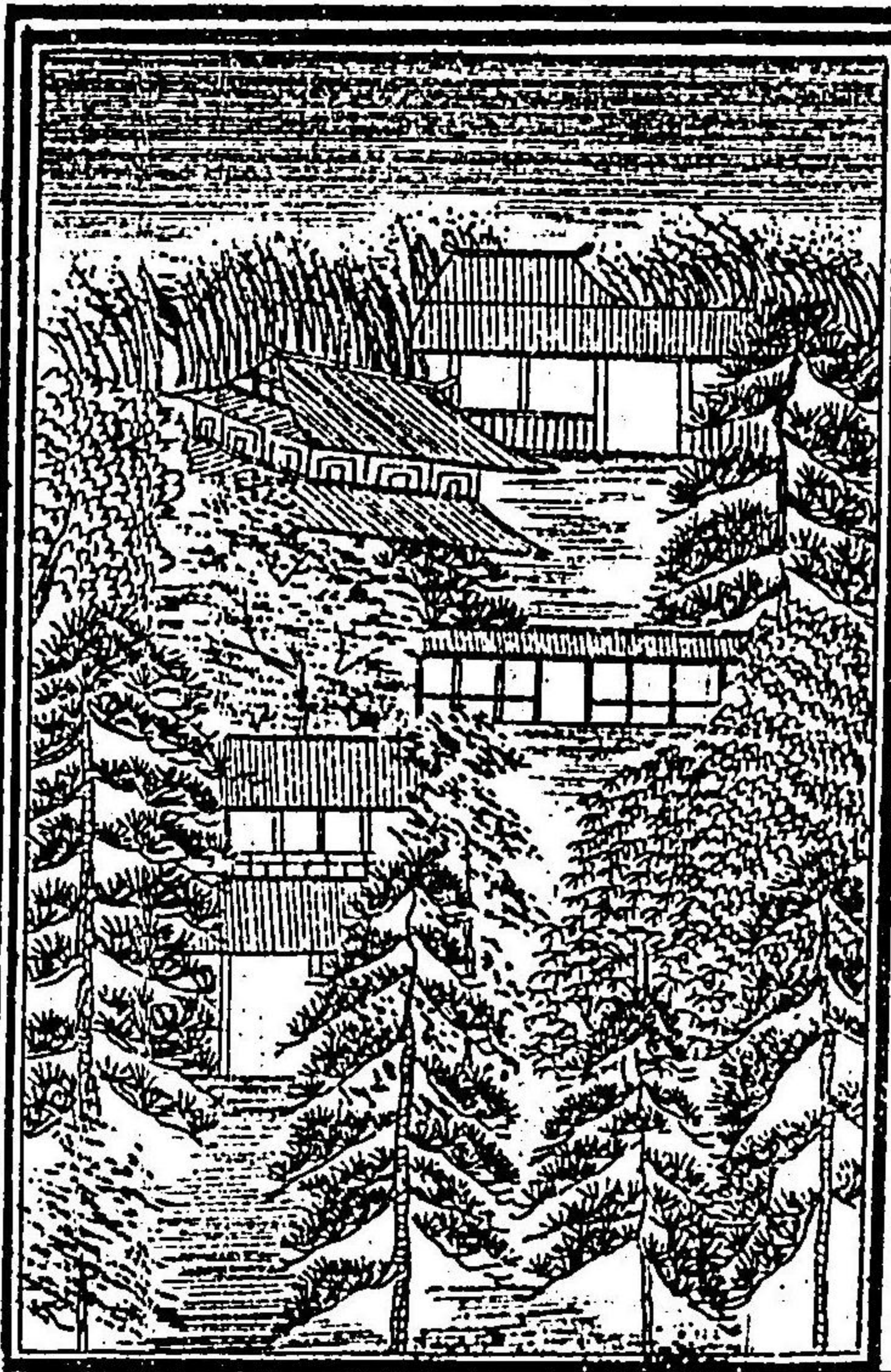




相國寺

今出川御門の北にあり

京都五山の第二なりて萬年山相國承天禪寺といふ開基ハ夢窓國師後小松天皇の御宇明徳三年足利三代の將軍義滿公の建立なり佛殿ハ釋迦如来を安置し迦葉阿難を左右なり達磨大元の像を脇壇に安置す祖師堂ハ夢窓國師の像あり後水尾院の御再建よりて同帝の神牌を安置す塔頭普光院の竹林ハ黃門定家卿の墓あり



上御靈神社

室町頭東北にあり

祭神ハ早良親王伊豫親王藤原夫人文太夫橘逸勢藤原廣嗣吉備大臣火雷神の八所御靈あり朱雀院の御宇天慶二年鎮め奉る二條以此堀川以東より此邊小至る産土神として例祭ハ



五月十八日神輿を渡す京都四大祭の一なり四大祭ハ八坂稻荷 下加茂ハ八丁今宮御靈をいふ

下加茂社

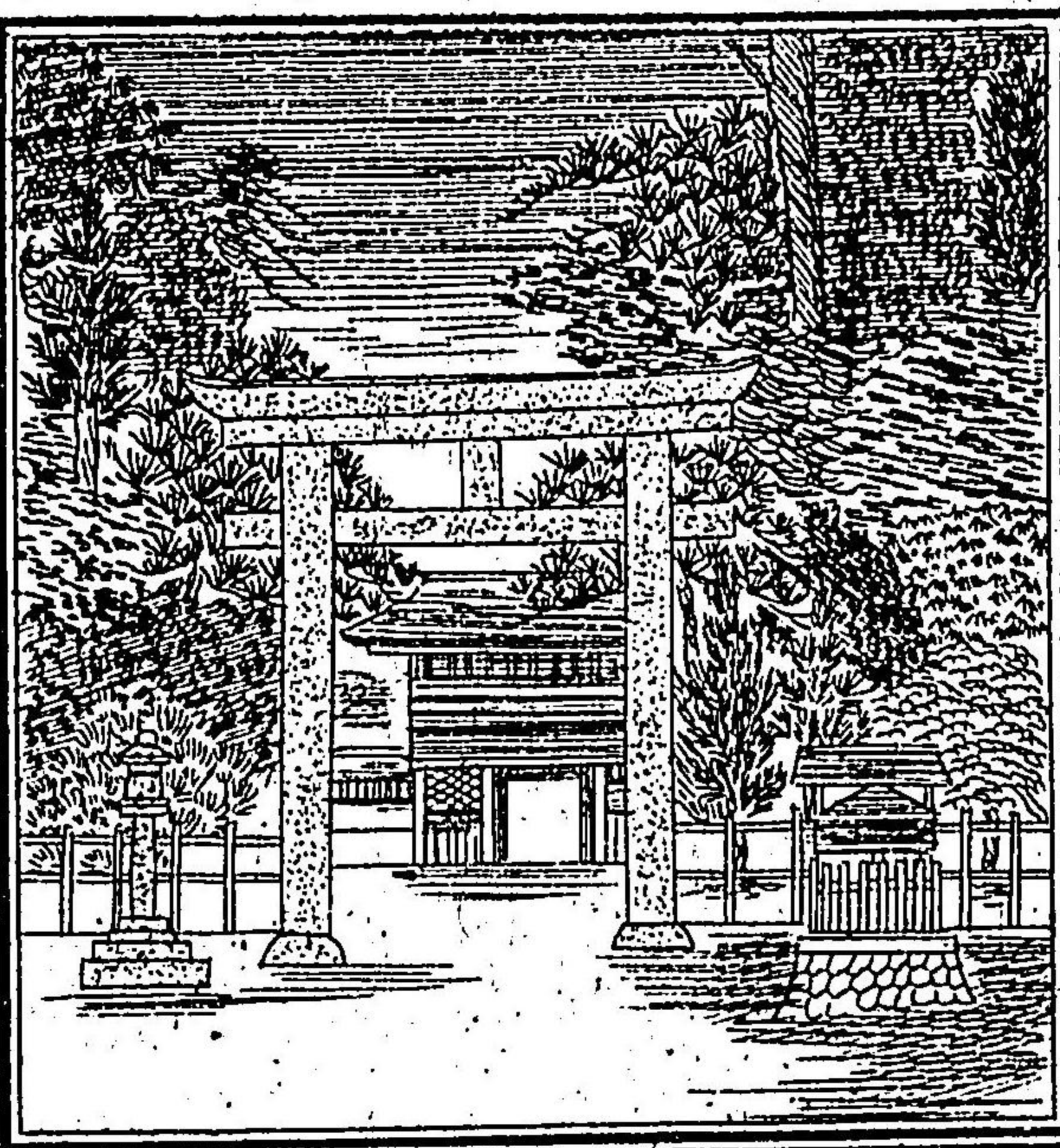
加茂川筋今出川北へ入

官幣大社なりて玉依毗賣命大山咋神を祭る山城國一の宮なりて桓武天皇長岡の京



より遷都以前の鎮座なり境内は於神社あり此社地は諸木を植れば悉く於に化すと

いふ  
其外  
末社  
多し  
糺の  
森  
清水  
涌出  
る是



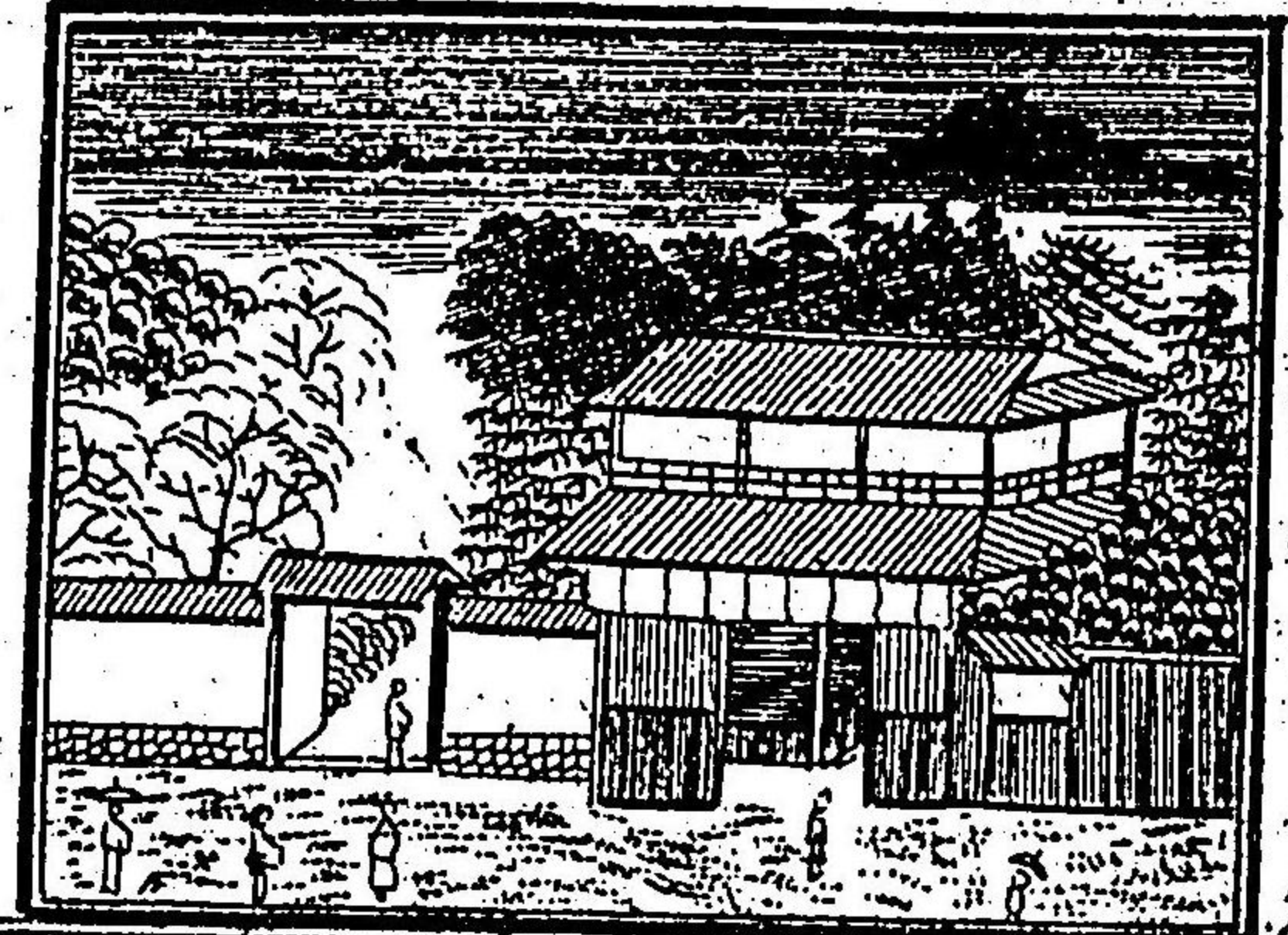
糺川の源あり夏日納涼は良好の地とす  
官祭は五月十五日ありてこまを焚祭と云  
此日大内より御車出て公卿騎馬ありてあむ  
くつらとりけ其御儀式嚴重ありて美麗の  
行粧ありびあは然不礼なり 此所より山端

へ十五町

山端

愛宕郡修学院村の西あり

山はまれば料理店平八の麦飯とろく汁の名  
物なり川魚は高の  
川の産ありて頗る  
美味あり好こま應  
じ海魚も賣るあり  
庭前より高の川の清  
き流を帯び山水れ  
景色最も美なり  
此所より下御茶屋  
へ六丁



下御茶屋

愛宕郡修学院村あり

風景最も美なり菩提樹壽月觀藏六庵  
あり彎曲欄は田植御覧の所あり  
此所より修学院へ三丁



修學院

修學院村の山上あり

往古修學院といふ寺ありし所なり其寺荒廢して村の名は残りし後水尾天皇の御

時離宮

を造宮

し玉ふ

林泉風

景の美

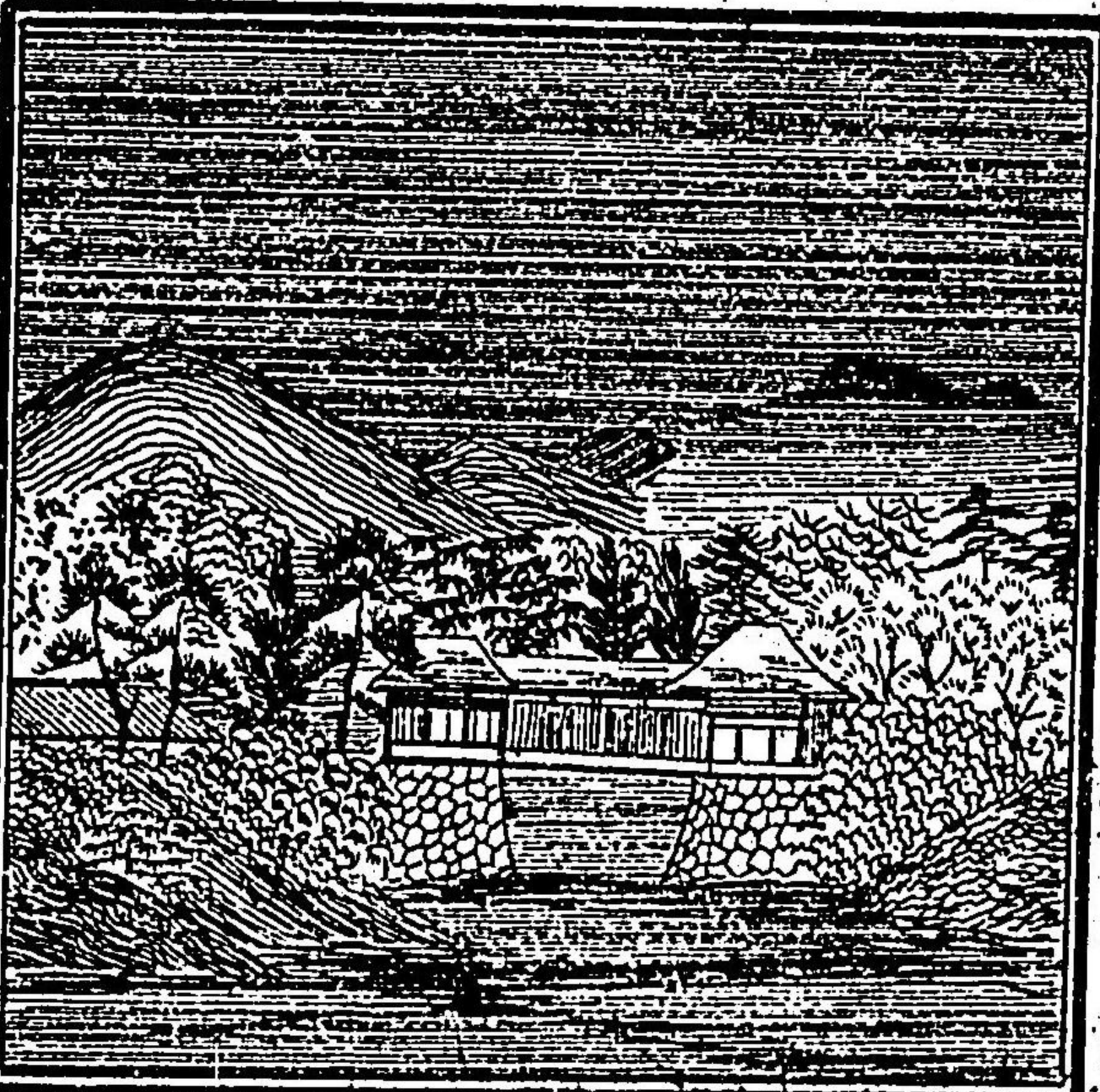
ある筆

紙を尽

しごと

し

是を上の御茶屋といふ明治廿三年更ニ離宮と定め玉ふ



寂光院

愛宕郡大原村あり

真言宗より弘法大師の開基なり本尊地

藏菩薩

聖徳太子

の作文治

年中建礼

門院閑居

の地あり

て今も尼

寺なり建

礼門院の

御影阿波

内侍の像

あり又同村に瀧清水あり謡曲より有りて世人の知る所あり此所より証拠の阿弥陀

へ二丁



勝林寺

右同村あり世に大原寺といふ

天台宗より本尊阿弥陀佛ハ文治二年



法然上人、大原問答の時、証據よ立玉ひひとをせよことを証據の弥陀といふ開基ハ寂源法師なり

岩倉大雲寺

愛宕郡岩倉村にあり

天台宗なりて本尊聖觀音ハ行基の作あり  
円融帝北御建立なり又岩倉と号することハ桓武帝此地ハ經を納め玉ひいよるとあり  
大雲寺の額ハ參議佐理卿の書開基ハ智弁僧正なり境内山上ハ妙見堂あり  
此所より鞍馬ハ一里

鞍馬寺

愛宕郡鞍馬村にあり

天台宗本尊毘沙門天例年一月初寅の日諸人參詣群集す牛若丸の住せらまき東光坊の旧跡あり

鞍明神社

大門より二十許山上にあり

祭神ハ大己貴命天慶年中の勸請なりて

鞍馬村の産土神なり

貴布神社

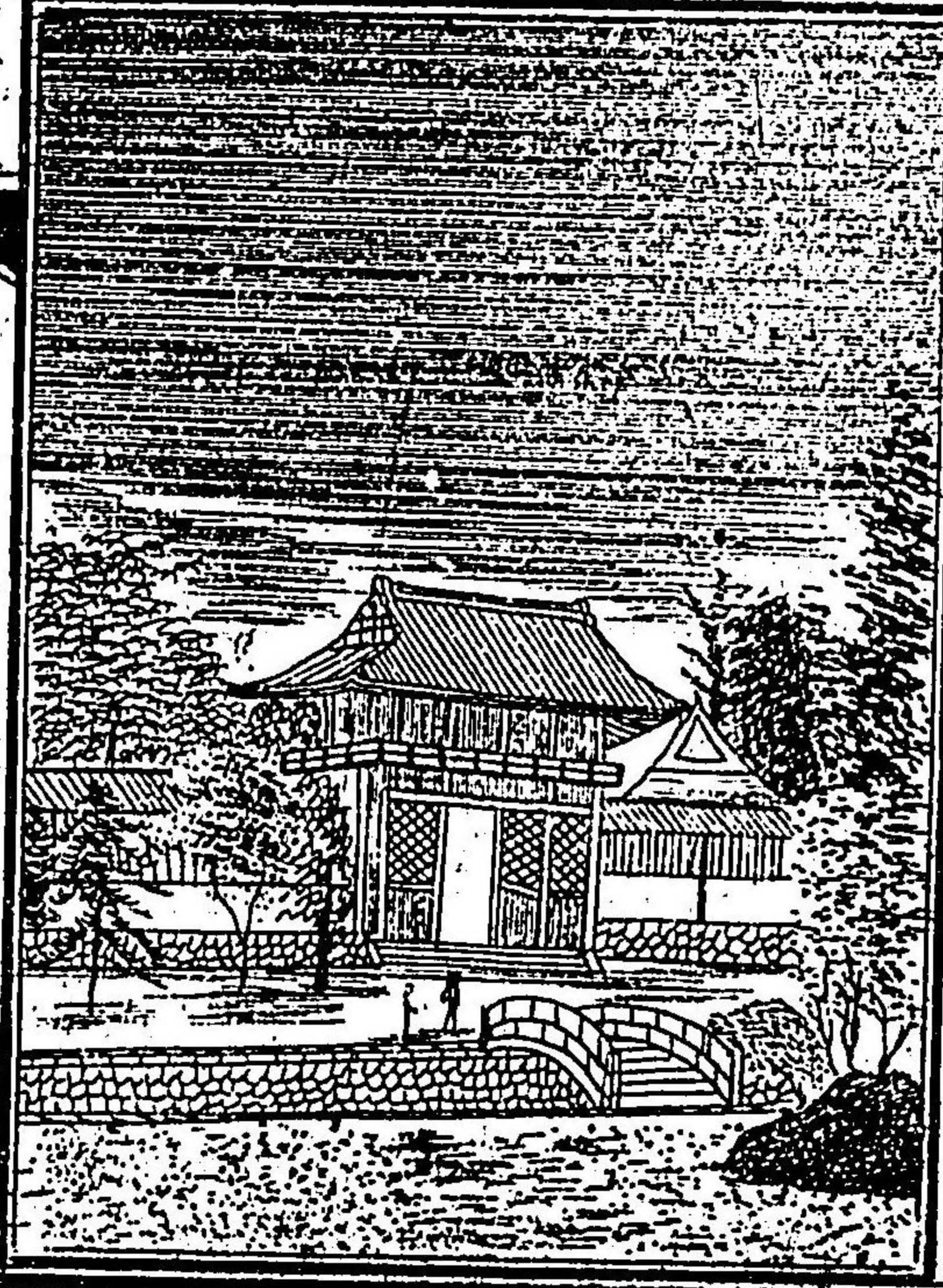
愛宕郡貴舟村にあり

官幣中社水神罔象女神を祭る雨を祈るふちありあり又龍王の瀧あり

上加茂神社

愛宕郡上加茂村にあり

官幣大社山城國一の宮なり加茂皇天神又別雷皇太神とも稱す天武天皇白鳳五年造営なり社前御手洗川と云清流あり後の





山を神山と号す境内廣く風景よし今の  
本社ハ寛永五年徳川二代の將軍秀忠公の  
造立なり官祭ハ五月十五日あり之を葵祭  
と云ふ六月五日競馬六月三十日七月一日  
神能あり

今宮社

愛宕郡東紫竹大門村にあり

府社素戔鳴尊稻田媛の二神を祭る長保二  
年庚子五月創建あり例年四月十日徘徊祭  
あり五月十五日ハ私祭を大賑ふ  
此所より大徳寺へ四丁

大徳寺

右同所の少し南にあり

禪宗もて龍宝山と云開基ハ大澄國師正中  
元年の創建あり當寺の伽藍ハ赤松圓心同  
則祐柱石の料を寄附す山門ハ連歌師  
宗長修造し閣ハ千利休方丈の門ハ明智光  
秀の寄進ありと云佛殿ハ釋迦佛を本

尊として梵天帝釋天達磨臨濟の像を安置  
す雲門菴ハ大燈國師の像あり其外花  
園帝後醍醐帝後土御門帝の神主まゝに  
真珠菴ハ一休和尚住居し玉いゝ処ハ真珠  
菴と一休の筆を添玉いゝ額あり庭ハ清泉  
あり和泉式部が夫少將保昌の宅地ありし  
といふ是より建勳神社へ六町  
むらさね野ハ今宮大徳寺の邊をいふなり





建勳神社

愛宕郡舟岡山東の麓にあり



別格官幣社なり祭神織田信長公王政維新の後此所を創建せらる

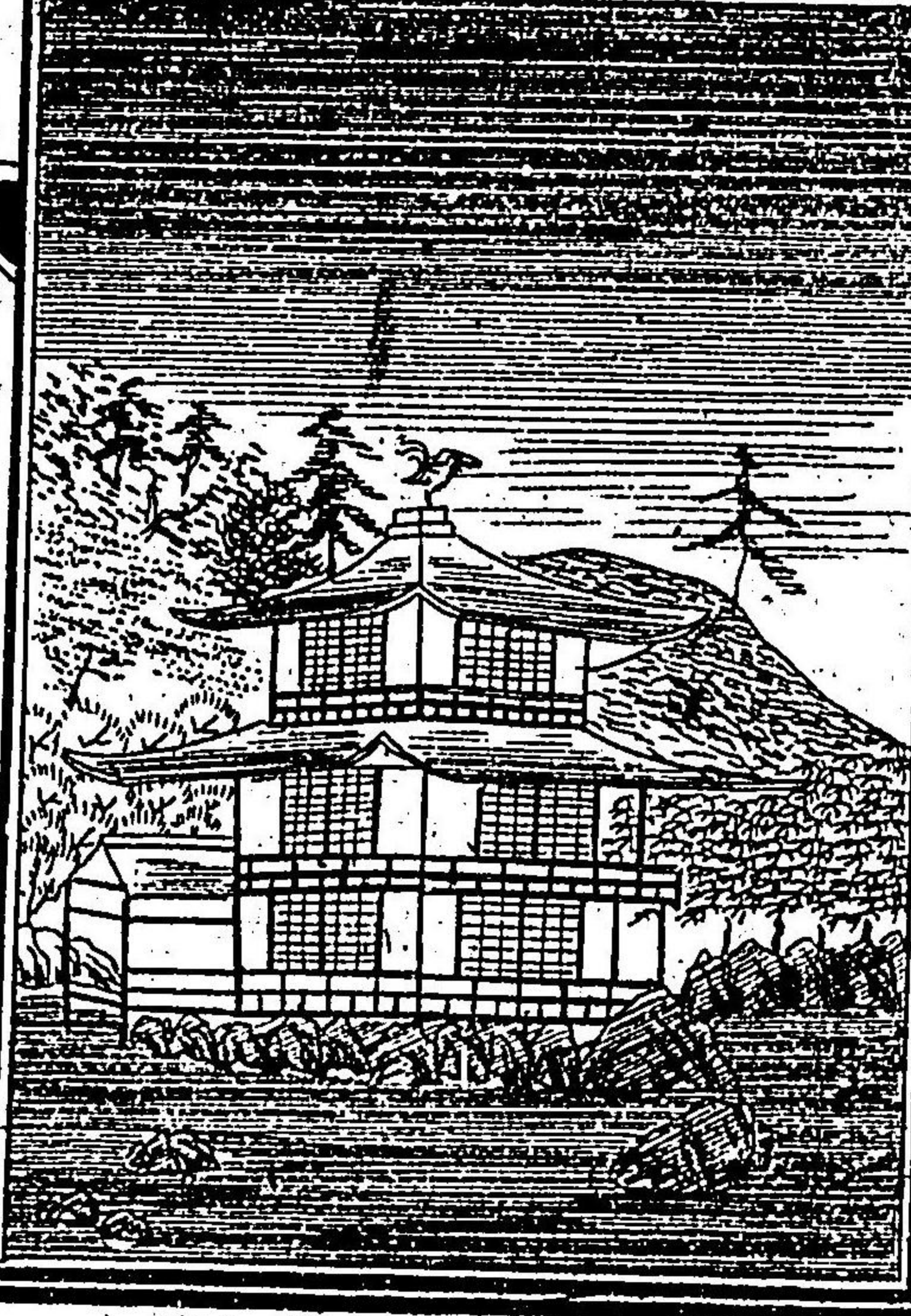
金閣寺へ十四丁西

金閣寺

全郡大北山村に在

禪宗より鹿苑寺といふ應永年中足利三代將軍義満公高閣をたて華美をつくり金箔を以て一面を粧ひ閣の前の池廣くして九山八景と名つく奇石さまざまあり金閣三重あり第一を法水院といふ弥陀の三尊夢窓國師の像義満公の像あり第二を潮

音洞といふ自然木の観音と四天王を安置す第三を究竟頂といふ後小松帝の勅額あり天井ハ三間四方の一枚板よりて四壁の板とて金箔を押し然れども星霜數百年を経て風雨の爲め剥落し今所々は金色を存するのこ。南天の床柱等有名のものあり後山を負ひ西は衣笠山の名山を望み北方の奇觀此地は勝るハまじ





平野神社

葛野郡小北山にあり

官幣大社祭神四座なり源平高階大江此四  
姓の氏神第一今木神源氏第二久度神平氏第三  
古開神高階氏第四比咩神大江氏なり官祭四月  
二日境内櫻樹多し世よ平野の夜櫻といふ  
花のころ雅俗群集す 北野へ二丁半

北野神社

御前通今出川突当

北野ハ玉  
城の北西  
の方なり  
天曆年中  
の創建  
天満天神  
宮中殿  
菅丞相  
中将殿  
菅三品  
嫡子吉



祥女 右大臣北方 今の社ハ豊臣秀頼公の造  
宮ん社壇よ加藤清正寄附の大鏡あり社域  
廣大ヤて末社多く詣人常は絶る事なり  
官祭八月四日私祭ハ十月四日神幸あり境  
内ハ梅樹多く春ハ花見の遊人群集す

等持院

葛野郡衣笠山の麓にあり

禪宗より開基ハ夢窓國師よ足利尊氏  
公の建立ス等持院の聖額ハ相國義満公の  
筆只利家累代の昭堂ハ慈照院 義政公の營  
一たり證  
果の額ハ  
開山夢窓  
の筆ス  
しろハ衣  
笠山ナリ



龍安寺

等持院の西にあり



禪宗ありて天雲山といふ文明年中細川勝元の造営人堂の内天井の画ハ兆殿司の筆ハ庭の景色ハ勝元の物数奇なり

御室仁和寺

葛野郡花園村あり



御室ハ真言密乗の霊地境内廣大あり

其のいめハ光孝天皇の御願として仁和四年八月御卹創大内山仁和寺と号す其後宇多天皇寛平九年七月延喜帝の御位を譲りのい御出家ましく寛平法皇と称し奉る當山よ七堂伽藍及び御室を御造立せしめて御入室ありま御門跡の称号こよ始まる當山ハ往昔より櫻樹多しおのづから梢高きらず屈曲巧み撓とるが如し故に花盛よハ都鄙の貴賤遊客群集す 妙心寺へ七町

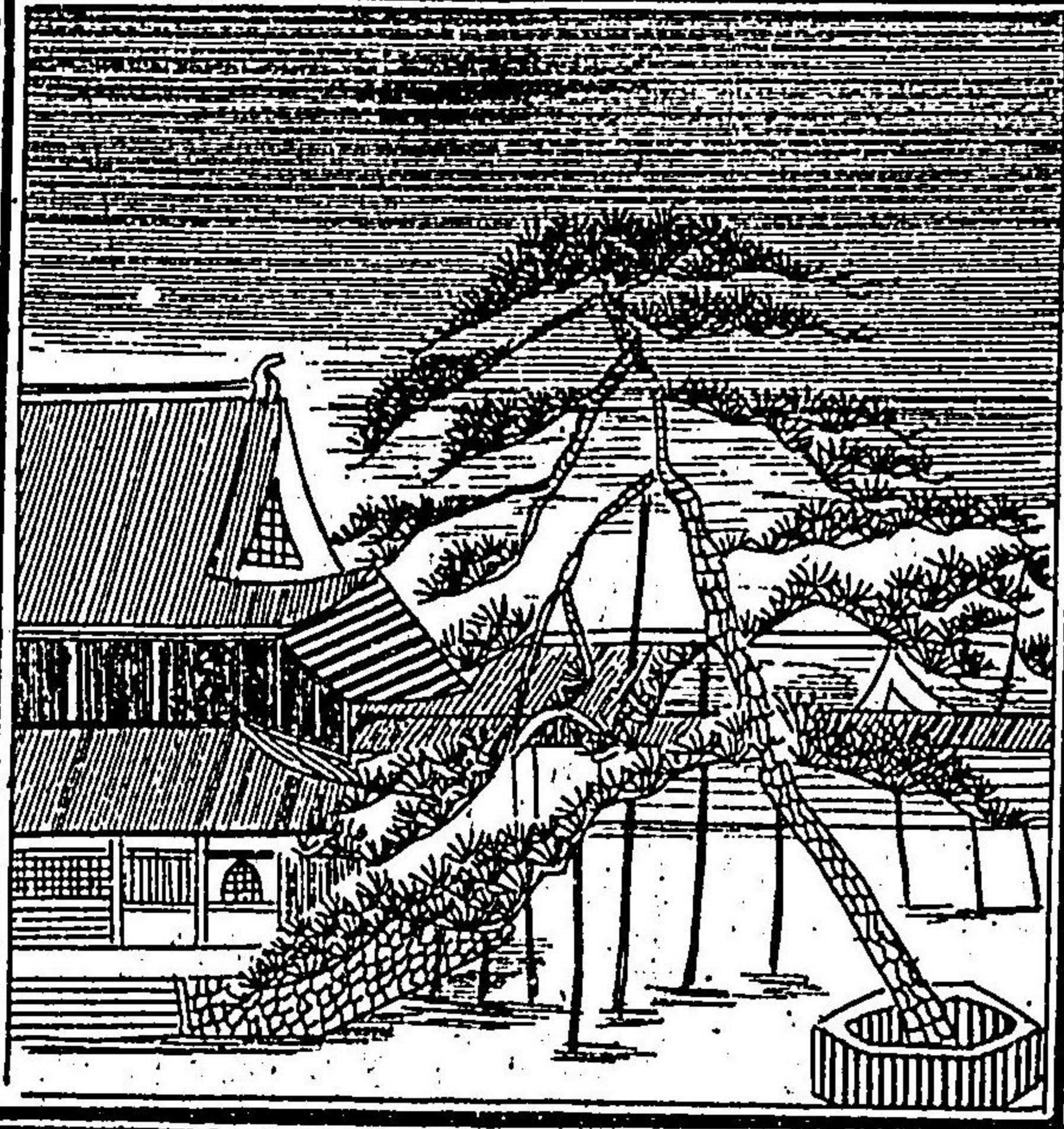
妙心寺

龍安寺の南花園村あり

禪宗ありて正法山といふ開山ハ關山國師花園法皇の創建之則法皇ハ方丈のうへに一院をいとるに住せまよ玉鳳院といふ正面ハ唐門あり額ハ法皇の御震筆ハ佛殿の本尊釋迦佛左迦葉達磨臨濟協壇法堂ハ北あり經藏ハ東あり万里小路



藤房 卿道 世一 寺入 關山 脈の法

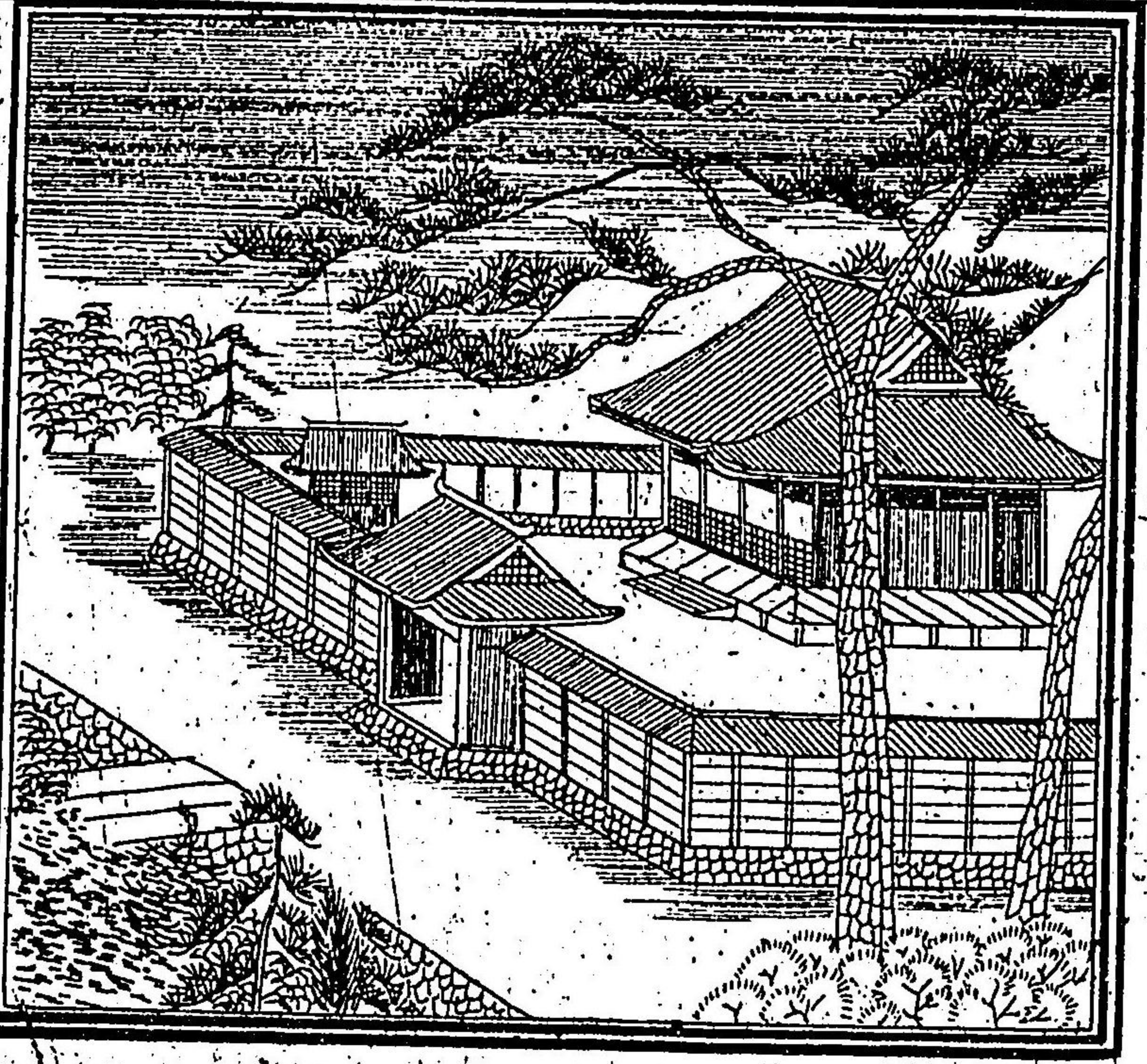


嗣ぎ授翁と号し当寺第二世なり近世謚を  
圓鑑國師と賜ふ又當山塔頭高名の林泉  
数奇屋及名画等あり境内の老松名木

三寶寺

高野郡嵯峨とあり

當寺ハ西の山上ありて日蓮宗ハ本堂ハ  
南向キテ釋迦堂ハ山上ニあり開基ハ日  
護上人とぞ



此辺ハ妙光寺法藏寺般若寺平岡ハ幡宮善  
明寺等高名の社寺多ク雖も畧す

柵尾山高山寺

高野郡柵尾村ニあり

當山ハ華嚴宗トシテ本尊ハ釋迦如來明



惠上人  
紅葉  
乃頃  
八殊  
景



色より都鄙貴賤の遊客群集す

積尾山平等院

全郡積尾村にあり

真言律兼學ありて開基は智泉法師の本尊

ハ釋迦如来  
明惠上人の  
作る千手觀  
音ハ聖徳太  
子の御作と  
ぞ聞べし  
此所ハ紅



葉の頃ハ美景なり

高雄山神護寺

右全郡中島村にあり

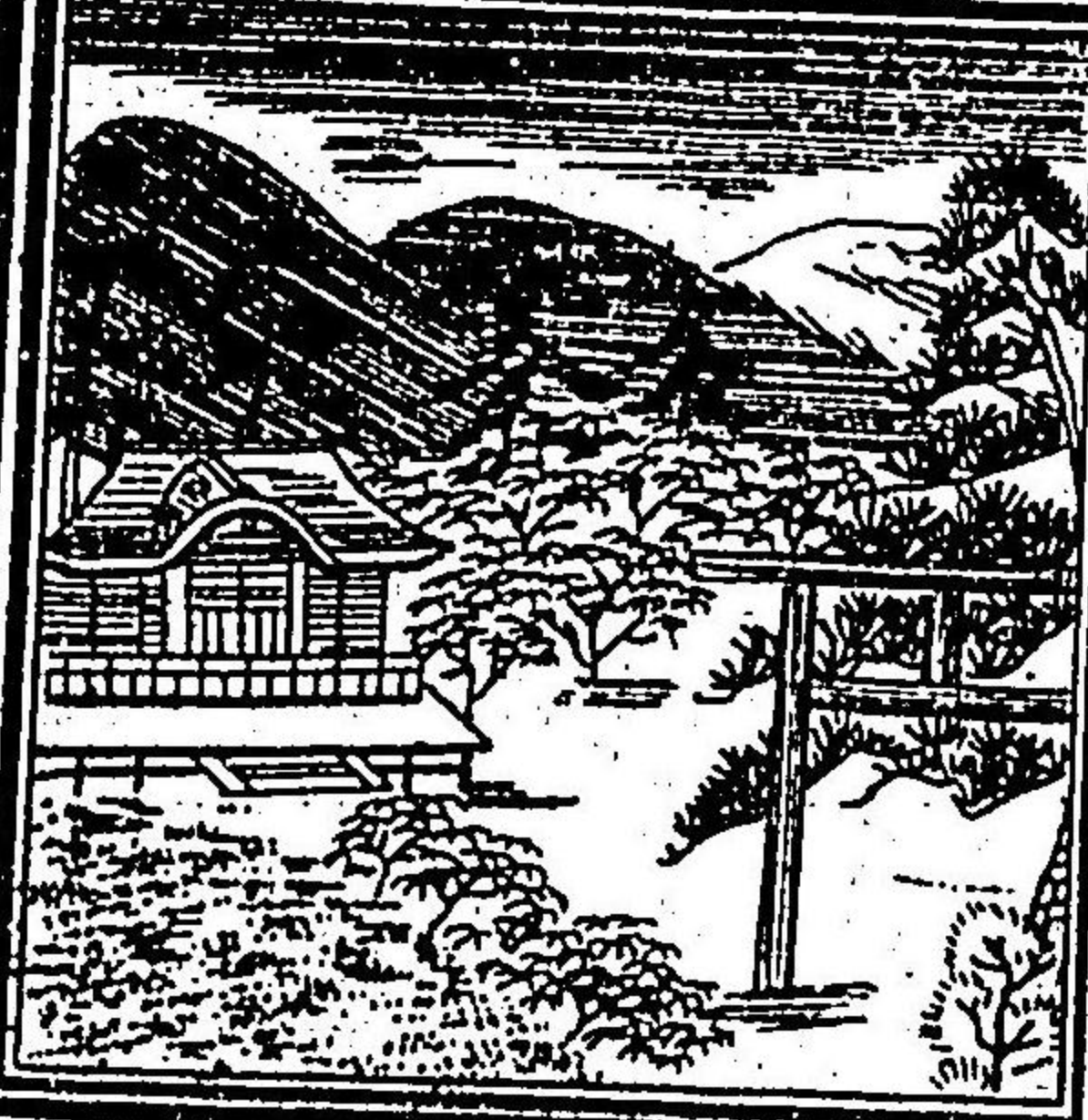
當寺ハ光仁帝の御宇和氣の清麻呂奏問し  
建立有しなり初ハ神願寺と号しぬ淳和帝  
御宇天長二年ハ空海ハ賜る神護國作真言  
寺と号しぬ号其比詔を下し金剛定  
寺の額を空海和尚ハ書しめんと勅使を立  
せぬしる

あり  
五月雨  
て清瀧川  
の水増し  
て高雄山  
の往來止  
りる勅  
使則ち川





のとりまごすみまひ案煩ひまひる  
 と空海あり一めして筆は墨をまくませ持  
 とる額に向ふて書るふみ墨ハ霧のちる如く  
 飛で額の面ハ忽ち金剛定寺の四字現れ  
 額書石一石面ハ窪あり硯石とす横門の外  
 あり一金堂の本尊薬師如来講堂の五大尊  
 とも弘法大師の作鐘樓ハ金堂の良に  
 ありて鐘の銘ハ菅原是善卿序の詞ハ橋廣  
 相筆者ハ藤原敏行なり是を世ハ三絶と号  
 せり本朝の名器なり此所ハ紅葉の名所  
 護王神社



別格官幣社祭神ハ  
 和氣清磨公ハ維新  
 後上京區烏丸通下  
 長者町の角へ御遷  
 座なりし

月輪寺

鎌倉山と号す当寺の本尊ハ十一面觀世音  
 と安置す祖師堂ハ空也上人見真大師月  
 輪殿下の像あり開基ハ慶後法師中興ハ九  
 條関白兼實公ハ此地ハ閑居一々ハ故月輪殿  
 下と稱す龍女水と云清泉後山の巖を穿  
 ちて涌出ることを所々ハ覓よりて當山  
 の用水とす傍に龍女のヤリあり時雨櫻  
 堂の前あり

愛宕山

高野郡上嵯峨乾もあり

愛宕山  
 のヤリ  
 ハ王城の  
 乾あり  
 て朝日  
 嶽白雲



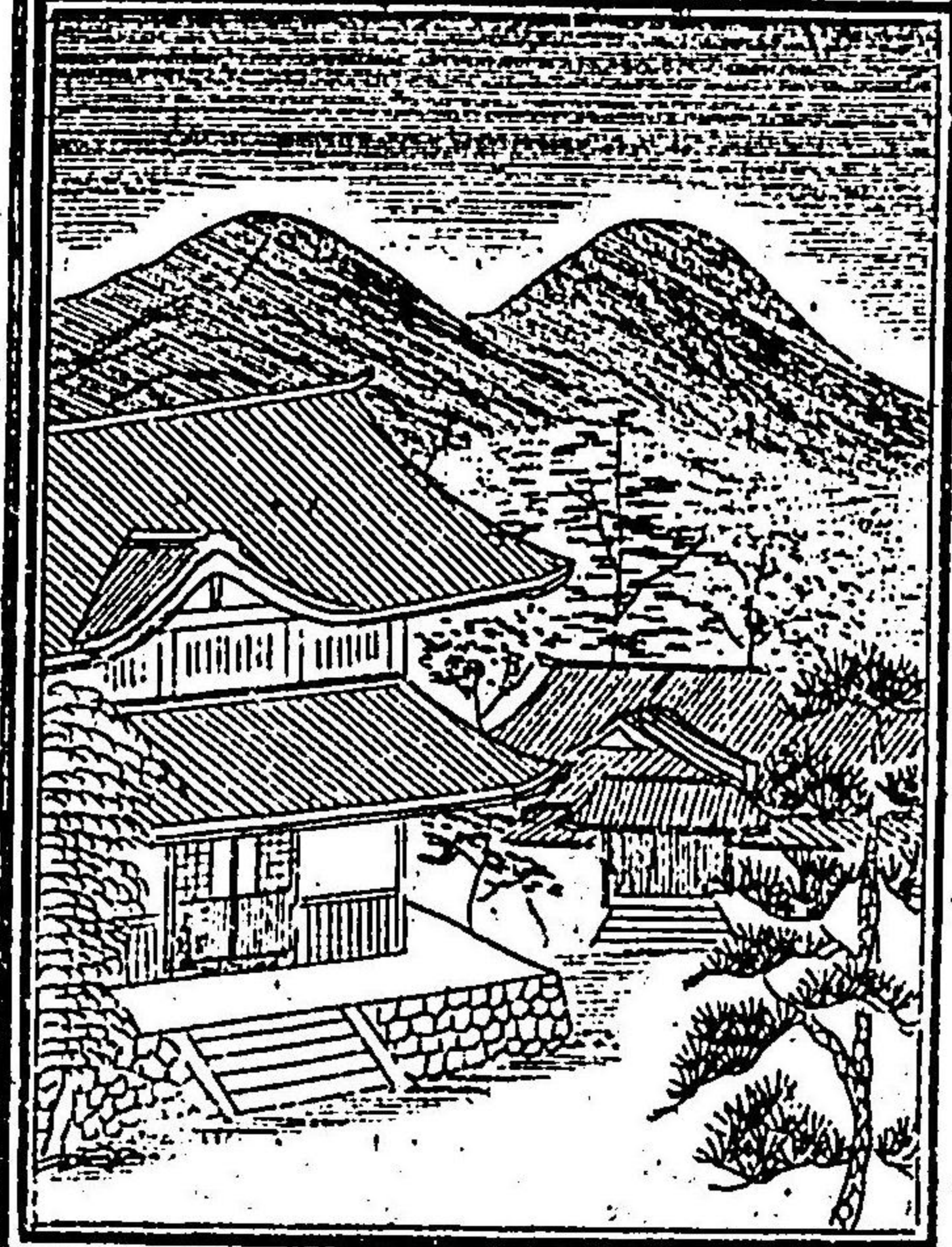


寺と号す一の鳥居より坂路五十丁ありて  
 せどめし試の峠あり清龍川渡猿橋火燧權  
 現ハ十七丁目あり榕が原ハ北の麓ありて  
 南星峯とハ乾のくもの嶺をこつ鐵の鳥居の  
 額ハ表を朝日山裏を白雲寺と書す所裏良  
 恕法親王の筆ハ本殿ハ阿太子山權現ありて  
 帝都の守護神より火災を退けぬ之光仁  
 天皇の御宇天應元年此山をひがと勸請しゆふ

嵯峨釋迦堂

今郡上嵯峨村にあり

五臺山清涼寺  
 本尊と号す  
 大尊  
 聖釋



迦牟尼佛の立像より長五尺二分天竺毘  
 首羯磨天の作なり脇士ハ十大弟子の立像  
 共ハ厨子に安置す東西の壇上ハ文殊普  
 賢と安置す抑この釋迦如來の尊容ハ三國  
 無雙の靈佛より釋尊在世より奉り  
 て生身の尊像なり一條院の御宇永延元年  
 南都東大寺の裔然渡唐し靈告を蒙りて此  
 尊像を感得し奉り歸帆して同年八月天聽  
 して達し伽藍を建立す

天龍寺

葛野郡下嵯峨村にあり

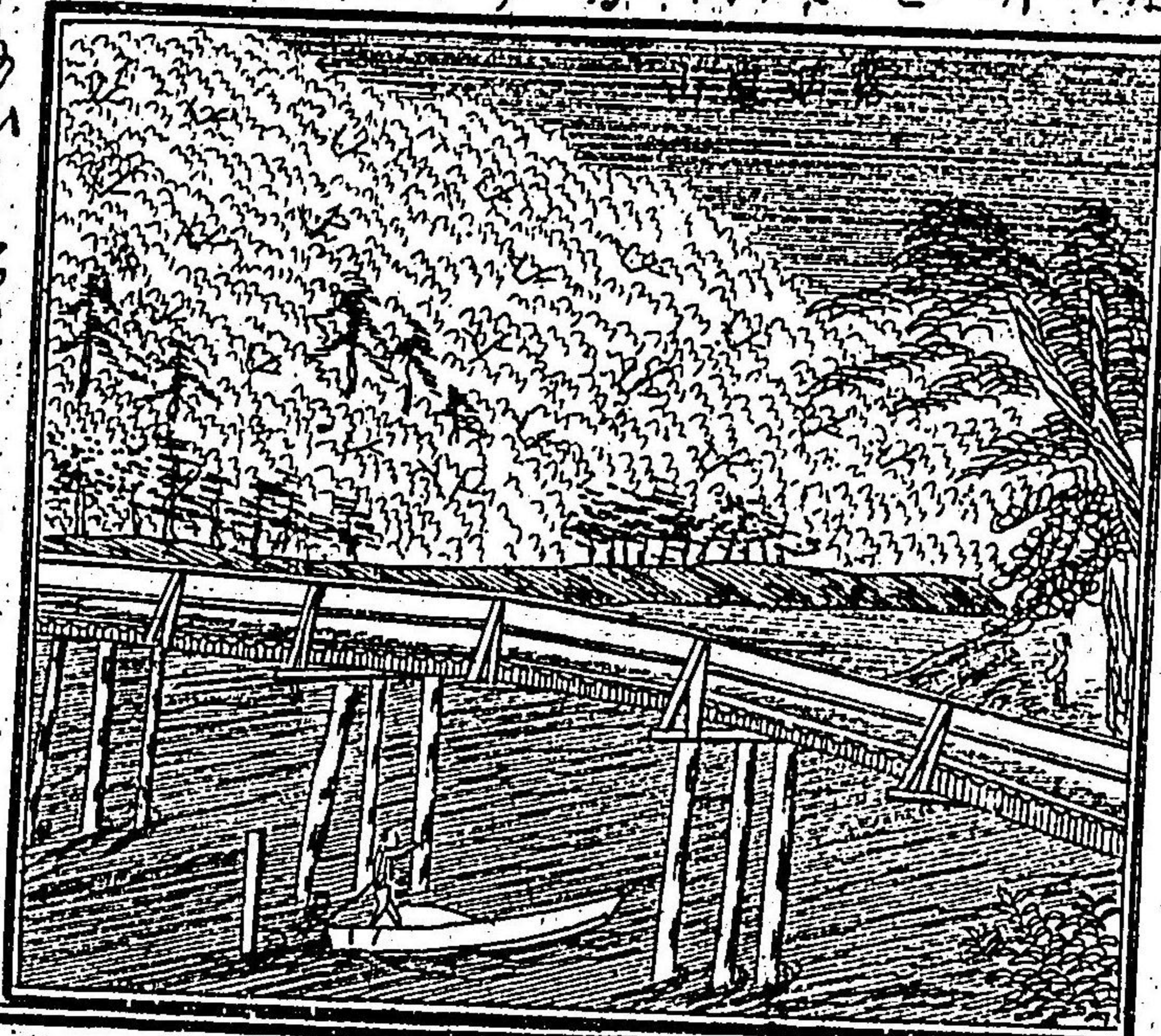
雲龍山天龍資聖禪寺と号す五山の第一  
 たり大井川の北にあり開基ハ夢窓國師  
 して足利尊氏後醍醐帝追福のため建立  
 せし寺ハ塔頭多宝院ハ後醍醐天皇の御  
 廟あり金剛院の開基ハ普明國師よりて  
 光嚴院帝の御廟あり



嵐山

右同村の西南にあり

嵐山 大井川を帯て北に向ふ方山なり 亀山 帝吉野の櫻を



うつらあしななり 標谷の社ハ嵐山の麓にあり松尾七社の内ハ 戸難瀬の瀧ハ標谷の西にあり大井川のお落 合たり○座禪石あり一石上よりあり夢窓國

師より来り坐禪しあふと○嵐山城ハ峯ニ 城跡あり細川政元の家人香西又六郎の築く 所なり○藏王谷 城跡の西にあり吉野山を 移して藏王権現を安置す○大悲閣ハ嵐 山の麓に道ありて渡月橋より七丁むらり 西あり本尊ハ観音の立像ありて恵心の作 あり角倉了意の碑あり林道春之を撰す 了意ハ大井川の巖石を截て北丹波より舟 筏を通り材木の運送を自由ます

法輪寺

右山渡月橋の南にあり

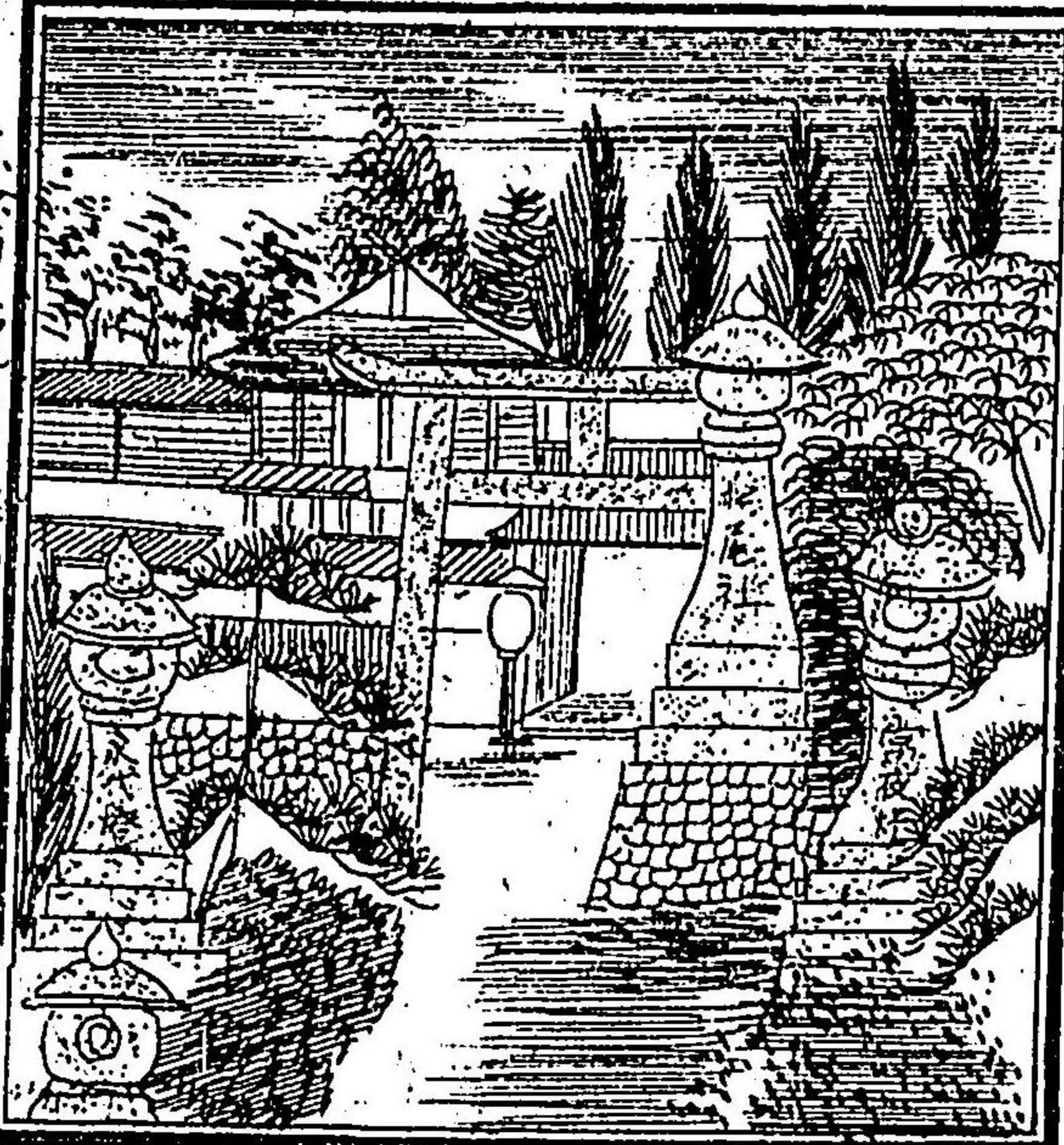
真言宗より本尊ハ虚空藏菩薩の坐像ニ 脇士ハ明星天雨宝童子ノ當寺ハ天平年中 の建立ありて葛井寺といひり中興の開基 道昌僧都虚空藏菩薩の像を刻み弘法大 師を請りて開眼供養すこも當寺の本尊 なり○轟橋樓門の前より橋をり○参



月々殊俗参詣集に

松尾神社 葛野郡山田村あり

官幣大社 祭る所二座一  
大山 咋神 市杵



島姫より大宝元年、秦都理といふ人社を建て分土山より遷し奉る別雷山ハ社のうしろの山なり當社の明神比降臨の地なり松尾山といふ世の酒造家此社へ詣て繁栄を祈る官祭ハ四月二日私祭五月上旬日

月讀社

松尾より二下南あり

齊衡三年三月  
山城國葛野郡  
月讀社を松尾  
の南へ遷すよ  
一 文徳實録に



出より仁壽三年、痘瘡大流行す此時神託ありてその害を救ふ是よりして貴賤痘瘡の災を免んとめ此社を詣て神の助を祈るも一三代実録あり

梅の宮

葛野郡西梅津村あり

官幣中社祭る所四座ありて酒解神大若子小若子酒解子神なり相殿ハ贈太政大臣橘清友公と檀林皇后を祭る(此皇后ハ嵯峨天皇の御后より太子あまこととを常ニ秋心て酒解神を祈りたり既ニ感應ありて妊娠



とありまじ  
く則當  
社の清砂  
と御座の  
下敷敷太  
子を降誕  
しあふ仁



明天皇是なり故に世人産月一臨めば當社の砂を取て帶襟に佩るハ此遺風なりとぞ境内は梅樹多し風景甚どよし當社より東に矣れハ四條通の西口に入るなり

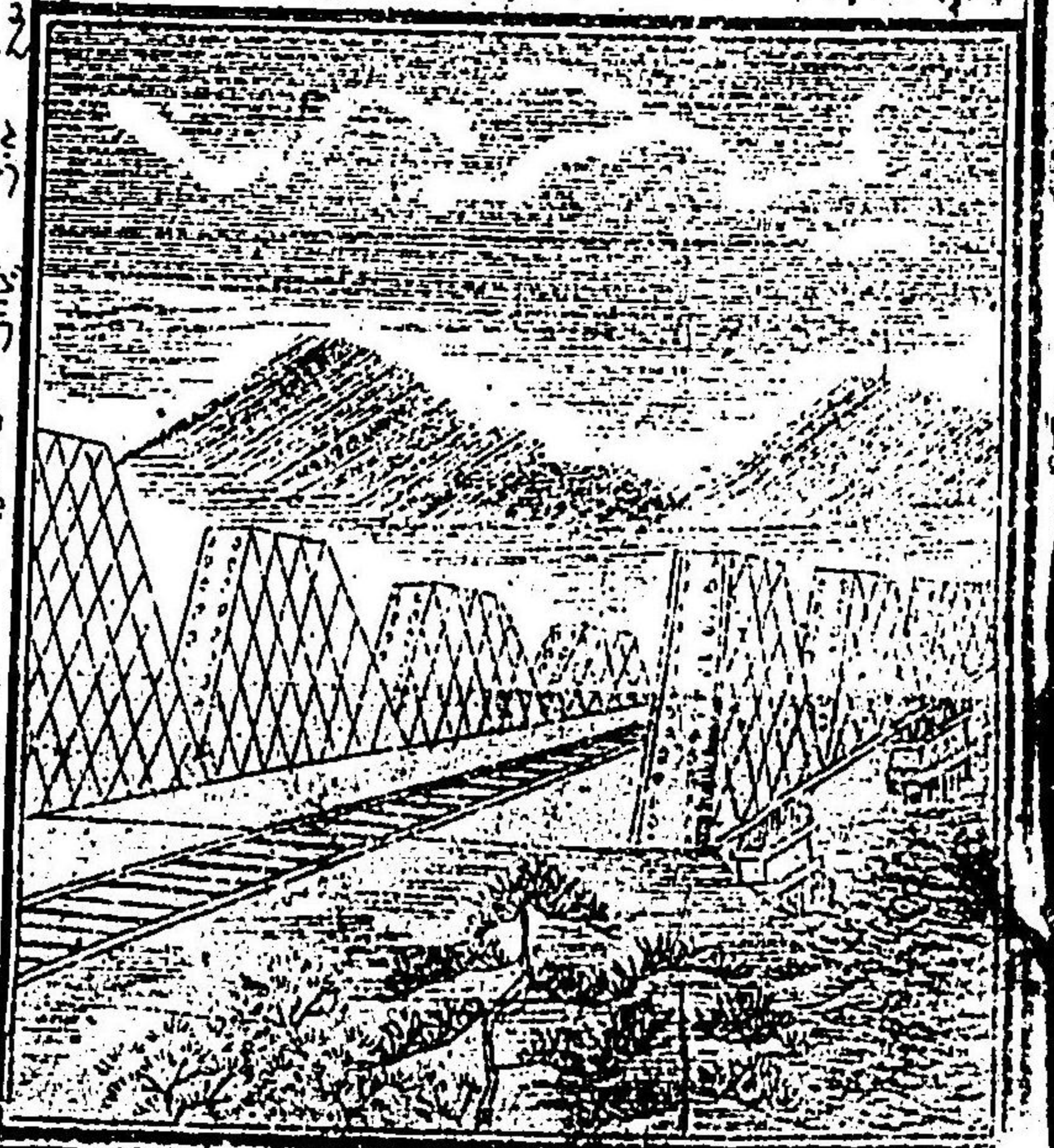
桂川鐵橋へ八下

桂川の鐵橋

葛野郡西梅津村にあり京阪間汽車の通路なりて明治九年に建築なり又近村下桂に廻地藏尊あり華洛七道の一あり久遠寺ハ桂の西河島にあり本派

本願寺の掛所

あて  
西山御坊と稱す開基ハ覺如上人



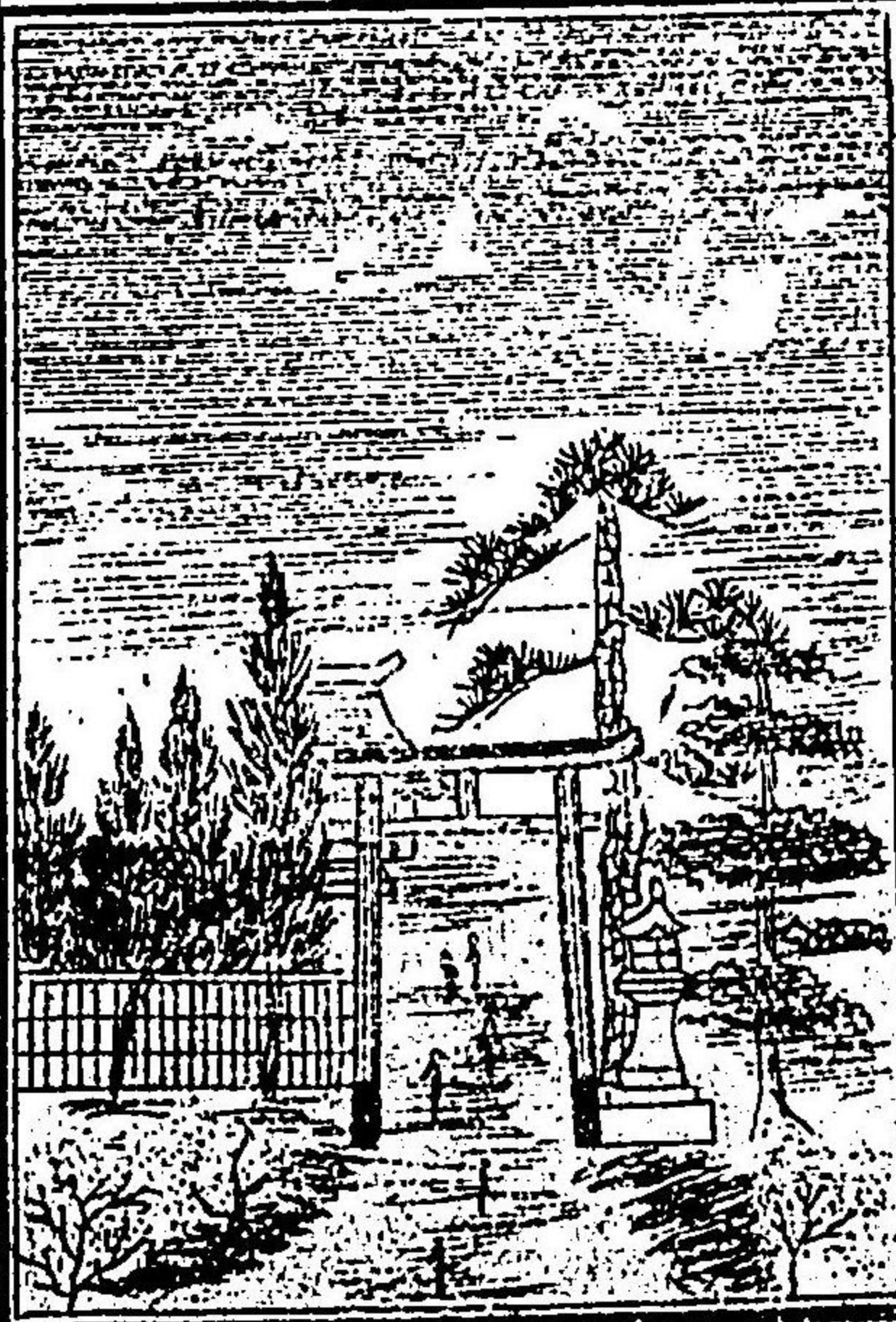
覺如上人の塔ハ堂の後にありケチシの面(當寺にあり)早の年里人これを祭り雨を祈れハ忽其驗あり當村に災ありハケチと鳴てその凶瑞を知らず故名にす

大原野神社

乙訓郡大原野村にあり官幣中社にして祭神ハ武甕槌命齊王命天津兒屋根命姫九神の四座なりて往昔に明帝嘉祥三年左大臣冬嗣公之を勸請して平



安城の守護神と定め  
祭ハ二月八日之



花乃寺

乙訓郡大原野村あり

小塩山勝持寺と号す宗首ハ天台ありて本尊ハ薬師如来師の作本堂の額ハ小野道風の筆岩窟の石不動ハ弘法大師の作西行法師像西行櫻堂前の左右あり西行の菴

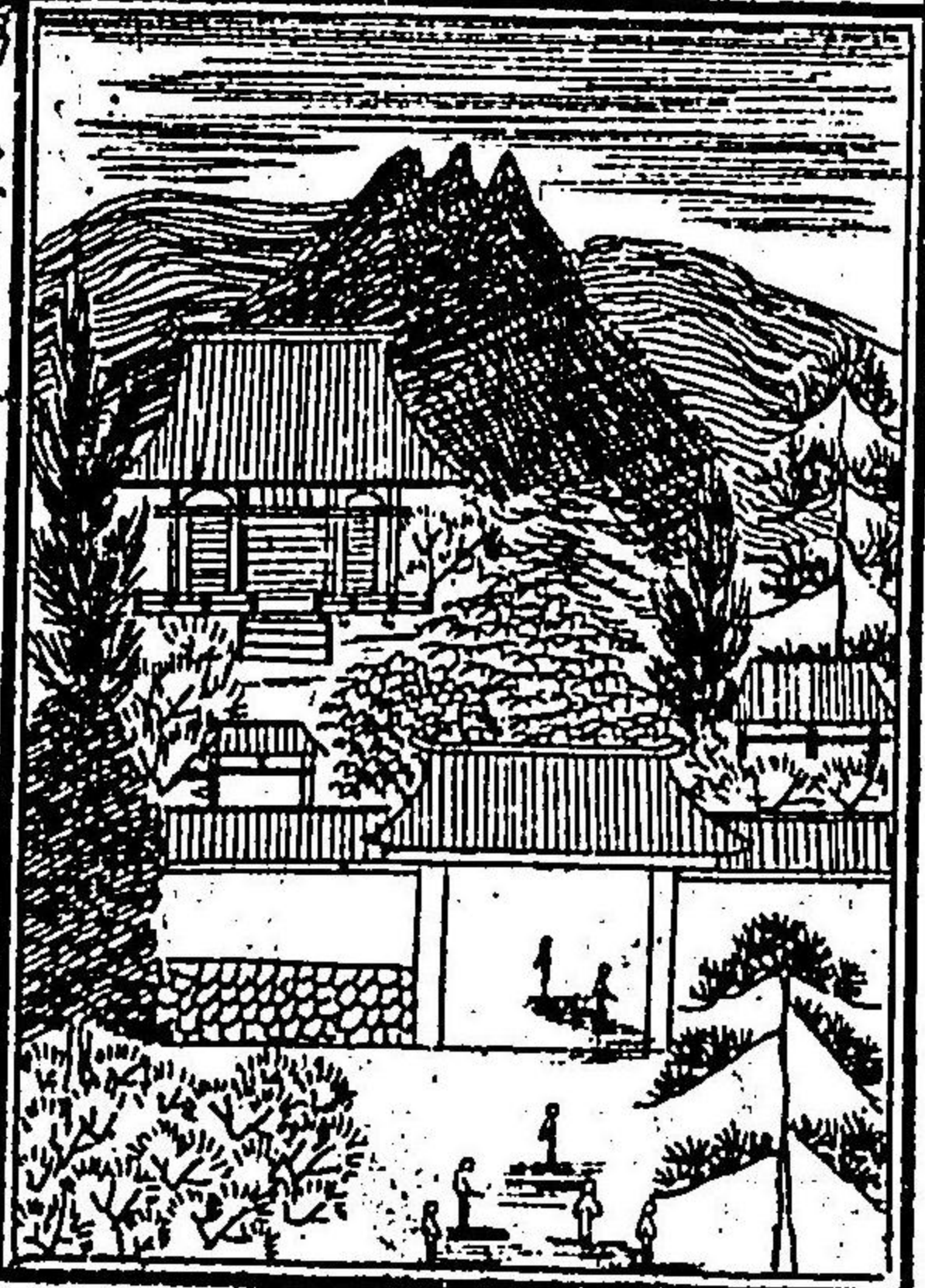


室ハ山上三丁をくりあり當山の境内に櫻花多し盛の頃ハ都下の貴賤こゝ来りて終日花の陰にて哥よし西行の霊を慰む多し

三鉢寺

岩倉の南灰谷の上あり

宗首ハ天台眞言律浄土四宗兼学ありて本尊佛眼曼陀羅



ハ觀性法橋の筆ハ日本無二の曼陀羅あり左右の壇上ハ釋迦弥陀の二佛を安置す惠心僧都の作當山の絶頂を齋嶽と云く三峯ありて其形三鉢に似たるをまつて三鉢寺といふ甚景色のよき所あり



粟生光明寺

乙訓郡粟生村あり

浄土宗西山流義の一木寺之本尊ハ圓光大師の坐像ありて(円光大師四国へ左遷の時母儀の消息を以て作り玉ふ本尊之世に張籠の御影とふ)阿弥陀堂の本尊ハ惠心僧都の作ありて江州堅田浮御堂千鉢佛の中尊なり熊谷蓮生法師諸国を負巡りて此所よりまゝり州巷をいとあきて安置す円光大師の廟蓮生法師の塔ハ木堂のうらち此山上より當寺の本堂ハ恰好比類あり後代造立の規矩とす

善峯寺

西山善峯寺

ハ小塩の山上

あり天台宗

ありて本尊ハ



千手観音なり(此本尊ハ加茂の神木槻木ハ行圓法師靈瑞を得て弘仁法師を招き千手の像を作らむ是洛陽革堂の本尊こそか餘材を以て六尺の像を作る當時の本尊是なり)白山水宝光坊あり○仙翁石路の傍あり○阿智坂社ハ當山へ登る七曲の中あり此寺の守護神なり

柳谷観音堂

乙訓郡柳谷あり

立願山 揚谷寺 本尊ハ 千手観 音あり 將軍 地藏





沙門天の脇士あり當寺ハ白川院の御宇水  
 觀上人閑居の地ありて此本尊を感得し玉  
 ふ〇楊柳の瀧ハ本堂の下壇左あり諸人  
 此所ヲ籠りて病苦をまぬくりとぞ此山あり  
 一流の溪川潺々として石ヲ鳴りて流れ小倉  
 の鳥居の前を経て山崎の北より淀川入  
 これを五位川といふ

向日神社

乙訓郡向日町あり



祭神ハ鷓鴣羽音不合尊なり地主神ハ本殿  
 の南ありて白日明神と号す石座神降

臨の地ハ鳥居の内道の半あり

向日山ハ當社の山をいふ又鳥見山といふ

〇此所ハ京阪間の鐵道ステーションあり

京都七條ステーションより二里あり

長岡天満宮

乙訓郡開田村あり

當社ハ菅丞相を祀る神殿の額ハ靈元帝の  
 宸翰ニ杜記ヨリ菅丞相太宰府よりつきた  
 ありと云ふ暫く此所ヲ駕をとめあり

東小路  
 祐房と

此地

奉りて

御名残





みくら系菅丞相ぶらう尊容をうつし祐  
房よきつけ玉ふ後、小社を宮て長岡天満  
宮と崇め奉る。社頭の左右に池塘廣く  
して風生、細浪漲り、津茂りて、魚鱗  
あくる汀、梅櫻紅葉多く、て風景は

天王山

右同郡大山山あり

天王の社、素盞鳥の御子八王子を鎮座し  
玉ふなり、鳥居北額、小野道風の筆なり、例  
祭、四月八日、うて神輿三基あり、当社勅  
請の年代詳  
ならず、神殿  
梁の銘、曰  
養老二年再



真と書す

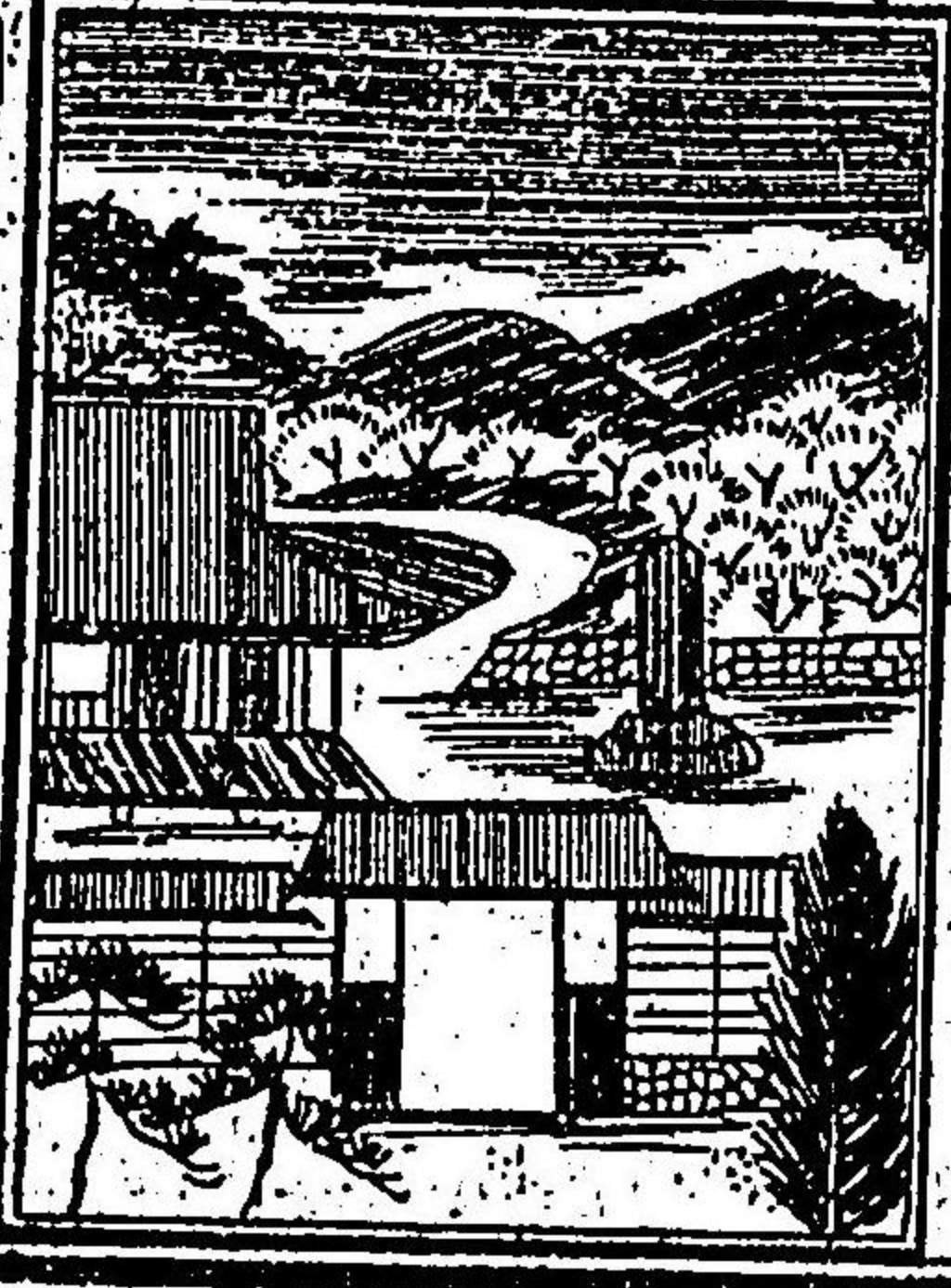
観音寺、天王山の東半腹にあり、真言宗よ  
して、佛殿の本尊、観世音の立像、聖徳太子  
の作、當寺の客殿より、淀八幡の風景、眼下  
よ、遮て、魂を傷るの佳境なり

寶寺

右全所あり

補陀落山寶積寺  
といふ真言宗よ

して本尊ハ十一  
面觀世音立像に  
して聖武帝行基



菩薩の兩作、當寺の什宝、打出の小槌あり  
聖武帝の御宇、龍神捧、一のたのり  
妙喜庵ハ寶寺の麓あり、禪宗にて本尊  
十一面觀世音、千利休此所に住して、二疊  
敷の園を建る秀吉公あり、波御あり、茶



の湯ありしと云

離宮八幡宮 右全所あり

神殿に八幡宮を崇奉りて社壇の下にハ  
 石清水涌出す鳥居の額ハ行成卿の筆あり  
 ○此所の西ハ山城攝津の國界ありこれハ  
 大阪に至る是を西街道といふ  
 ○離宮八幡宮の前より淀川の岸へ出て舟  
 渡しを越へ橋本より男山ヨ詣で淀の方へ  
 下り横大路鳥羽を経て東寺へ戻り京に入る

城南神社

紀伊郡下鳥羽村にあり

伊勢石  
 清水加  
 茂松尾  
 平野稻  
 荷春日  
 の七社



を祭る

男山八幡宮

綴喜郡八幡莊鳩峯にあり

官幣大社にて本社ハ三座を祭る應神天  
 皇玉依姫神功皇后より清和天皇貞観二年

創建く

境地廣

大木

攝社

末社多

楠正

成の栽

楠の

大木東回廊の外にあり希代の大木あり○

社殿は黄金の樋あり麓に放生川あり

伏見墨染

紀伊郡にあり

墨染ハ鐘木町の北三町をうりにありむかし



此所すてハ深草とつて野邊ハ櫻多し  
寛平三年堀川太政大臣昭宣公薨一玉ふ時  
上野岑雄哀傷の和哥を詠せ一ウハ此ちり  
此櫻墨染よ咲いとあり

古今集 深草北野邊の櫻一にあり  
此春むくり墨染よさけ

墨染寺ハ同所南側とあり清和天皇降誕の  
たじめよ宝祚祈のよめ忠仁公の建玉り  
舊地ん今ハ法華宗りて日秀上人開基す

○京橋邊より

大阪への下り  
船ハ昼夜に出  
又漁船も昼夜  
数度出るあり  
この近辺に旅  
宿屋多し



欣淨寺

墨染の南にあり

淨土宗りて本尊ハ阿弥陀佛を安置す  
立像りて聖徳太子の御作なり此地ハ古ハ  
深州少將の第宅なり少將の塚小野小町の  
塚堂のりり池のモグーあり

桃山

伏見街道の東にあり

秀吉公の城址なり山上に宇治見臺といふ  
所あり眼下に宇治川及び巨椋湖を眺望す  
絶景の地りて梅桃の花を賞する都人こ  
よ遊ぶ

宇治平等院

久世郡宇治橋の南にあり

天台宗なり初ハ河原左大臣融公の別荘  
り其後陽成院此地に行宮を建りれ宇  
治院と号す長徳四年十月御堂関白此院を  
得て山莊と遊覧の地と一玉其後子息  
宇治関白頼通公承承七年に寺となりて平

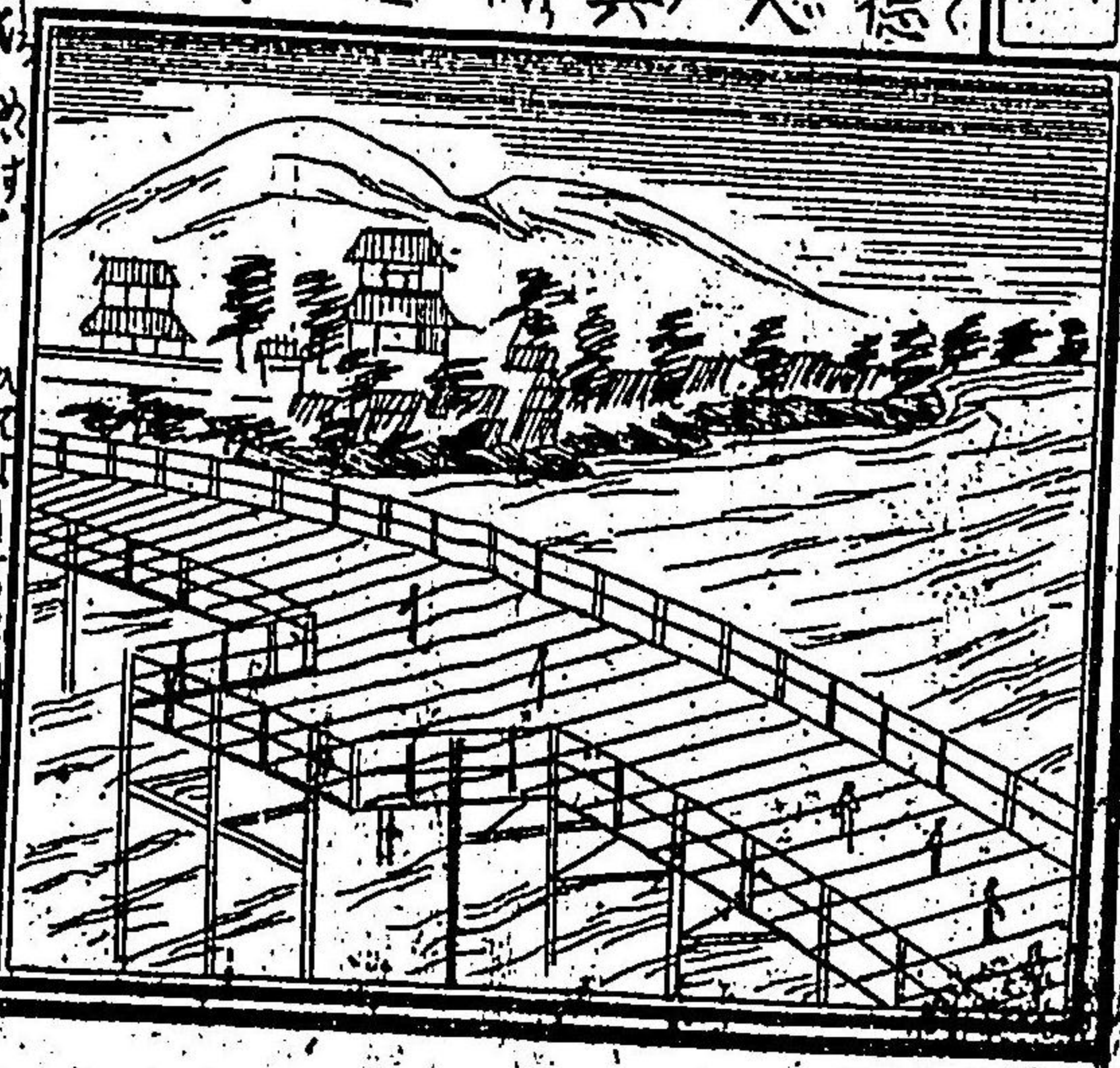


等院と号すの佛殿は鳳凰を築り左右の高  
 樓回廊を西翼とし後背の廊を尾とす棟の  
 上は雄の鳳凰あり金銅を以て造る風は随ふて舞故  
 鳳凰堂とすこまは永承年中頼通公建立  
 曾て回祿の災なり○本尊阿弥陀佛ハ  
 長六尺の坐像ありて定朝の作堂内の長  
 押は廿五菩薩の像あり同四壁并三方の唐  
 戸は浄土九品此相を画く繪師の長者為成  
 の筆は天蓋瓔珞等ハ七寶を鏤め古代の作  
 物ありて美麗莊嚴他よりびなり○扇の芝  
 源三位頼政此所にて於て自殺す○駒繫松  
 頼政馬とすよまひ鐘懸  
 松頼政鐘を鑄め阿字池  
 鳳凰堂のめぐりある池ハ鐘  
 恵心僧都の作  
 此の鐘ハ三井寺のうづ  
 襟しりて本朝三鐘の  
 其一なり



宇治橋

孝徳天皇の御宇大  
 化二年元興  
 寺の道昭和尚  
 此橋をりけし  
 あり長さ八十  
 三間五尺五寸  
 ○三間水山城の谷水あり秀吉公伏見御在城  
 の時常波一め玉ふとふ○通圓が茶屋ハ  
 橋の東詰ありいふ一よりゆたの入茶  
 を商ふ茶店と通圓が像あり



興聖寺

久世郡宇治川の北なり  
 曹洞宗にて開基は道元禪師あり正保年  
 中万安和尚中興して諸道は淀城主永井直  
 政の建立なり川岸より門前までを琴坂と



いし左右に櫻紅葉をうへて山吹を透垣とすの観流亭 岸の上東に亀石 同上の中宿芝心院下岸の



三室戸寺

宇治郡三宮村に在

明星山といふ本尊千手観音ハ間浮檀金の立像人宇治山の東岩瀬の水底

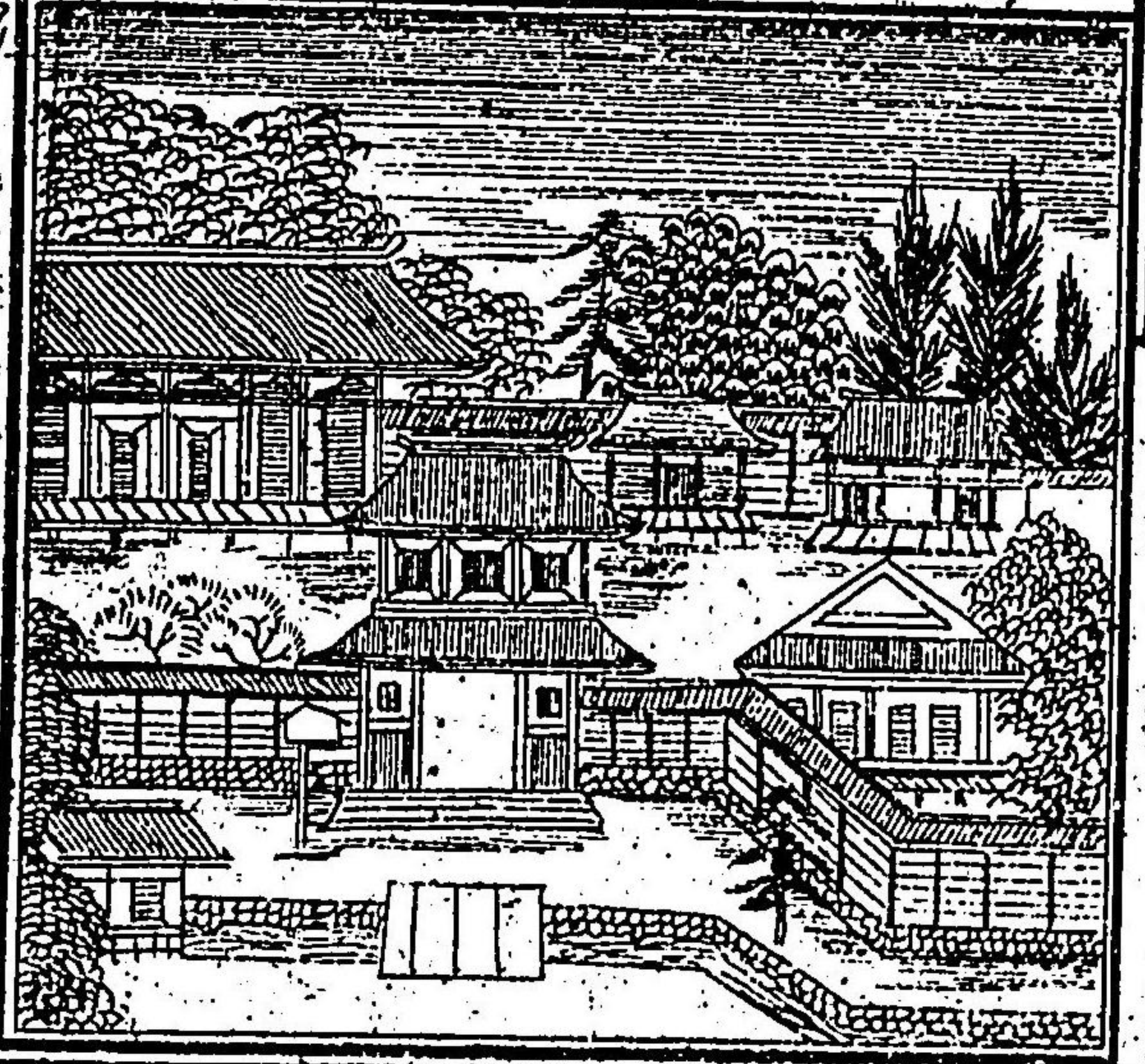


より出現すの礼河内天台宗よりて智證大師の開基

黄檗山万福寺

宇治郡大輪田村に在り

開山隠元和尚ハ大明福州の人あり承應三年に東渡し万治二年公命よりて此勝地を



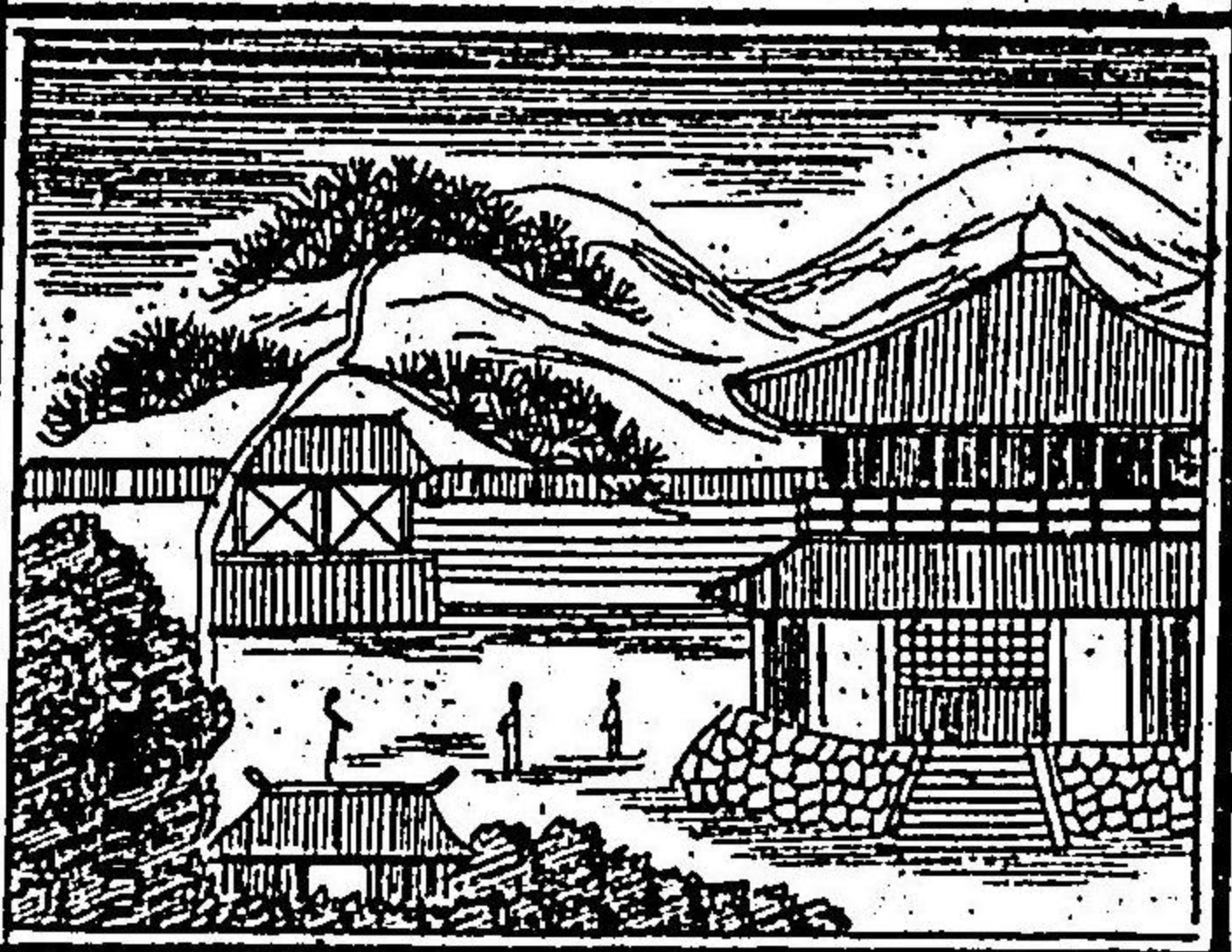
賜り寛文元年九月より伽藍を草創し精舎の経営多々ハ支那風をうつす同十三年四月後水尾上皇より大光普照國師の号を賜ふ



百野薬師

宇治郡日野村あり

東光山法界寺といふ  
本尊薬師如来運慶の  
作す像ハ丈六の  
弥陀の像を安置す定  
朝の作人世乳汁の  
不足ありもの祈願を  
あつて靈驗あり



醍醐寺

宇治郡醍醐村  
山上あり  
深雪山と号す

真言宗にて  
理源大師の  
開基之〇如  
意輪堂ハ如  
意輪觀世音



を安置す西國順礼札所第十一番人

三宝院

山上を上醍  
醐といひ麓  
と下醍醐と  
号す法務ハ  
三宝院御門  
跡と称す  
櫻の名所あり

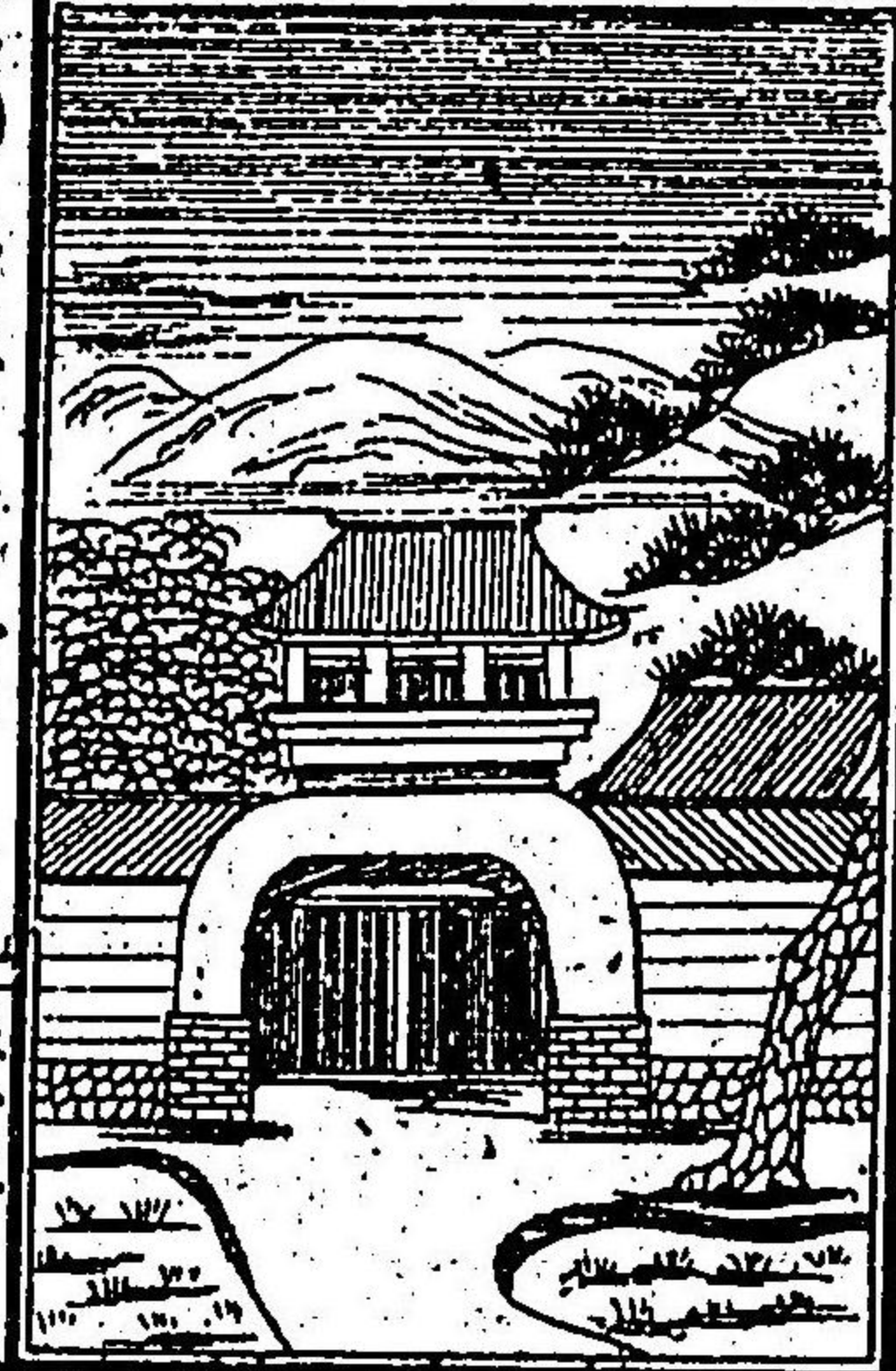


勸修寺

宇治郡勸修寺村あり  
真言宗にて本尊觀世音ハ延喜帝御等身  
の像なり

花山元慶寺

全部花山村  
あり  
天台宗本  
尊薬師如来  
僧正遍照





の作り入り皇六十五代の帝此寺より剃髪  
一玉ふ故は花山院と称し奉りし

御香宮

伊勢郡伏見城山の西にあり  
神功皇后を祭る  
御香水の鳥居の傍にあり此水よりて名とす



藤の森神社

全部深草にあり  
本殿の中央に舎人親王東ハ早良親王西ハ伊豫親王を祭る境内に旗塚蒙古塚あり



官幣社鎮座地名

下鴨御祖神社	愛宕郡下加茂村にあり
上加茂別雷神社	今 上加茂村にあり
男山八幡宮	綴喜郡八幡荘にあり
松尾神社	葛野郡上山田村にあり
平野神社	今 小北山村にあり
稻荷神社	紀伊郡伏水街道里南にあり
吉田神社	愛宕郡吉田村にあり
大原野神社	し訓郡大原野村にあり
八坂神社	京都市四茶通東にあり
北野神社	今御前通今出川にあり
貴船神社	愛宕郡貴船村にあり
白峯神社	京都市今出川通小川にあり
豊國神社	今大佛正面にあり
建勲神社	愛宕郡舟岡山にあり
護王神社	京都市烏丸通下長者町にあり
梨木神社	今寺町通廣小路にあり

祭

霊

日

加茂祭	五月五日	稲荷祭	五月七日
松尾祭	五月七日	排御祭	四月十日
今宮祭	五月十五日	御霊祭	五月十八日
八坂祭	七月廿四日	粟田祭	十月十五日
北野祭	十月四日	日吉祭	五月十四日

京都名所図繪了



明治廿七年三月五日印刷  
全 年四月十日發行

九十五

京都市上京区葎屋町通

上長者町下北菊屋町廿六番戶

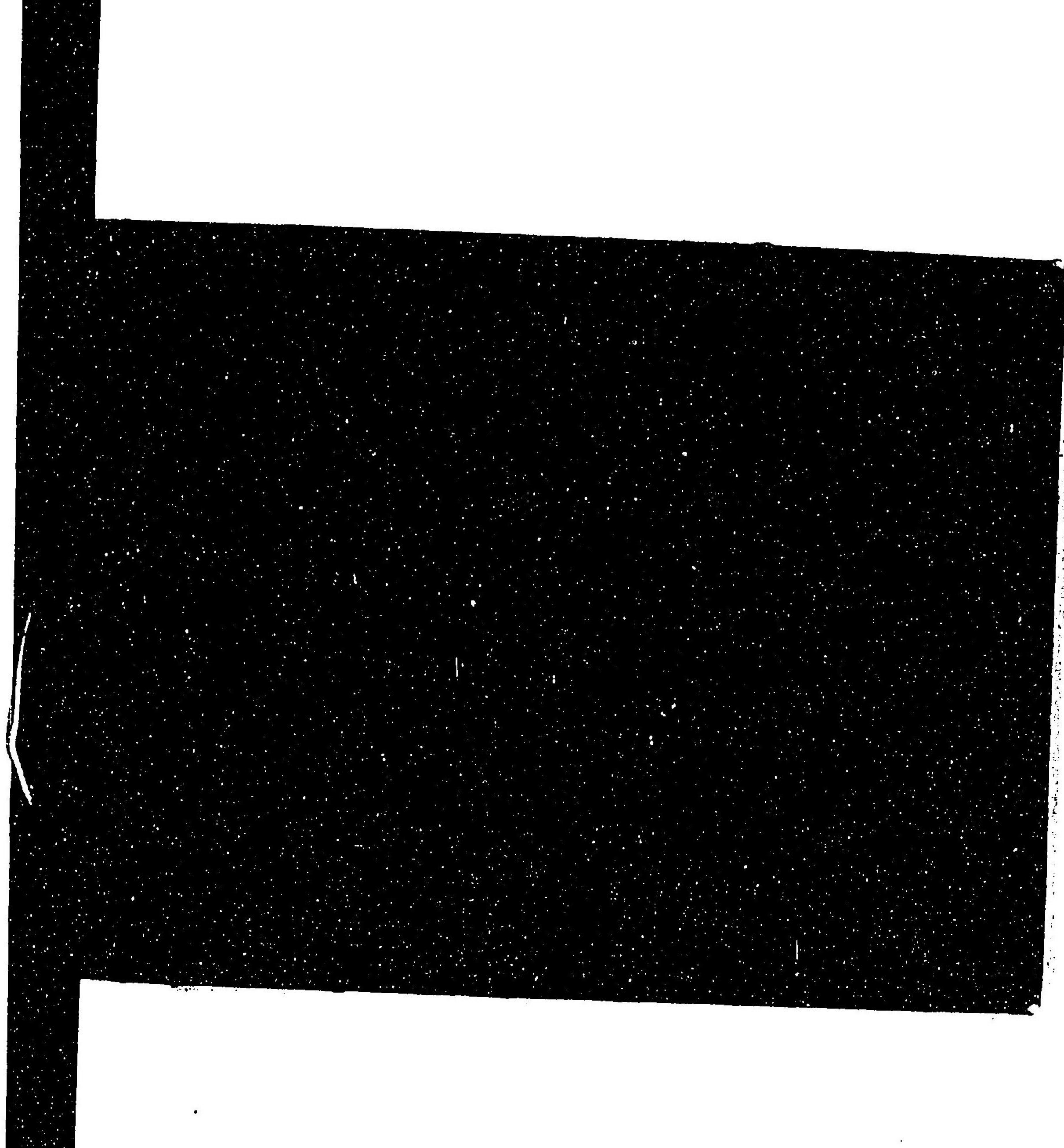
編輯兼 印刷者 松本正 造

京都市下京区富小路通  
三條下北朝倉町廿八番戶

發行者 遠藤平左工門

賣捌所 各書林中







025389-000-8

特59-1

京都名所図絵 (新撰)

松本 正造 / 編

M27

ADC-2835





特 59

1

